

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

和仏法律学校講義録

和仁, 貞吉 / 梅, 謙次郎 / 志田, 鉢太郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

2-23, 24

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

133

(発行年 / Year)

1903-09-26

和佛法律學校

和佛法律學校講義錄

號壹拾八百第

三十六年度 第二學年ノ二十三、二十四

明治三十六年九月二十六日發行

(明治三十六年十一月四日第三回定期會開會
十日十一月十五日十六日各日正午廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

第二學年 第二十三、二十四號目次

民法債權 (自第二章第二節(至二二五)同第十四節(至二六〇))

法學博士 梅 謙次郎

商法會社 (自八五二)完

法學士 志田 鍾太郎

商法會社 (至二〇〇)

法學士 和仁貞吉

商法會社

(至九一五)完

法學博士

梅

謙次郎

雜報

○商業競争ノ證據力○清算ト未拂出資ノ取立○荷爲替契約ニ於ケルヨ形ノ性質

本講義ハ其前テ講習ヲ経上タル結果會審行スルヲ以テ
本題ハ其前テ講習ノ校閲ナ經コトヲ得ス仍テ和仁學士
ノ處傳ナシ中ニテ屢々ノ校閲ナ經コトセリ而子承者也

東告

新

ミニ土地ヲ買フ所ガ其所有權ナリ又地上權ナリガ五年ヤ十年ノ後ニ消滅スルノデアル役ニ立タヌ所有權ガ消滅スレバ其建物ヲ壊サナケレバナラヌ、地上權ガ消滅スレバ建物ヲ持テ立退カナケレバナラヌ、ソレデハ非常ニ不利益デアラヌ、詰リ契約ノ目的ヲ達スルコトハ出來ヌ、サク云フ場合ガアリマスカラソレデ特別ノ規定ガアル、是ハ善意ノ買主シカ持タナイ所ノ權利、是ハツツアルベキコトデ、初カラ一部ガ他人ニ屬シテ居ルコトヲ知フテ居ルナラバソレヲ追奪セラルト云フコトハ豫期シナケレバナラヌ、ソレデ豫期シタ利益ヲ得ラレスカラト云フ、契約ヲ爲シタ目的ガ達セラレスカラ解除スルト云フコトハ言ハレル譯デナイ

此全部又ハ一部ノ解除ハ矢張リ全部追奪ノトキニ申上ダタ解除ト同ジ譯デ、時トシテハ損害賠償ヲ請求スルコトガ出來ル、時シテハ請求スルコトガ出來ス、詰リ一般ノ原則ニ依テ損害賠償ノ取レルトキデナケレバ損害賠償ヲ請求スルコトハ出來ス、唯其代金ノ一部ヲ返スト云フヤウナ場合ニハ之ニ利息ヲ附セ子バナラヌト云フヤウナコトモ矢張リ解除ノ一般ノ規定ニ依ル第五百六十三條

090

1903

2-1-23.24

メセ土地ヲ買フ所ガ其所有權ナリ又地上權ナリガ五年セ十年ノ後ニ消滅スバ
人形不燃物役ニ立タス所有權ガ消滅スレバ其建物ヲ壊サナケンバナラヌ地上
權ガ消滅スレバ建物ヲ持テ立退カナケンバナラヌレバ非常ニ不利益デアラ
テ、諸ノ契約ノ目的ヲ述スルヨリヘ出来スガソ云之場合ガアリエスカラソレヅ
特別ノ規定ガアル、是ハ善意ノ買主シカ持タナイ所ノ權利はハナツアルベキ事
トゾ、初カラ一部ガ他人ニ屬シ居ルコトス無チ居ルカラバソレア追客セラバ
ルト云フコトハ豫期シナダレバナラヌ、ソレテ豫期シタ利益ヲ得ラレスカラト
云フテ、契約ヲ爲シタ目的が達セラムシカク解除ス所開云フコトハ言ハレル譯ブ
カ本體頭文承認シテ、實業團體大會並入買主委員会開設を求ムモリ此出資團體
此全部又ハ一部ノ解除ハ矢張是全部追客ヘトキ附申上グ外解除同ジ譯ズ時
トシテハ損害賠償ヲ請求スルコトガ出來バ、時日遅スヘ請求スルコトガ出來バ
諸ノ一般ノ原則ニ依テ損害賠償ノ取レルトキデナケレバ損害賠償ヲ請求スル
コトハ出来ス、唯其代金ノ一部が返ス所云フヤウナ場合ノ之ニ利害ヲ附セテ
バカラズト云フヤウガコトモ矢張り解除ノ一般ノ規定ニ依ル第五百六十三條

ノ第三項ニ此意味ヲ明カニス成爲ノ要領ヘ一難ヘ財産ニ對する事五百六十二
代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除ハ善意ハ買主カ損害賠償ノ請求ハ爲スコト
謂ハ妨ケヌ、且用ニ當て財害並第ニ單ノモナシテ安セムハ財害種類を觀察入
ド規定シ外居ノ妨ケヌ第云フノハ他則原則が出來ルニ精次意的ニ出來ル
云フヨリア明ガニ要領爲未だ越ニ掲外アル全部追奪ノ場合ノ如き惡意ノ買
主ハ賠償ヲ求ムルコトハ出來ス、善意ノ買主ダケハ賠償ヲ求ムルコトガ出來ル』
一部追奪ノ場合ニ於ケル賣主又擔保義務短キ期間ノ經過ニ因テ消滅スルコ
トニナマク居ル其譯ベ『一部追奪ノ場合ニ於テ之種種ノ事實問題ガアラソレヲ
調査ジナケレ原ナラヌ即チ追奪セラレタル部分ノ殘存シテ居ル部分ノノ割合
如何ト云フヨリヲ先づ以テ定メ大ケルナラヌ是ハ土地其他數量ヲ以テ區分
スルゴトが出來ルモノ即ナ土地ノ如キハ何町歩或ハ何千坪ト云ヒマスルト、一
坪幾引、反步幾引ノ割合ト云テ價ヲ見積ルヨドガ出來マスカラナツ云フ時ニ
ハ格別而倒モナヤウデアルガ前ニモニヨク申シタヤウニ土地ノ如キモナブ
モ市街地ナドハ表坪ト裏坪テ以テ價が違う高低ノアリ土地并ア所ト精セ平九

ル部分ハ價ガ高ナリ即モ崖外ヤウナカニ居ル處ハ價ガ高ニト麗テアル事例云
フヤウカニヨトガアル、其割合ノ見積ルノ云フヨリハ餘程困難アルソレカタ又
土地ト建物ト人所有權ヲ合セテ賣渡スヤウナ場合ニ其中ノ土地又ハ建物ダケ
ガ他人ノ所有デアルト云フヤウナ場合ハ矢張リ一部ノ追奪ダアリマサガ、土地
ノ價ト建物ノ價ト云フヨリハ餘程之ヲ評價スルノガ困難デアラウト思ヒマス、其他
種種割合ノ定メ難イ實例ハ生ジテ來ルコトデアラウト思ヒマス、然ルニ賣買ノ
當時ニ於テスラ之ヲ評定スルニ例ヘマ部萬圓ト云フガ追奪セラレタル部分
ガ例々二千圓ニ相當シテ残ラテ居ル部分ガ八千圓ニ相當スル、イナツヤデナ、
三千圓ト七千圓トノ割合デアルト云フヤウナコトニ付テ隨分ムヅカシイ問題
ガ生ジテ來ルダラウト思ク、況ヤンレガ數年ヲ經テナラバ殆ド分次
ナクナクテ仕舞ス、建物ノ如キハ段段形狀ガ變ラテ來ル、土地デモ随分形狀ガ變リ
得ル事半載至過十載立て其外を觀る事無キ、其外を觀る事無キ、其外を觀る事無キ
ソレカラ又今一ノ困難ガルコト、若シ殘存シテ居ル部分納拂ナラバ買主が買
ハナカウタデアラウ詰リ買ラセモ復ニ立ダヌト云フトキニハ契約ヲ全部ヲ解除

ヲ爲スコトガ出來ルト申シマニハ、此事實ガ又隨分證明シ難也。モノガアリテ、別ト考ヘバ、契約當時デモ餘程其證據ヲ舉ゲルト云。不外此外、困難ガアラカリ思致。ニ數年乃至數十年立ラバ益一分リ惡クナフテ來ルデアラウト思フ。ソレガ爲メ非常ニムヅカシイ訴訟ノ起ル處ガアリマスカラ。是ハ成ルベタ早未踏求ヲカス。方ガ宜シホト、斯ウ云フ精神戒極大短い所の期間が定メアリ、即チ第五百六十四條ニハ其期間ヲ一年トシヌアリ。又之ナロイナキ者モ、前後ヘ又カム事例故也。第五百六十四條前條ニ定ムタル權利ハ、買主が善意ガリシトキハ事實ノ知當利リタル時ヨリ、惡意ナリシトキハ、契約有時ヨリ一年内ニ之を行使スル。即チ、要ス。或は要ト宣聞ヘ事実を來ルト。又家屋を賣る事は、無事ニ賣却セキ。知テカラ一年、サウジテ惡意ナリ。若權利人一部ガ他人ニ屬シテ居ルト云。即チ初カラ知フテ居ルアズカラ。契約ノ時カラ一年モ打棄テ置クナラバモ。此請求権ヲ抛棄シタモノ間見テ宜シキト。法律ハ斯ウ云フ者デアバ、尤モ此規定。是ハ時效ノ規定デハナス。諸君や第一學年ニ於ク時效ノ講義ヲ御聽セニカツダアラウト思ヒマスガ、我民法商法等ニ於クハ時效ハ必ず特ニ時效ト云。ノ居ル、或期間ミ

經過ニ因テ権利ガ消滅スル場合デモ、猶效ト云フ文字未用無事ナオ場合ニ、則権律上ハ時效デナシ。學者ノ通常唱ヘシ豫定期間ト云。不モ別到アリ。即チ或權利ヤ初ヨリ例ヘバ一年間ダケ行使スルト。ノ出来ハ、性質人セシムアリ。時效ニ因テ消滅スルノデハナイ。初カワタク云フコトニテ、ント極少居ルセハアリ。ノ、從テ時效フノガ既定期間ノ性質。此一部追奪ノ場合ノ期間モ矢張リ少レアリ。從テ時效中断、或ハ時效停止ナドノ規定ハ之ニ當候。テコトハ出來ナシ。併カガラ此規定ガ時效ニ關スル規定ノ適用ヲ妨グルノデハナイ。是ト兩立スル範圍内ニ於クハ時效ノ規定ミ候ル即チ普通ノ時效ガ候ル。即チ財產権ノ普通時效ハ二十年即チ此處デモ二十年ノ時效ニ因フテ此権利ハ消滅ス。此ニテアリ。斯多申スト。諸君ハ一年テ消滅スル権利ダカラ、ソレガ二十年ノ時效ニ因テ消滅スル旨云。カコトハ想保スルコトガ出來スト。言ハ風ルカモ知レヌガ、無論ソレハ稀ナリ。但アバ、稀ナコトデアルガ絶対ト云ヘナキ。買主ノ善意ナルトキハ事實ナキ時カラ一年ト云フガニ十年間事實ナキラナナカトガアル。極メ少稀ナ場合ダアルガ、ナウ云フコトハアリ得ン。サウスルト云。ワト契約ノ時カラ二十學年經マス。

ト総合第五百六十四條ニ依ヌテ、消滅シテ居ラニアモ時效ニ因クテ消滅スル、無論極ク稀ナ場合デアル。物ヲ占有シテ居ルト取得時效ノ利益ヲ得ルト者惟ニカ云フコトニアリマスカラナタ云フ事ニ滅多ニシナイガ、併シ疊烈ナリトト言ヘスデス。契約後時經テカラ占有ヲ爲スヨトモナバ、ナシルベト云ハシテ取得時效ノ原則ハ二十年デスカドテウスルト取得時效人ニ外成就シカ未申ニ消滅時效ガ成就スルコトガアル、ナウスルト追奪ヲ受ケル、追奪ヲ受ケテ而後賣主ニ向テ最早擔保ノ責任ヲ負ハスナリハ出來ヌト。斯カ云フコトニ尤極細致ヘ二十字也。此事ハ疑テ起リサウナコトダカラ書イテ置イテ宣ササクナコトガアル例ヘバ、第一百二十六條カドニモ短同期間ノ権利ノ消滅スル場合ガアル、並ミテナシノ普通ノ時效期間ノ適用ノアリ。斯カ書イテアリ、但百二十六條ニ取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時效未因クテ消滅スル行爲ノ時ヨリ二十年ヲ経過シタルトキ亦同シ。斯カ書イチアルジガラ第四百二十六條ニモ「第四百二十四條ノ取消權」有權者ガ取消ノ原因ヲ覺知シテ廻時ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキ時效ニ因クテ消滅スル行爲既時ヨリ二十年余ノ經過

シタル兼處亦同シ。斯カ書イタアル、並レ第百七百三十四條ニセアカ、是其不法行爲ノ場合不法行為ニ因ル損害賠償ヲ請求權ハ被害者又ハ其法定代理人又ハ損害及ヒ加害者ア知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因クテ消滅ス不法行為既時ヨリ二十年ヲ経過シタルトキ亦同シ。斯カ云又規定ハ第九百六十六條ニモアツマス、ナゼソシナク此處ニセナウ云フ規定ヲ置カナオカ、畢竟ナルヨク。モ契約ノ時ヨリ二十年ヲ経過スル後最忌其權利ヲ行使スルヨリガ出来ナ。イト云フコトガ他ノ例ニ倣ブテ書イテアリサウナモノダガナセ書イテナイカト云フ疑ガ起リサクデスガ、本條ノ規定ハ時效ノ規定デナインマデ私ガ引オタ簡蘇ハ皆時效ノ規定デス。デスカラーワタ時效ノ規定ガアツテ是ハ例外規定デアノ、普通時效ノ一般規定ハ候ラヌ規定アラウエ云フ疑ガ必ズ起ルソレラタウダハナオ矣張リ普通時效モ候ルト云フナレラ言フ必要ガアルカラ皆ヘ「斯カアリ此處ノ時效ヲナイカラ」理論上テク云フ疑ガ起ル時告ガナイソレカラ尚未附加ヘテ申シマス前例ノ場合ヨリモ此處ノ場合其尙更立十年ノ時效未適用ナント云フモス。減修ナオ外ノ揚谷ハ比較的頻繁ダアラウト思フ。例美引

イタ三ツ又場合大に然雖分三十年間權利が成動的而居ルト云フヨリ既此統的
類繁テアラウト思フ、取消權人時既ソレハ三通り不外普通取消權ト債權者
取消權固テ廢能訴權、ソレカニ不法行為ノ場合ノ損害要償權ナ云フヤウカモク
ハ隨分二十年間モ存続ノ居ル事トハ史タ珍シイエトダニカラウト思フ所ガ
此處ノ場合ニ殆ド適用メナイント、實際ナイト云マフ宣セイ、テアルカラ旁、テ
ウ云オ規定ヲ置ケ必要ガナリト認メタノデアハ、此終末ノ附隨ノ理由ダアリ
マスナカニ、誠ニ該ニセキ次々又本封ハ該家ハ諸端ノ異常モト合テ安堵モ
以上フ以テ純然タル一部追索ノ御話ヲ終リマシタ。ナヨ、セ、セ、セ、セ、セ、セ、セ、
次ニ數量不足及ゼ、一部滅失ノ場合ニ於ケル擔保義務是ニドウ云オ場合ダアル
カト云フキ土地ナドガ適用ノ多イ方ダアラウト思ヒマスガ、千年アギト云、テ賣
地所ガ後ダ調ベテ見クナバ九百坪シカナカタト云フメガ數量不足ナンドガ
又ハ此倉庫這入フテ居ル米ヲ全部載ラ葉ラズナ買乙ト云、タ所ガ其米ハ十石ア此
ト云フタノニ九石シカナカタト云フサウカ場合アカルジンカラ一部滅失ト云
フノハ無論賣買契約が成算シテカラ後ニ滅失モタロトテ云フノゲハ大不當場

合ハ割ニ擔保義務モ何ニ無ナシ、契約動合既に滅失シテ居ラムシテ知ラナオイデ買
タ場合此ニツノ場合ハ通常小擔保義務トシヲ論ジラ居ラヌメシク佛聞
西鉄系火國ダヘ大抵是ニ擔保ノ問題ナシテ居ラヌケレハモ數量不足ハ是ハ一
ノ懸レタニ理統ト云フテ宜シイナカカ土地ヲ廣クナカ或ハ莫大シ某ナドア
コト見ク所デ分量ノ分ルモノダナキ、割セ五分少クテモソレハ分ラヌコトガ
多イ故ニシテ知ラズニ買フタト云クタ買主ノ過失デナルト、必ズシモ言人
ナイ先ヅ以テ賣主ガ嘘ヲ吐イタノガ惡イ、フレハ矢張リ買主ノ爲メニハ懸レタ
ル理底デアル、現ニ獨逸法ナドガハナツ云ク主義ヲ採用シラ居ル理論上誤私ハ
タレガ正シオト思フ、一部滅失ノ理論上ハ所謂擔保問題デハナシ、從來言ハ擔保
義務ト之性質ガ違フ、ケレドモ酷似シタルモシダアル、普通謂フ所シ「一部追索」
云フモノハドンナモノアフル、其中ニヤ賣主ガ昔例ハ六千坪ノ上ニ所有權持特
テ居ラタソレラ賣主ノ先代ガト部分入ニ賣ラ居タ例ハ六百坪ダクハニ賣ラ
居タ、其事ヲ相續人タソレ賣主ハ知ラナシテ、タシナク矢張リ千坪ヲ賣ルト云フコ
トアリ得ル、其場合ニ於クノ所謂純然タル一部追索ガアル、百坪ダクハ付ラフ

追奪ガアル、ケレドモ其場合ト所置一部滅失ノ場合トハ性質上殆ド同ジキシズ
アル、一方ハ權利ダ契約前ニ「滅消滅シテ居ツタ、一つヘ物ソレ自身ガ一部滅失シ
テ居ツタ、ケレドモ賣主ノ身ニナツカ考ヘテ見ルト同シコトデアル、矢張リ千坪ミ
土地ヲ買ハウト思フテ九百坪シカ買ヘテカラク少シモ幾ルニトシナム、尙ホ
進ンデ論ズルト賣買ノ目的ハイヨモ權利デスカラ千坪ノ上ノ土地ノ所有權ト
云フモノヲ買ツタ所ガ其中百坪ハ歸于他人モ屬シテ居ルト云フノテ詰リ九百坪
ノ上ノ所有權シカ得ナム、其場合ト千坪ノ上ノ所有權ヲ得タ積リズアタ所ガ其
中百坪ハ既ニ滅失シテ買フコトヲ得ナカッタト云フ場合ト同シコトニ才
バ、ソレ故ニ從來ノ沿革如何ニ拘ヘラズ少シモ矢張リ擔保ノ範圍ノモノト有夫
規定スルノハ決シテ不當ナセノデナカラウト思フ
ソヨゴ我民法キ於テハ此點ハ舊民法ト違ヒマスガ、此二ブノ場合ヲ矢張リ一部
追奪。次ニ規定シテ一部追奪ニ關スル規定ヲ賣買シテ物カ不足ナル場合及ヒ物ノ而
第五百六十五條合數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ不足ナル場合及ヒ物ノ而
合ヘ都カ契約ハ當時既ニ滅失シタ所場合、或於テ買主カ其不足又ニ滅失ヲ知リ
合ヘ都カ契約ハ當時既ニ滅失シタ所場合、或於テ買主カ其不足又ニ滅失ヲ知リ

サリシトキハ前二條ノ規定ヲ準用スルノ外又ハ前二條ノ規定ノ外更に別途
此場合ニハ知フテ買ツタ場合ハ除キテアルソレヘタクカタスヘ叶ハズ、初カラ九
百坪シカナオト云フコトヲ知リナガラ賣主ガ千坪アルト云フナカトト云ツテナレ
ヲ駆フテ買ツテ置イテ、サウシテ後カラモ千百坪寄越セト云フコトハ殆ド詐欺同
様ナ詐デアルカラサウ云フコトハ言ヘ若シ九百坪デオカヌナカ断ラ大然
レバカラス、或前ハ千坪アルト云フガ調ベテ見ルト九百坪シカナイ、カラ例ヘ
メ是ハ買ハヌトカ又ハ代價ヲ幾ラ負ケロトカ、初ニ談判シテ置カナケビシナラ
ス、ゾレヲ初ニ黙ツテ買ツテ置イテ後カラ負ケロト云フノハ殆ド詐欺キ均ジト、一
部滅失モ亦然リ、千坪ノ中百坪ダケハ海嘯テ持ツテ行カレタ久遠モ居ルノヘ九百
坪シカナイト云フコトヲ知リナガラ賣主ガ千坪ト云フタカラト云ツテ駆フテ買
タ、ウシテ後デ千坪寄越セゾレヲ寄越ナスカラ負ケロト云フ御事ハ是也
詐欺同様デアル、然モ本條ノ規定ニ對シテ或ハ駆擊ヲ試ミラルカセ知レスト思フ、一部滅失
ノ場合ハ姑ク指テ數量不足ノ場合ハ性質ガ瑕疵擔保デアル矣云フ以上ハ後述

瑕疵擔保ニ關スル規定ガアルカモソレヲ適用シサタナセアル然ルニ一部追奪ニ關スル規定ヲ準用スト云フノハ理由ノナイコトニナカト斯ウ云フ取扱ヲ試ミラル方ガアルカモ知レスガ、是ハ答辯ヲスルノニ難作モナイコトデアル、理論上ハ如何ニモ瑕疵擔保ヲアルケン旨モ立法者ハ唯理論上ノモ拘泥シテ規定ヲ設ケルモノハナキ、當ニ實際ノ便宜ニ云フコトヲ考ベテ居マスカラ此場合ニハ實際ノ便宜上一部追奪ノ規定ヲ單用シタ方ガ宜シト考ベタカラソレニ瑕疵擔保ニ關スル規定ハ適用シナイ、ソレハ又ナゼガト申メト後ニ詳シタ説明ヲ致シマスガ瑕疵擔保ノ場合ハ第五百七十條ニ規定シタアル、詩ル所契約ヲ全部解除スルカ又ハ單ニ損害賠償ヲ請求スルガ此ニツシタルガ如ク私人信ズル所ナヘ詰リ契約ノ一部解除ト云フモノガ許シタアル普通ノ言葉テ言ノ代金減額權ト云フモナテ認メテ居ム、是ガ瑕疵擔保ノ場合ニハ適用シ難イ、器械ニ知レナ不損所ガアル、其損所ト云フモノガ器械全體ノ價ニ較ベテドレダケト價値ガアルカ、理論上ハ言ヘマセウガ、ソレハ分ノモノダニノゾノダニ、損ヲテ居ルト云フノガ丁度總體ノ價ノ十分ノ

一ニ相當スルカ五分ノ一ニ相當スルカト云フヨリトハ、チカナカ分ラナイ、デアルカラ此場合ニハ單ニ損害賠償……而ミ全體解除ラシナ本場合ヲラ單ニ損害賠償トシテ請求スルヨリヲ許ス、即チ器械ガ完全デアル次ニ萬圓ノ價ノアル器械デアル、一處肝腎ナ處ニ損處ガアルカラソレヲ直ナヌト後無立タ共、直スニリジダケノ費用ガ掛ル、即チソレガ損害デアル、之ヲ賠償セシムル又其費用ヲ掛けテ直シテモ到底無疵ノ物程ニハ價ガナイト云フナ、既其上出ドテ位ノ損害ガアルト云フコトヲ見積ヲ賠償セシムル以外ナシ、却テ其方ガ樂デアル、全代價ノ何割ト云フヨリカ却テ其方ガ計算シ易イ之ニ反シテ一部追奪ノ場合デアルト多クハ數量デ分ル、千坪ノ中百坪足ラヌト云フト直グ歩合ガ分ヲテ來ル、留基表坪、裏年ノ隔別ガアルトシテモ其追奪セラレタル部分ガ表坪デアルナラ幾々、裏坪デアルナラ幾々ト云フ評價ガ直ナシ出テ來ル況キ共有權ノ場合ノ如半ハ完全ナ所有權、即チ專有權デアル主思フテ居テノガ共有權デアル、即チ共有權ト云フ以上ハ二分ノ一トカ三分ノ一トカ云フヤウニホウシ上分數式割合ガ出テ寒ク、此場合ニハ代價又割合ト云フモノ専直ギニ出テ來ル、尤モ半分ノ契有權が完全ナ

此ノ半分ノ價アリマス。又、專有權ヨリ賃借ガ矣。未だ達ヒ方イ
ケレドモ先づ基ク標準ガ一フアル。——理論上カラ云フタラ環衛擔保並同シテ、私
ヲ宜不詳ダアル矢張リ環衛擔保モ無形ニ物メ一部ガ足スルノアハ、ソレデモ次
ラ矢張リ一部追奪ノ規定ヲ適用シテモ理論上差支ナカガ、實際上不便デアルカ
ラ此ノ如クナフ居ル今度ハ數量不足ノ場合ハドウカト云スト。是ニ先程モ申
ス通り事實ハ一部追奪ノ場合ト條程能ク似テ居ル性質ハ成程環衛擔保之場合
デアルセト云フ方ガ正シオテアリマセウガ、實際ノ形ニ第一部追奪ニ近イ。是
千坪アリト云フタノガ百坪足ラナイト云スヤウタノ鹽梅ナヌルト通常ナラ一割
代價ヲ減ラセバ宜オト云フコトニナフテ極ク正シタ割合ガ出テ來バ、デノルカラ
千坪ニ對シテ一萬圓ト云フナラバ百坪足ヌ故ニ三百坪ノ價ヲ減ジテ九千圓ト
云フ風ニ直グ計算ガ出來ル。從テ單ニ損害賠償ト云フト、常識アル裁判官ハ同じ
標準ニ據ルデハアリタセウガソレニ據ラナクヲ差支ナカガバ、裁判官ガ少シ
ク數理ニ疎イ人アリトドンナ損害賠償者標準ヲ定スルカ分ラヌ、斯様ナル次
第デ數量不足ノ場合ニモ一部追奪ノ規定ガ單用シテアル。

是ガ追奪擔保ノ個スル第三ノ點デアリマス。又、未だ達ヒ方イ
次ニ、是ハ理論上カラ言ヒマンタラバ矢張リ一部追奪ト云ヘナキトハカカズ
ウト思ヒマスガ併シ普通ノ言葉デ云ヘバ賣買ノ目的物ニ負擔ノアル場合アリ
バ、甚負擔ト申スノア如何ナルモメデアルカト云フト地上權、永小作權、地役權、留
置權、先取特權、抵當權、ソレヒ賃借權、ソレダクガ茲ニ謂フ所ノ負擔デアル。其
中ノ一ガ存シテ居ルト云フト賣主ヘ賣主ニ對シテ擔保義務ヲ負フト此處證書
第五百六十六條第一項、賣買ノ目的物カ地上權、永小作權、地役權、留置權又ハ
本賣權ノ目的タル場合ニ於テ賣主カ之ヲ知ラカフシトキム之を爲ムニ契約
契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能クサハ場合ニ限リ賣主ヘ契約ハ解除ヲ爲
目論スコト不得其他不場合ニ於テハ損害賠償人請求ハシムハ爲ス。即ち得
益ニ帰ダガアル所人権利ヘ殆ド皆出云フト宜有多々占物大占有ヲ要素トスル所
ノ物權デアル占有ヲ爲サザル場合ハ殆ド地役權アリ無人ダケズガソレハ
古有リ爲サズ後モ矢張リ類似之權利デアル例ヘテ通行權始終自分ノ知リナシ
人方通行スル施設ニ不愉快デアル從カソレが土地又價半賃月々減ズル、宅地ガド

ニアムト餘程減ズル、其他ハ大抵賣占有ヲ法律上又財事實上ノ要業ニモアルト居ルト
街置權、賃權メ如キハ法律上之ヲ要業トシテ居ル、斯様ガ所權利ガ存シテ居ルト
云フ所賣主ハ其買受タル物ヲ所有者ト狀ナリ分ニ利用スルコトガ出來ヌ占
有ナヘモ出來ヌノデスカラ使用ガ出來ナリ收益モ出來ナシ、況ヤ他人ノ權利ノ
目的トナフテ居テ處分ハ出來ナシ(物之處分モス)ソレハ殆ド所有權ヲ賣受ケ
タ甲斐ガナシ、故ニ若シ之ガ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコトガ出來ナ
イナラバ例へバ其土地ニ直アニ家ヲ建テヤウト思フタガ地上權者之地上權ヲ
持フテ居ルカラ所有者ニ於テ家ヲ建タルコト勞出來ヌ耕作地ヲ賣入レタ直ニニ
耕作ニ從事シヤウト思フタガ永小作權ガ存シテ居フソレガ出來ナイ、其他類推
スペキヨトデアリテスガサウ云フヨトデ詰リ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコ
トガ出來ヌナラ賣主與契約全部ノ解除ヲ爲スコトガ出來マス併シ場合ニ依
ツハサウ云フ權利ガ存シテ居テモ爲メニ買受ケタル物ガ何ニモナラヌモ云フ
カトナリ猶未知レバ、ソレハ今直ニテ其土地ニ家屋ヲ建テ住居シヤウト云
ク部デモナシ、自分ガ自ラ其土地ヲ耕作シヤウト云フ考デニナイト云フヤウナ

場合ニハ地上權、永小作權等ノ如キ權利ハ存シテ居テモマルズ役ニ立タスト云
フコトニハナラズ、數年ノ後ニハ此等ノ權利モ消滅ズル、ソレカラ地代、小作料ガ
取レルカラソシナニ不利益デハナイト云フコトガアリ得ル、ソンナ場合ニハ單
ニ損害賠償ノ請求ダケワ許ス、斯カ云フ權利ガナイト思フテ買フタナケレバ一萬
圓ノ價ガアル、所ガ斯カ云フ權利ガアルトソレダケ土地ノ價が減ル、或ハマルデ
役ニ立タヌメハナイガ、買主ハソレガ爲メニ損害ヲ受ケルト云フヤウナコト
ガアリ得ル、其トキハ損害賠償ヲセル、ドウモ此場合ハ純然タル一部追奪ノ如
ク一部ノ解除ト云フコトハムヅカシイ、成程地上權キ永小作權ナドハ所有權ノ
支分權デスカラ理論上ハ確ニ一部追奪ト云ヘルノデスケレドモ地上權ノ價ヲ
除イタ所有權ノ價ト云フモノハ分リ惡イカラ寧ロ損害賠償ヲ爲ナシメタ方ガ
宜シイト云フノズサウ云フコトニナクタ
此場合モ賣主ノ善意ナルコトヲ要スル、要意ノ賣主即チ賣買ノ當時ニ斯様ナル
權利ガ存シテ居ルト知フテ買フタ者ハ此ニ規定シテアル權利ヲ持タス、是ハ當然
ノ事デス、知フテ歟、テ買フタノガラバサウ云フ權利ガ存シテ居テモ利益アリト

信ジタカラ買フタニ達ヒナイ、復ニ立タヌト思フテ買フタノデハナイニ達ヒナイ、ソレア後カラ俗ニ申スト「小便ヲスル」ト云フノハシ宣シクナ、何斯様ナルコトハ決シテ許サス、若シシタク云フ考ガアルカラバ賣買前ニソレヲ言バナケレバカラズ、販ヲ買フタナラバ其トキハ斯様ナル負擔ガアツモ差支ハナイト云フ意思デアヘ、否差支ガアツモ返スト云フコトハ出來ス、損害賠償ヲ爲シジムルド云フコト、者出來カズ、是ハ當然ノ事ト考ヘマス。且亦イタム、此規定ハ賣買ノ目的タル不動産ニ付テ登記シタル貨貸借ノ存シテ居ル場合ニモ準用セラル、後ニ詳シタ論ジマスガ、貸借権取テ貨貸借契約ヨリ生ズル貨借人ノ權利ハ新民法ニ於テハ債権トシテアル、物権ト見テナイ故ニは原則トシテバ、貸主即チ貸貸人ダケニ對スル權利ズアツテ、第三者ニ對抗シ得ラル、權利ハナリ、云ナガラ法律ハ此質借権ヲ特ニ保護スル爲メニ不動産即チ土地建物等ニ付テハ之ガ登記ヲ許ス、一旦登記シタナラバ其權利ハ之ヲ以テ第三者ニモ對抗スルコトガ出來ルト云フヨリ、三ナオニ居候即テ第六百五條ニ規定シテアル者ニハ應止無事小者無事、或チ財産の有る大業者ナカニ當ニ立タル者ニ

ソコデ其登記シタル質貸借ノ存スル不動産ノ上ノ所有権ヲ取フタ、買フ者モソンナ貨貸借ノ存シテ居ルトベ知ラズニ買フタ、登記ヲ見レバ直グ分ルノズスカラ買主ニ疎漏ノアルコトガ多イケレドモ歎シタノハヒドイ賣主自身ガ知ラヌト云フナラ買主ヨリモ過失ガアル、故ニ買主ト賣主トデお賣主専方ニ責任ガ多イ、況ヤ登記シタル權利デモ登記官吏ノ過失ニ因フラ、第三者ニ知レナコトガアル例ヘバ、登記簿ノ原簿ヲ見マシテモ素人ニハ分ナリ難イ、トガ多イカラソレデ必要ナルトキニハ勝本又ハ抄本ヲ買フ、サウスルトソレガ證據ニモナラ便利デスカラ、大抵ナクスル所ガ登記官吏ノ粗漏ニ因フテ其勝本若クハ抄本ニ貸借権ノ登記ガ漏レテ居ラタト假定シマス、サウスルト買主ニ少シモ過失ハナイ、質貸借ノアルト云フコトハ知リヤウガナシ、併ナガラ明カニ登記シタ権利ダカラ質貸借人ノ方カラシテ對抗シテ來ルソコデ擦保問題ガ起ル、（此處に引いて置く）質買ハ日向此質借権ハ債権デハアリマスケレドモ斯タ第三者ニ對抗シ得ラル、即チ買主ニ對抗シ得ラル、權利デスカラ權ト變ルコト極ナリ、地上權、永小作権ト殆ド同ジデアル、ソレデ矢張リ少クモ一種ノ一部追索廣イ意味ニ於ケル一部追索デ

アル、詰リ所有者ノ権利ガ一部喪ガレテ居ルト云フニコトガ言ベル、一清良義文第五百六十六條ニ規定シテアル追奪ノ場合ハ一部追奪ト云フベク、即チ初ニ申シタ賣買ノ目的物ニ負擔アル場合ト云フノハ是ダケデス、所ガ茲ニ一ツ法文ニ、一緒ニ併セテ規定シテアルモノガアルゾレ、何ダアルカト云フト、賣買ノ目的タル不動產ニ地役權ガ附隨シテ居ル、例ヘマ其不動產ニ井戸ガガイケレドモ隣ノ地所ニ存シテ居ル井戸ノ水ヲ汲ム権利ガアル、則チサウ云ヌ地役權ガアルト云フノデ買ヲタ所ガソレハ唯アーフア、或ハ昔ハ存シテ居ラタガ、其権利ハ既ニ消滅シテ居ラト云フヤウナコトデ詰リ地役權ダケラル、此場合ニ於テギ矢張リ一部追奪ト云ヘルノデス、詰リ完全ナル不動產ノ所有權ト、ソレトノ地役權ト併セフ一定ノ代價ヲ以テ賣買スル、例ヘバソレダケフ、一萬圓ナラ一萬圓トシテ賣ラタ、然ルニ其地役權ダケナイト云フナラバ千坪アル地所ト云フノデ賣ラタノガ九百坪シカナイ、九百五十坪シカナイト云フノト同ジデアル、賣買ノ目的タリシ權利ノ一部ガ買主ニ移轉スルコトガ出來ナカタノデアル、此場合ニ於テハ矢張リサツキ申上ダタ第一項ノ規定、ソレガ爲メ役ニ立タスクレバ契約ノ

二
本

二

全部ヲ解除スル、左セナケレバ單ニ損害賠償ヲ爲サシムルト云フコトニナツテ居ルト、一清良義文第五百六十六條第二項、前項ノ規定ハ賣買ノ目的タル不動產ハ爲メニ存セシムト、一清良義文ハト稱セシ地役權カ存セナリシトキ及ヒ其不動產ニ付キ登記シタル貲貸、借アリタル場合ニ之ヲ單用ス、一清良義文此ニ規定スル權利モ元來性質上ハ純然タル一部追奪ノ場合ノ權利ト同ジモノデアル、從テ丁度一部追奪ノ場合ニ於ケルガ如タ短き期間ノ經過ニ因フテ此權利モ消滅スル、一清良義文此後、事實上は該地役權を賣買主に付託する事無く、一清良義文此ノ規定第三項、前二項ハ場合ニ於テ、契約ハ解除、又ハ損害賠償ハ請求ハ買主カニ、事實ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス、一清良義文其買主カニ付託する事無く、一清良義文此期間が既定期間デアルト云フコト從テ之ニ時效ノ規定ヲ適用スルコトガ出

來スト云フコト並ニ此規定ト並行シテ純然タル時效ノ適用ガアルト云フコト上

ミ總ヲ前ニ申上グタ所ト變ル所ナフリマセス

是ガ賣買ノ目的物ニ負擔ナル場合ノ一部分デアル、今一類類ノ負擔ノ事ハ
第五百六十七條第一項賣買ノ目的タル不動産ノ上ニ存シタル先取特權又
ハ抵當權ノ行使ニ因リ買主が其所有權ヲ失ヒタルトキハ其買主ハ契約ノ
解除ヲ爲スコトヲ得、即チ先取特權及ビ抵當權ノ事ガ茲ニ規定シテアル、此等ノ権利ハ唯今論ジマシ
即チ先取特權及ビ抵當權ノ事ガ茲ニ規定シテアル、此等ノ権利ハ唯今論ジマシ
タ地上權其他ノ權利トハ餘程趣ガ遠フノデアル、不動產上ノ先取特權ノ如キハ
占有ヲ要素トシテ居タルモノハナイノデアル、ソレカラ抵當權ハ是ハ占有ト云フ
モノガナインデ賣權ト遠フト云フコト位占有ト云フコトニ緣ノナイモノデアル、故
ニ斯様ナル權利ガ存シテ居タルモ差向キ買主ノ爲タニ不便ヲ感ズバト云フコ
トハナカニ賣主ガ其不動產ヲ使用セント欲ヘル場合ニハ勝手ニ使用ガ出来ル、收
益ヲシヤウト思フモ收益ガ出來ル、成程權利ガ附著シテ居リマスカラ物ヲ處分
スルコトハ出來マセヌケレドモ是ハ概シテ所有者ノ爲メニ利益トナラヌコト

デスカラソレガ出來ナタテモ因ラスコトガ多イ故ニ此權利ガ存シテ居ルト云
フダケデ直チニ擔保ノ請求ヲ爲ナシムルト云フコトハナカニ詰リ債務者が債務
ノ履行ヲ爲セバ自ラ消滅スベキ權利デアラテウスレバ殆ド初カラ斯様ナル權
利ガ存シテ居ラナカクタノト買主ノ爲メニ異ナガコトベナインコガ前ノ權利ト
ハ像程遠フ、ソレデ全タ別ノ規定ニカク居ルト云フコトハナカニ詰リ債務者が債務
桂ニ著シタ遠フ所ハ第一ハ此等ノ權利ノ行使ニ因リ買主ガ其所有權ヲ失ウタ
場合ニノミ擔保を請求スベキ權利ガアル、ソレカラ第二ニハ買主ノ善意ト惡意
トヲ問ヘナイト云フ、點テアリマスガゼ善意ト惡意ト在區別ラシナイカト云フ
ト此等ノ權利ハ債權ガ消滅スレバ自ラ消滅スベキモノノアル、ナウシテ幸ニ債
務ト云フモノガ期限ニ至レバ履行セテルルコトガ多イノデス、抵當權ヤ先取特
權ガイクモ役ニ立フヤクデアル歟ハシムトゾ、幸ニサク云フコトハナカニ寧ロ是
ガ役ニ立ツト云フノガ十中ノ一二カ百中ノ四五デアルト云フ位ノモノノアル、
故ニ賣主ハ斯様ナル權利ガ存シテ居ルト云フコトヲ知フテ居ラモ狀ノ買石片
云アコトハアラタ得バカニ債務者が賣力ノアル人デアルカラ抵當權人行使ニ達

フコトハナカラウ、先取特権ノ行ハルルトハナカラウト思フテ歎クテ買フコト
ガナレドハ云ヘナイゾレガスカラ買主大善意レ惡意トヲ區別スルコトガ出来
ズ。此ニ本條ニ聊カ缺點ノアル所ヲ説明シテ實際如何ニ補立テ行カナケレバナラ
ズカト云フコトヲ述べヤウト思フ、先ヅ茲ニハ先取特権ト抵當権トノミアツ質
權ト云フモノガナイ一見シタ所デ「前條ニ質權ガ這入ッテ居ルカラ此處ニハ質
權ガナクテモ宣シント云フヤウニ思ヘルゾレデ多分漏レタノダアラウト思フ、
ケレドモ退イテ考ヘテ見ルトドクモソレダケデハ足ラヌ前條ハドク云フ規定
カト云フト質權ガ存シテ居ルガ爲メ買主ガ直チニ占有リ爲スヨトガ出來ス不
動產デアレバ質權者ガ使用收益ノ權利マズ持テ居ル故ニ買主ガ直チニ不動產
ヲ使用セント欲スルヤクナ場合ニハ其使用ガ出來ス爲ミニ或ハ契約ヲ爲シタ
ル目的ガ達セラヌ或ハ少ナカラヌ損害ヲ被ルト云フノデ前條ノ規定ガ保ル、
ケレドモ若シ質權ノ行使モ因フテ遂ニ買主ガ所有権マズ失フ仕舞フト云フコ
トニナラタバ本條ノ適用ノアル方ガ穩當デハナキ成程此契約ノ解除ト云フ

ヨリハ無論出来サスソレハ買主ハ所有權ヲ得ルト云フノガ契約ノ目的デアツ
メレテ得ナシテ云フコトニナリ。質賣主ハ契約不履行者デアルズカラ不履行
ニ因ル解除ト云フコトハ出來ガ、サキシテ此場合ニハ既ニ履行ガ不能ナラニ居
ケ場合ガ多イダグラクト思ヒヤスダウヌアリ直すニ解除ガ出來シソレガ確デ
ナイト云ヘバ催告シナケレバナラヌガ、催告ヲスヒビ催告ノ期間ノ經過ニ因シ
テ直チニ解除ヲ爲スヨトガ出來ルヤウテナム、ケレドモ若シソレダケデ宜ス、即
テ一般ノ解除ノ規定ダケデ足シルナラバナゼ茲ニ第五百六十七條ノ規
定ヲ入レタストク云フコトニナル是ハ只今讀シダ第一項ダケデハ必要ガ十分
分リマセヌガ第二項、第三項ニ依リテ急ニ必要ガ分ヲ來ル然ラバ先取特
権又ハ抵當権ノ行使ニ因フテ買主ガ所有権ヲ失フノモ質權ノ行使モ因フテ之ヲ
失フノモ同ジコトダフコト云ハズカレバナラヌヤウダアル、甚ハ私ハ正ニ缺點
ガアルト思フ、ガセス様ニ缺點ガ存シテ居ルカラ云フトは既ニ諸君ガ御聽キ
ニナフ立オトガアルガモ知レスガ、民法編纂ノ際ニ第三百六十一條ニ不動產質
ハ本節ノ規定ノ外次章ノ規定ヲ準用ストアホ是ガ初ハ抵當権ニ關スル規定ヲ

準用ス」トアツタ、其結果質権ト云フモノハ特ニ書イテナクテモ「抵當權トアツタ」云
フト、其中ニ自ラ質権モ含マレノ居、アト同ジニトニナバ、抵當權ニ關スル規定ハ
皆不動產質ニ係ル、ソレヲ初々不動產質ト云フモノハ他ノ規定ニ總體省イテ
アツタ、單ニ先取特權又ハ抵當權ト云フ風ニナツテ、不動產質権ノ事ハナカタ、所渭
其内ニ某ガ出来上フカラ最後ノ整理ノトキニドウモノソレ、不明ダカラ矢張ミ
「不動產質」ト云フモノヲ「」書加ヘタガ宜カラ、クト云フコトアツタ、ソビテ大
分書加ヘルコトニナツタ、例ヘバ第五百一條ノ第一號ニ「不動產質権ト云フ字ガ遺
入デ居ルヅレカラ第五百七十七條モタウデアル、茲ニハ「先取特權」又ハ「抵當
權」トアル、ソシナ風ニ「質権」云フ字ヲ方方に入レタモノデスカラソコア第三百
六十一條ヲ少シ書改ムル必要ガ生ジテ來タ廣ク抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス
トシテ置クト重複ニナル、第五百七十七條九ゾト重複スルヨトニ
ナルカラソレニテ越ヒ次章ノ規定ヲ準用ス「下記ニコトニ改メタ所ガ倉卒ニ際ア
アツカカラ多少抜ケタ所ガアル、本條ノ如キハ其ナツブズアル、チヨド見ルト前條ニ
質権ガアルカラ此處ニハ質権ハイタナリナキナ見エタソレ此處ニハ入レナカッ

タ所デ今ノヤウナ場合ヲ考ヘカタ、ソビカラ序ニ申上ゲラ置クノ「今」ツア
ル第三百三十九條ニ「前二條ノ規定ニ從ヒテ登記シタル先取特權又抵當權ニ先
チヲ之ヲ行フコトヲ得ト云フ」トガア是モ極ク正確ニ言ヌ、既當權及ヒ質
權ニ先チヲ「ト書ク方ガ正シカクノアル、ソレモ抜ケタ併シ是ハ少シモ違支ニ
ハナラス、ナゼカト云フト不動產質ト抵當權ト云フモノハ同順位ノモノニナ、テ
居ル登記ノ前後ニ因ツテ其順位ガ定マルモノニテオラ居ルゾレ
デスカラ先取特權ガ抵當權ニ先ツアラ自ラ不動產質権モ先ツコトニナル、先刻
ノ第三百六十一条ニ「次章ノ規定ヲアル結果デ今ノ事ハ分ル、ソビハ第
三百七十三條ガ準用セラル、抵當權ノ順位ハ登記ノ前後ニ依ルトアル、ソレガ
不動產質ニモ候ルゾデ、サウスルト抵當權ト其順位ニ付ケハ同ジニトデアルト
云ヘル故ニ此方ハ解釋上少シモ困ラス、唯形ニ於テ既當權ヲ候ルヤウデア
ル所ガ今ノ條件ハ實際ニ於テモ多少不都合ト謂ハナケレバカヌ、モ甚矣、斯ル
ソレカラ今一つ茲ニ缺點ノアルノハ所有權トノミ書イテアル、是ガドモセヨロ
ト察カフタヤウニ思ヘル、地上權永小作權フヤウナセノダモ失張リ抵當權ノ目的

トナレコトガ出来ル、其場合ニ其地上權若クム永小作權ヲ買シテカラ後、買主が抵當權ノ行使ニ因クタ其地上權若クム永小作權ヲ失、ダトキハ矢張リ本條ノ適用ガナケレバナラヌト思フ、併シ是ハ解釋ア以テ補フコトガ出来ルト思フ、成程地上權、永小作權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトガ出來ル事ガソレハ、是シオ場合アル、法律ハ重モナル場合ダケラ規定シテ居ラサウ云フ特別ノ場合ニ思ヒ及ベナカツタノデアルカラ所有權ト云フ字ヲ使ウタマアルガ、同ジコトデアルカラ適用シナケレバナラヌ、況ユ是モ多少ノ據リ所ハアルノテス第三百六十九條第二項ニ「地上權及ヒ永小作權モ亦之ヲ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得此場合ニテハ本章ノ規定ヲ準用ス」ト書イテアルゾレ抵當權ニ關スル規定ハ皆所有權ヲ見テ書イテアルゾレ今ノ準用デ地上權ヤ永小作權ニ候フ行ク成程今ノ準用ノ體例ガ本條ニ對シテ直チニ效力ガアルデハアリマセヌガ抵當權ノ元方ノ規定デナヘモ皆所有權ニ付テ設ケラアルカラ賣買ニ關シテ抵當權ノ事ヲ規定スルニ當ラテ、法律ガ「所有權」ト云フ文字ヲ達タノム想スベキヨリテアルヲト思フ、解釋上ハ無論疑ガナイト思フガ、唯文字ガ則カ不穩當デアルト謂ハナゲレ

パナラヌ
ソレカラ今一ツハ理論上ノ事デ序ダカラ申ス位ナコトデアルが本條ハ不動產ニ限ラテアル、ケレドモ理論上カラ云フト矢張リ動產モアル抵當權ハ不動產ニ限ルケレドモ質權先取特權ノ如キハ就中動產ノ上ニアルゾレニ付テモ矢張リ同様ノ規定ガイリナクナモノアル動產ノ所有權ヲ買取フ者ガ後ニ先取特權質權ノ行使ニ因クア其所有權ヲ失フト云フコトハアリナウナコトデアル莫ドキハ本條ノ適用ハナイノデアル「不動產」書イテアルカラ動產ニハ適用シナシテアラウカゾレハ缺點デハアレヤオカ、是ハ理論上カラハ缺點ト云ヘル事知シ極モスガ實際ハ缺點ト云フ程ナモノデナイ寧ロ立法者ノ衡カラ書カタラ此儘デ宜シオカト私ハ思フ、其譯ハ動產ニ付テハ本條ニ規定シテアルモリカヨト貰ハ先づ起ラスドウシテ起ラマカト云フト動產ノ所有權ヲ引渡ガ済マチテシルノ第三者ニ對シテハ移轉シナイ、デスカラ若シヤダ買主ガ引渡ラ受ケヌ内ニ所有權ヲ失フコトガアルナラバソレハ自分ガ引渡ヲ受ケテ居ナイカラ第三者ニ向クアハ何トセ言ヘナイ話デアルマダ恰モ所有權ヲ譲受ケテ居ラセイガ如クシテアル、斯様

ナル場合ニ於テハ成程賣主ニ向クテ債務不履行ノ請求ヲ爲スモトが出来ズタル
レドモソレガ爲メニ特別ノ保護ヲスルト云フ必要ヤナシ故に物を引渡フ受取
ク場合ト考ヘナクレバナラヌタウスルト是ハ所有權ヲ何人ニ與シテ其取得シ
テ居ル場合デアル所デ其場合デアルト動產質ニ付スルヘバ動產質も占有ト云
フモノガナケレバ存セスモノデアルソレカラ今申シタキウチ所有權ヲ買取タ
所ノ者ハ引渡フ受ケナケビバ完全ナ所有者ニナラナカシテ見ルト此場合ニ動
產質ガ存シテ居ムソレガ爲メニ後カラ所有權ヲ失フト云フモトハ想像ガ出來
ナイ引渡フ受ケテ仕舞ヘバ動產質ハナタナツ仕舞ニニ達ヒナカシテ質權者ガ
占有ヲ失ハナケレバサク云フコトハナイ極ク稀ナ場合ヲ想像シテ見バト質權
者ト買主トガ同一ノ第三者ニ各占有一委任シフソレブ質權者も占有シテ居ル
ダ買主キ占有ヲシテ居ルト云フ想像ノ出來ヌコトハナイガヌタ云フコトハナ
般ノ債務不履行ノ規定ニ澤山デアルト云フノル動產質の省令第百六条先取特權
ニ付フモ同ジャウナ譯デアガ第三百三十三條ニ先取特權ハ債務者其動產ヲ
第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動產ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ストアバソレデ

スカラ動產ノ先取特權デアルト買主ガ引渡フ受ケテ仕舞ヘバ消滅シテ仕舞フ、
デスカラ本條ノ適用ガナオジビズカラ詰リ動產ニ付テハ本條ノ如き規定ハ
必要ガナオト見タノデアル眞ノ缺點ト謂フベキハ詰リニ點デアル質權ト云フ
モノガ加ヘテナイト云フコトト所有權ト云フ文字ヲ遺タト云フ此ニツデアラ
マス併シ此缺點ハ所有權ノ事ハ既ニ解釋ヲ補セ得ラルト云フコトヲ申上グ
タガ質權ノ方ハ是ハ解釋ヲ補フヨトハ出來ヌト思ヒテス、唯一般ノ原則ニ依ラ
格別ノ不都合ヲ見ヌ事云フコトハ云ヘテスガソレハ最後ニ説明致シテス、先ツ
第三百六十七條第二項ニシテ該當する事無くハナト其事ヘ則文を要スル
買主カ出捐フ爲シテ其所有權ヲ保存シタルトキハ賣主無對必シテ其出捐ヲ償
還ヲ請求スル事ト得トハ安ヒニ出也ス其餘ハニ財産除斥ハ財産を受ケテス
是ハ所有權ヲ失シナイ場合ナシテ云フト多クハ賣主ノ質權者ニ辨済
ラ爲シタ場合例ハ抵當權ノ行使ニ逢ウテ競賣ニ付キオレナウト云フ場合デ
アル競賣ヲ付セラルト云フト買主ハ所有權ヲ失ハナケレバナラヌソレデ據
計ク自腹ヲ切ツテ債務ノ辨済ヲ爲シタト云フヤウナ場合ガ重モカル場合是ハ出

相ト刀カリマサカラ必ズモ辨済ダナタ之モ宜シイ和解ダモ更改ダモ其事ナガ重
セナル場合ヤ辨済デアル云々ト買主ヘ辨済出シタルモ多クモ辨済デ
此場合ニ於テハ買主ガ既ニ代價ヲ拂フ居ルナラバ其出捐シテ多クモ辨済デス
カラ辨済事シテ論ジマセウ其辨済該合ムモ又金を買主又負擔辨済條件ザガ無
ノラ唯所有權ヲ保有シタイバカリニ出シタ其爲メニ債務者ハ利益ヲ受ケルソ
レデスカラ明文ガナタフモ債務者ニ對シア不當利得ノ請求ヲ爲ス是猶外無論
出来ケレドモ此處デハソレヲ規定シテ居ルノデハナイ其事ハ明文ヲ要セヌ
ヨトデアリカラ此ニ書イラナイ賣主ニ向テ契約上ノ關係カ發動未ツ爲ス是ト
ガ出來テコトヲ規定シテ居ルオ前ガ抵當權ノ附イテ居ル物ヲ賣タ、賣ウシキ抵
當權ノ消滅スゾウニ取計ヤナカタ、オランヲ自分ニ損害ヲ加ヘタ、カラソレ
ダクナ償フテ矣レナケビバナラス畠田翁ノアム話リ賣主ハ買主ニ完全ナ所有
權ヲ取得セシムル義務ガアランヲ取得セシムナカク當買主ハ餘義ナシ全
フ出シタ、故ニ是ハ賣主ノ責任ニ屬スベキ由トアアル也斯ク云ガノア賣主ニ對
シテ請求ガ出来ル時計ヤベシ賣主ニ正義を被シモ過誤ハ當無ミモ且誠シ

諸君がソレハドタモ同ジコトアガナシカト言ヤルルカモ知セガ全ク同ジニ
利害ベカラ、通常ヘ同十人アリマサガ時トシオ一人人達フキトガ謀ル、他人ヲ
爲メニ甚當權ヲ設定シタト云フカウナ場合ニハ賣主ハ債務者ヂナリ、ナク云フ
キキテハ債務者ニ向テ不當利得ヲ訴ヘバコトガ出来ルケレドモ若シ買主ガ
賣主ニ請求スル方ヲ便種ナリトシタカラバ賣主ニ請求スルコトガ出来ル、是ガ
一ノ述フ 甘苦御難事朱ムシニセリト出處シテハナカク當事者ノ書翰也、
今一つハ權利ノ範圍ガ異ナルスズアリ、不當利得ノ請求ト云フコトアリアリ
トソシ、債務者ガ利益ヲ蒙クテ限度ニ於テノニ債務ヲスル從テ創ヘバ債務者
ガ相殺ノ原因ヲ持テ居ルト云フカウナ場合ニソレヲ對抗スレバソレモ債務
ヲ免ゼタノニ、賣主ガ債務者ニハ照會ヲセズ、ナウシテ勝手ニ辨済ヲ爲シクト云
フセシカ場合ニハ債務者貯財シテ、請求ガ出来スソレカラ出捐ノ類ナ云フセ
ノガ必ず債務ノ額ト同乗トハ無シナラ、之ノ付カヘ費用ヲ掛ケル場合モアル、テ
キスルト云フト其費用ヲ矢張り出捐アムカラ賣主ニ向テ其債還ヲ求メルロ
トガ出来ル、故ニ此權利ハ不當利得ノ請求權モ全ク別ナモノデアルソレト並

ベテ法律ガ特ニ別ガ云フ權利ヲ認メテナム全々既大半人等ニシテ讀
今マダハ或ハ契約ノ解除或ハ出售指揮權選ダケシ主ガ云アモアモスカレドモ、
尙本買主ハ損害賠償ヲ求ムル權利ヲ持フ居ル即チ同條第三項ニ基合ニハ
「右號レノ場合ニ於テモ買主カ損害ヲ受ケタモトモハ其賠償ヲ請求スルコト
アリ得」ニ買主及時選書ニハ照會セサセキモ亦經手ニ機縛セ候ムモトモ
是ガ外ノ場合ト少し輕ガ遠フ居ル外ノ場合デ云善意ヲ買主ケテガ損害賠償ヲ
求ムル權利ヲ持フ居ル惡意ノ買主則チ此處ニ謂フ所ノ負擔タル權利ノ存シテ
居ルト云フコトア知フテ買取ラタ君ハ求償權ヲ持タス所ガ本條デハ號レノ場合
ニ於テモ損害賠償ヲ求ムルコトガ出來ルヤウニナツ居ルソレハ法律ガ善意ト
云フ字ヲ抜カシタノカ知ラヌテ斯ウ云フ疑が起ルガ、ナウデハナイ先刻申シテ
通リ先取特權又ヘ抵當權ノ如キモスハ不幸ニシテ之ヲ行使スル必要ガ生ズル
ヨトガリ前外ミテ多ク幸ニシテ之ヲ行使スル必要ガ有者、テスカラ斯様ナル
權利ノ存シテ居ル固トテア知リツク買取ダ買主ト雖モ是ヨリ生ズル損害ヲ甘忍
チ買取ヲモノト云ハ云ニテ、寧モ債務者ニモ責力ガアルカチ多分ツシナ權利ノ

行使ト云フモノハナカラウト云ア考テ買取ヲモ第百見ナズビナヌキ、然ラバ
此權利メ行使シ因フテ所有權ヲ失タカ又テ之失然テ爲ス特無出損ヲ爲
シタト云フトキニ之由ヲ生ズル所ヲ損害ヲ買主ハ實權ナシシカラス
ト、斯ウ云フヨトニナツ居ル

尙本是ハ買主ガ既ニ代價ヲ拂フ仕舞ダトキノコト又重モニ想像シテ法文ニ書
イテアガシ私モ説明シテ居ルノ云々ガ、多クノ場合ニ於テハ買主ハ代價ヲ拂ハ
ズニ待フ居ルコトガ實際ニアラウト思フ、先取特權、抵當權ガ存ムテ居ルトドウ
モ是ハ陰谷ダ、ダカラ買取ルコトハ買取ルガ、債務ノ期限ガ來ラフ、ナウシテ債務ガ
満足ニ履行セラルルマデム代價ヲ拂フコトハ出來ス、賣買契約ヲ結シテ居ルト
登記セ濟マシテ置カウダ代價ハ後日ニ之ヲ拂フト云フノガ普通アラウト思
フ、此場合ニ於テモ第十項ノ解除權ハ存シテ居ルンレカ又特約ガナカツクサバ矢
張ヲ損害賠償ヲ求ムル權利モ存シテ居ルナガラ出損ヲ爲セテ所有權ヲ保存
スルト云フコトハ實踐通用ガ少カラキ思フ、大概ハ賣買契約ヲ提供シテ
レイ候オ。據除ト云エモノガ出来ル「機縛」云フモ外賣主買主所關事マ無矣

レドモ今ノ場合云々買主ノ一定ノ金額ヲ債権者(賣主)が抵當權者ニ提供シテナシタル時、抵當權者ノ消滅ヲ請求スル權利オズが債權者財ソシテ承諾スルハ直ア無抵當權ノ消滅シテ仕舞フ、承諾シナイト云々ハ十分ノ以上高名賣諾スル海達ヒナシ、競賣ニシタラハ却ク損ガ行ク、故ニサク云フ事キニハ大抵當該行商ルカ又ハ協議ガ胸ア爲スニ買主ハ損失ヲ被ラズシフ情ムデアラトト思ヒテ不但代價ガ不當ニ廉デアタラサウ云フ謂シオカヌ、サクスルト代價ノ外ニ金ヲ出ナケレバ撤除ハ出来ス、一萬圓ノ價額モ在リ五千圓ヲ實ナ居ツタナラハ尚ホ少クモ三千圓又四千圓出ナオケレバ債權者ハ承諾セヌヂモウカウシタナラガ後カラ出ナオダメノ金ハ絶ニ開ク所ノ「出售」デアガカラ矢張リ其儀過ヲ請求スルカナガ出来タ

以上論記マシタゞト先取特權抵當權ニ付スルケガ、並ニ先取又不動產質ニ立異リテシテ本條は不動產質ニ適用スルヨリガ出来スヘ多シノ不都合アリマスクセドニシルガ爲テナシ不公平ノ結果ヲ惹起スル云フヨドムナシト云

件又ハ期限ハ之ヲ期日附文公定歌空記載シサル其引受人絶対ニ效力有生セキ否也是說ニ致セ沐浴鹽業鹽必極也之ヲ海必經又小走歌中鹽紀載此ノ要セス尙考考セシモ示スノ滿大難立ノ場合キテ莫昧申及如意恩惠示ヘ内容引受人引受人ノシテ株權認証シ證書ヲ負擔及シ公被權引受人ヲ請之ヲ假前ハコ世合得サシ浦以ナ源測は爲地商陸第而四十號ニ二箇ノ胸外ノ規定ス其池民共ノ規制ニ依リ其意思表示動無數キ跡ノ又公徵前シ君の證其ノモ爲公被權立トブアヌ勿論ナカニ立湖太端立ノ場合ニ准ヘテ、其處處ニ基調ニ仰要旨欲シ主張スミテ書立第四款 **總株式引受ノ確定** 即ち、人義ノ類似者ナシの範囲で書立 又是ニハ總株式立第一種類立、總合立、此ノ如キヘ、其餘類似否無ニ總合計公被權株式引受ハ前款を於テ其主體ヲ標榜トシテ說明セリ然事トモ客觀的觀察其確定シテ減少會社之成立浮漂を或ハ設立原要は公被權導報之遺漏ニテ公被權ノ上至次ハ總株式引受者特權ナリムカラ又仰伸シ商商標引受行為ニ從リ其行爲者ハ申述株式ニ總立ヲ拂退フ總商標務ヲ負ツモリナシ等モ要趣入社制ヲ拘直天所主至清ノ何許ナラニ浮漂上骨ヲ解説上致ヒス荷ナホレハ株式ノ引受行為ハ

其法律上ノ性質付キ學說ノ執一者尙ル見ナ次第ニ述フル内如タカヒヲ以テ
ナリ而シテ普通ノ學說ナリ及ハ契約說者ニシテ威ナリ引受行爲ヲ契約ノ申込ト解
シ成ナ之ヲ承諾太解也但我商法や申込及ヒ申込人方所語用則不然ヲ以テ契約
說者基キタルモ此並論外ル學者多數而實之引受行爲所契約申込太解ニレハ發
起人社團ハ之ヲ承諾ヌトト悟テ將何レモ其絲慮ナリ熟識ハ多少普通說ト見解
ヲ異ニシ發起人設立一時設立ノ場合ニ在リテハ契約說ヲ否認シ綜合行爲說ヲ
主張ス之ヲ法文「啟スルモ株式ノ申込反ヒ申込人等ノ語ヲ存セナルヲ以テナ
リ之ニ反シヲ要集設立(漸次設立)ノ場合ニ在リテハ契約說ヲ是認シ引受行爲ヲ
契約申込外解セシム欲ナ此見解ニ從ヘハ猶豫引受カ確定スル後一時設立
ノ場合ニハ定款ノ作成行爲計依附漸次設立ノ場合ニ不發起人カ申込ヲ承諾ス
ルニ依ル換言ハシテ社員設立ノ場合ニナ申込ナク承諾オシ單ニ綜合行爲論セ
テ引受シ二箇之内客ヲ表示シ漸次設立ノ場合ニハ契約申込ノ意思表示ノ内容
トシテ引受シ二箇ノ内容連包含即確乎漸次設立ノ場合幾ハ主觀的中意識降於
ケソ引受最客觀的意義降於ケ主觀的中意識相違之生焉故兼戒學者也引受ニ

第五款 株式引受(引受行爲主體)ノ法律上ノ性質

二種ノ意義アリテ引受人タム意思表示斯シヲ引受及ヒ株主タルノ資格ヲ取
得スル原因事シ引受人ヲ指定セ得出ノ學說ナリ而ナシテ異論有ル
簡簡シ引受確定シ此義定カ達株式ニ及ブトキニ茲導始テヲ總株式ノ引受ノ確
定ナリト謂アヨシタ得外財而シテ之ニ依リテ一時設立此場合ノ社會社威立シ
漸次設立ノ場合無ハ株金ノ拂込法爲後ヘキ段階半入半出ノトス事も遺却能
即示前人圖解人間圖解人間圖解人間圖解人間圖解人間圖解人間圖解人間圖解人
人圖解人間圖解人間圖解人間圖解人間圖解人間圖解人間圖解人間圖解人間圖解人
第五款 株式引受(引受行爲主體)ノ法律上ノ性質

株式ノ引受ニ關スル學說ヲ大別スルハ三種ト爲ル蓋(本)契約說者(三)單獨行為
說若ダ此綜合行爲說又其(三)折衷說是ナリ此即引受人財產ノ開き難立ヘイ體
第一 契約說モ亦夥多シ分派アリ或ハ之ヲ以テ組合契約互爲シ成ハ之ヲ賣買
契約ト爲シ或ハ之ヲ無名契約利爲シ成ハ此等ノ契約ノ真偽別立會資本開立所
ノナリト爲ス而シテ其何レハ從ナキ種種之點ニ付テ異説紛糾併列テ後本所
ナシ例ハ何時株式引受契約カ成立シルヤ又問題ニ付テハ與人カ申込人カル
ケニ付キ議論アリ或ハ引受人カ申込ヲ爲ス下爲シ成ハ發起人カ申込ヲ爲ス

説夕成ハ又創立總會ノ決議云國事起始未だ契約ヲ成立未然故本來該社者ア
ナ次ニ何人カ契約大體事務力ケ並古付未モ見解區區計セス職人ハ力西領固人
株式引受人他方ニ發起人カ常務者ナ別個説明或株式引受人相互ニ當事者
爲リ發起人ノ資格ニ嫌不思議者ナ別個余ス所モ若者タ莫識キ或前様式引受人開體
發起人開體トノ間契約成立スト説キ或ハ二箇所皆謂成立區川地人並々交渉
一ハ發起人ト株式引受人ト在開ニ成立シ他一引受人相互ノ間ニ成立スト解ク
夫夫此株式引受契約學生ナル權利カ如何ニ就テ或未出來其權爲會社所謂屬ス
ヤノ問題ニ付キ種種ノ見解ヲ生シ或ア之ヲ發起人開體ヨリ會社ニ對シテ爲ス
明示的ノ讓渡ト説キ或ハ發起人開體ヨリ會社ニ對シテ爲ス假裝的若クハ法定
的ノ讓渡ト爲分或ハ發起人會社爲メニ爲酒場務管理ナリル説キ或ハ法律
ノ規定ニ依ル單獨ナガ移轉カラシト説タ之ヲ要スが如契約號外採用爲無學者
種種ノ問題ニ付キ困難ナル疑惑ニ遭遇スルカトタ幾種セシム外又不變人體
第二、單獨行爲説若クハ綜合行爲説ヲ採用スル學者ハ極メ少ク我輩ノ知ル
所ツ以テスレハ獨逸ノ「ドーマン」及ヒ瑞西モ「ヒワトベジ」甚氏ナリト深浦ミ有

此說ニ依シハ一時設立會商次第立チ期別至ヌ引受ナシモノ幹事並セ業來ノ様
式會社ヨ於ケル株主資格ヲ得ナシト以テ昔のトスル單獨行爲ニシテ獨賞ス
レハ一種ノ身分行為ナルコト國籍ヲ取得スル行爲市民資格ヲ取得スル行爲奴
隸ヲ解放スル行爲等ノ如シ更ニ之ヲ詳説スレハ一時設立ノ場合ニハ株式ノ引
受ハ或ハ定款ヲ以テ之ヲ爲或外定款確定ニ附屬スル事務トシテ之ヲ爲スモ
何レモ單獨的久社行爲ニ外ナラシ更漸次設立ヲ場合ニモ噴受算單獨行爲ニシ
テ引受人トシテノ義務ヲ生ヌ所爲付來起人ノ承諾ヲ要セ且發起人ノ引受
人トノ間ニ種種ノ内約アリモ之厚會社ニ對シ承認強アル事能シム何トナシ
ハ會社ノ引受人依リテ權利ヲ得開ハ發起人ノ承認者タル並案ナシ弗及ル但同
時ニ其利益ノ爲ヨリ引受契約書取結タル洋依リ享盡者ト玄ヲ確判ヲ得者也
ニモ非ヌ當ニ引受人ノ單獨行爲即チ會社リ則立會安トは實行爲ニ就リ會會經
ハ權利ヲ取得ス神舟ノ律謂之サルハカド然明興加滿矣要ス故此學說
ニ其創造以來年月ヲ經ルシト淺キ以御未タ全洲批難ナシ體虎京傳德也セ
ノナシトモ將來社團法人ノ基礎ト爲ル學說ハ之ヲ指キテ他ニ筈ムルコトヲ得

ヲルヘシ。此來源開拓人ノ其業イ外ノ學識へて、計ナモ出ニ計入ニセイ。精
單獨行爲若クハ総合行爲非依リテ引受タ説明併記雖も漸次設立之場合並に引
受ハ契約ナリト論タル界既ナ及壁、ト曾述ナ民株式ノ引受付但タ第三者ヲ利
益ノ爲メニシテ契約ナリテ説明ナシモ拘泥ラム他方ニ之ヲ製約シ総合行爲
トノ兩性質ヲ具フルモ置ナリ併記言及シ故ニ忘無依リテ考クレハ株式ノ引受
中ニハ會社ヲ設立スルニ付タマ單獨行爲後と総合行爲ノ要素を包含シルニセ
拘ナラス行爲ヲ確定スル上ハ契約行形或以テ未詳モ更ナリ且論無アル所ヲ
シ故ニ是レ亦折衷説タ一派トシテ見所ナシ當ヲ得合キシム如テ我單獨行爲タモ
氏ノ折衷説津略同ニシテ見解復採用形實空三相視之可也。然ニテ
甚々相對文行處即ハ「事ニ至ル」等句大略云「相對立又相合ニシテ對失之片
面失之對」。即ハ「對」者、對立者也。而「對」者、對失者也。對者、對合者也。對
定款ノ作成及ヒ株式之別受け各種ノ設立ニ甚通ナル手續也。是故ニ時設立ノ
場合ニ以此二者之認定會社小成立シ唯設立ノ證記ヲ爲不セ付而更不株券ノ拂
キコト前ニ述ヘタル所ナリ。

登記ノ前提タルト成立ノ前提タルトヲ問ハス設立ノ際拂込額ヘキ株金額即チ
ニ付フモ尙ホ此他ニ二ノ手續ヲ要ス即チ株金ノ拂込及ヒ創立總會是ナリ故ニ
本節ニ於テハ株金ノ拂込ヲ説明シ次節ニ於テ設立ニ關スル總會ヲ説明スヘン
但金錢以外ノ財產ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス場合ノ引受ハ固ヨリ株金ノ拂込ナ
キコト前ニ述ヘタル所ナリ。

第一回株金拂込額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ラナルコトヲ要シ額面以上ノ發行ノ
場合ニ以其超過額ヨリニ即ハ權利ト權限ト權要斯而シテ漸次設立ノ場合乎一總株
式ノ引受後漸次發行各株式科蔚ナ第十四回ノ拂込ヲ發起人ヨリ請求スルコト
ヲ要シ之ヲ拂込受ナリ引受人拂込及ヒ發起人之ヲ直接履行權限ム拂コト
ヲ得ル以勿論一定期間内此過期間以上其拂込日爲スヘシ其期間内拂
之ヲ爲サザケト各ハ權利ヲ喪失スルセシ權限引受人ニ通知書ルヨリ拂コト
越知フ受ケテ拂込拂退後爲ナシ拂利ヲ失は體ヲ發起人拂コト方ニハ
更ニ株主ヲ募集スル子孫遺傳等ナ地方ノ失權者ニ對シ損害賠償ヲ請求スル

主と相馬、支那に三七條乃拂第の並の後、大財主ニ被る財害額重々高水へ少
甚改ニ此等マ規定廢止起(一時設立設立ノ過半ニ費用開ル並計タ得ナ次否ヤ
多度ア延義ヲ存ス問題ニ興登ハ之ヲ專用保有人ニ成候非メ申解シ體テ此場
合併ハ取替費ニ拂退開設開設上他其餘外カ無ヘク但而ソ除並被拂
込ナキ此式應用受ケンに及ぶ拂退ノ爲ナ貴族ノ主客並け解釋メ般クノ
方ナほド既而我國ノ商標及採用者ヨリ第三共謀入ヨリ日本ハシナシ
組合志田篠原波瀬中ニ乞乞加仁篠原ノ篠原ノ以テ本滿義宣我人本滿義ハ此等
第一種義宣此五種へ君全、因伏、モト可也ナヒドイモ要、而前見止、發行、
發送、商標及ナヒ立、商標及ナヒイを問ヘ大歸立、獨創性據者、篠原昭
ナヒイ附ニ附ヘヌハ御モ。

出金發足後、相兼モ以次出資、目録ノ私大組合、授受ノ固リ、君全、義宣、
本滿ニ付セ、ハ財金、相忍、相潤、大前ニタル、獨立ニ關ル、總會、總會、
二台、主、尚、其、出、資、二人、平、誠、モ、愛、大、明、モ、君、全、義、宣、又、モ、獨立、總會、
獨、創、性、據、者、篠、原、昭、ナ、ヒ、イ、を、問、ヘ、大、歸、立、獨、創、性、據、者、篠、原、昭、
ナ、ヒ、イ、附、ニ、附、ヘ、ヌ、ハ、御、モ。

法學博士 志田鉢太郎 講述

商 法 會 社

和佛法律學校

時事新報學社

商法會社目次

序文

商法會社目次

緒論	一
第一章 會社ノ觀念	二
第二章 私法組織ニ於ケル會社ノ位置	四
第三章 會社ノ沿革	六
第四章 現今諸國ニ於ケル會社法規	七
第五章 會社法ノ適用及ヒ準用	八
第二編 會社總論	一三
第一章 會社ノ意義	一三
第一節 會社ノ實體	一四
第二節 會社ノ權力	一八

第三編 會社と法人格

第二章 會社入種類

第一節 單純組織會社及ヒ複雜組織會社

二三

第二節 有限責任會社及ヒ無限責任會社及ヒ混合責任會社

二五

第三節 人の會社及ヒ物的會社

二五

第四節 標分會社及ヒ株式會社

二六

第五節 總會フ有スル會社及ヒ之ヲ有セサル會社

二七

第六節 登記ヲ有スル會社及ヒ之ヲ有セサル會社

二九

第七節 檢查役ヲ有スル會社及ヒ之ヲ有セサル會社

二九

第八節 現行商法ノ適用ヲ受タル會社及ヒ舊商法ノ適

四一

用ヲ受タル會社

二九

第九節 會社編ヲ第一法源トスル會社及ヒ特別法ヲ第

二九

一法源トスル會社

二九

第十節 設立ノ免許ヲ要スル會社及ヒ之ヲ要セサル會

二九

社

第十一節 営業ノ免許ヲ要スル會社及ヒ之ヲ要セサル

八三

第十二節 會社

二〇

第十三節 會社ノ能力

三一

第十四節 會社ノ營業所

三八

第十五節 會社ノ商號

四〇

第六章 會社ノ登記

四三

第七章 會社ノ成立、變更及ヒ消滅

四五

第三編 株式會社

第一章 株式會社理論

五一

第二章 株式會社ノ意義

五三

第三節 株式會社ノ資本

五四

第四節 株式會社ノ資本

五五

第五節 株式會社ノ資本

五六

商法會社目次

西

第一款 資本ノ一部分トシテノ株式	五九
第二款 株主資格又は株主權トシテノ株式	六四
第三款 株券	七一
第四款 株主名簿	七三
第三節 有限責任	七五
第一章 株式會社ノ設立	七六
第一節 定款ノ作成	七七
第一款 定款	七七
第二款 定款確定者定款作成者	七八
第三款 定款確定ノ方法定款ノ作成	七九
第四款 定款確定ノ法律上ノ性質	八〇
第二節 株式ノ引受	八一
第一款 引受ノ主體	八二
第二款 引受ノ形式	八二

第三款 引受ノ内容	八四
第四款 繼株式引受ノ確定	八五
第五款 株式引受ノ法律上ノ性質	八七
第三節 株金ノ拂込	九〇

商法會社ノ概要

商法會社ノ概要
第一節 會社ノ之類
第二節 會社ノ組織
第三節 會社ノ運営
第四節 會社ノ財務
第五節 會社ノ監査
第六節 會社ノ解散

商法會社 目次

目次

五

商法會社目次

第一章 商法會社ノ定義	一
第二章 商法會社ノ組織	二
第三章 商法會社ノ運営	三
第四章 商法會社ノ監督	四
第五章 商法會社ノ解散・清算	五
第六章 商法會社ノ違法	六
第七章 商事會社ノ規制	七
第八章 附則	八
第九章 附則	九

商法會社 異議人等の事例を以て示す。本篇大體は前半八節、後半二節の構成である。
第一節 創立目的と組織の種類について、法人としての性質を明確にする。組織は合資会社と代表會社の二種類である。
第二節 創立の方法と手続について、株式の發行、社員登記、出資の確認、会員登記等の手續が詳述される。
第三節 資本の額及び資本の増減について、出資の追加、減資の方法等が規定される。
第四節 會社員の権利と義務について、出資の権利と義務、監督の権利と義務等が規定される。
第五節 會社員の責任について、出資の賠償責任、過失責任等が規定される。
第六節 會社員の資格について、出資者、監督者等の資格要件が規定される。
第七節 會社員の監督権限について、監督権限の範囲、監督権限の行使の方法等が規定される。
第八節 會社員の監督権限の制限について、監督権限の制限の方法等が規定される。
第九節 會社員の監督権限の制限の制限について、監督権限の制限の制限の方法等が規定される。
第十節 會社員の監督権限の制限の制限の制限の制限について、監督権限の制限の制限の制限の方法等が規定される。
第十一節 會社員の監督権限の制限の制限の制限の制限の制限の制限の制限の方法等が規定される。

民法ノ社團法人ニ關スル規定期件レバ社團法人缺亡ナリ以テ萬解散
事由ニ爲モルヲ除テ社員第一人ト爲リ外處ガ爲主ニ營業解散スルトシ
民法第六八條第二款是ヲ以テ民法ノ社團法人ニ付テハ二人以上ノ結合ハ社團
法人ヲ設立要件シテ存續ノ要件ニ非ナルコト明瞭ナリ之ニ反シテ商法第七
十四條第五號ニ依ルハ社員第一人ト爲リ外處ガ爲主ニ營業解散スルトシ
由本爲支商法第一百五條ハ此規定ヲ合資會社ニ準用スベキヨシ定メ支商法第
二百四十六條ニ於テ株式合資會社ハ合資會社ト同一ノ事由ニ因リテ解散スル
旨ヲ規定セリ其他商法第二百二十一條第三號ニハ株主カ七人未滿ニ減シタル
コトヲ以テ株式會社ノ解散事由ト爲セリ此等ノ規定ニ依リテ之ヲ觀レハ二人
以上ノ結合ハ會社ノ設立要件タルノミナラス又其存續要件タルヤ明カナリ
會社ヲ組織スヘキ人ノ員數ハ會社ノ種類ニ從リテ異同アリ合資會社、
株式合資會社ニ在リテハ最少數ハ二人ニシテ最大數ニハ制限ナシ舊商法ハ特
ニ合名會社ニ關シテ社員ノ數ヲ二人以上七人以下ニ制限セリ(舊商法第七四條)
株式會社ニ在リテハ社員ノ數ハ七人以下ナルコトヲ許ナス最大數ニ付テハ制

限ナシ(第一九條第二二一條參照)古ニキ骨子固文也類アリシ事也
第二會社ハ商業ヲ營謀ヲ以テ目酌トスハ否圖心スニシ同上士論ニ載
商法第四十三條ノ規定商行爲ヲ爲基業者スル用意ヲ想達セアルハ商業ヲ
營ムヲ以テ目的トスルノ意義ナリ故ニ商行爲基非ナシ行爲ヲ目的唐スル社團
ハ會社ニ非ナルト同時ニ縱令商行爲ヲ爲スノ目的トスルモ之ヲ營業ト爲スニ
非ナレハ會社ト爲ヌヲ得ヌ故ニ商行爲ヲ目的トスル當座組合ノ如キ會社ニ
非ナルコト明カナリ商行爲支商法第二百六十三條及ヒ第二百六十四條ニ規定
スル所ニシテ民事會社ト商事會社ニ區別ハ商業ヲ營謀ヲ否圖ニ在リ民法第
三十五條ノ規定ニ依レバ營利ヲ目的トスル社團ハ縱令商業ヲ目的トスルモ
ノト雖モ商法中會社ニ關スル規定ニ從ヒテ設立セル計キハ法人ナル法國律得
シシ之ニ關スル法律關係ハ總テ會社法之規定ニ依リテ支配セラルヘキモノト
ス然レトモ此ノ如キ社團ハ確會社法ノ支配ヲ受タルト云フニ止マリ之カ爲メ
ニ決シナシ會社ト爲ルヘキ事ニ非ナシガリ舊商法ハ第百五十九條ニ於テ株式
會社ハ其目的乃商業ヲ營謀ニ准ラサルヨク既亦之豈商事會社ト著哉スル規定

セリ調達商法第二百十條第二項ニモ亦之と同一ノ規定アリ故ニ此等ノ法律ニ
依ダトキハ全ク會社ニ非ナルモノカ法律ノ力所據リテ會社ト為者セシニシテ
我新商法ノ規定トハ大ニ其趣ヲ異ニスルモノトスニモ此等ノ規定
第三、會社タルニハ會社固自身カ商業ノ主人タルコトヲ要ス。ナムヘチタル
多數ノ人相集リテ團體ヲ組成シ商業ヲ營ふ場合ニ其商業カ團體員ノ共同事業
タルモノト團體自身ノ事業タルモノトノ區別アリ商業カ團體員ソ其同事業タル
場合ニハ或ハ商事上ノ組合ヲ組織スルコトアルモ會社ヲ成立スルロカナシ
會社タルキハ其團體自身カ其商業ノ主ハナラナルトカラス甚意義團體論身
カ其事業ヨリ生スル總テノ法律上ノ結果ヲ享有スル所ニ及バロ此ノ要領トノ
意義ナリ此點ハ會社ト組合ト異ナル要點ナリトス。ナムヘチタルモ此等ノ
會社ハ法人ナルヤ否ヤ是レ各國法則ノ如何ニ依リテ定せ候ハ皆問題ニシテ
概ニ論スルコト能ハス法人ハ法律ノ擬制ニ依リタ風格ヲ取得スルモノ無シテ
立法者カ擬制ニ依リタ風格ヲ與ヘンキニシテモ此等ノ各國必スシモ同一ナルニ非ス
獨逸ノ商法ハ會社ヲ法入トオルモ否ヤニ付キ明文ヲ設ケシシタ之ヲ學説ニ一

任セリ故ニ株式會社ヲ法人トスルコトニ付テハ學者間ニ始ヒ異論ナシト雖
合名會社、合資會社ニ付テハ異論アリテ多數ノ學者ハ之ヲ以テ法人ニ非不ト言
フ其詳細ハ後ニ論スル所アルヘシ我舊商法ニ於テモ會社ハ法人ナルヤ否ヤ
付キ明文ナカリシヲ以テ之ニ關シ疑義ヲ生シタリ新商法ハ第四十四條第一項
ニ於テ會社ハ之ヲ法人トス下規定シタルヲ以テ會社ノ法人ナルコト一節ノ疑
ナシ法律ヲ以テ會社ヲ法人トスルハ會社ヲシテ敏活ナガ行動ヲ爲スコトヲ得
セシメ之ニ依リテ商業ヲ隆盛國運ヲ伸張ヲ計ラントスル元在リ
我商法ニ於テ會社ハ總テ法人ナリ其性質ハ組合ト大ニ異力無カ故ニ會社ニ關
スル法則ハ法人ニ關スル理論ヲ以テ解釋說明スベキモノニシテ組合ニ關スル
理論ヲ以テ解釋說明スベキモノニ非ス惟フニ會社ト組合トハ同一ガ如經濟上
ノ思想ニ基クモノニシテ多數人相團結シテ多數ノ財產ヲ集合シ以テ其同ノ事
業ヲ營ムヲ目的トス然レバト道ハ經濟上ヨリニ者ヲ觀察シタルモノニシテ法
律上ニ於テハ大ナル差異アリ蓋シ組合ハ組合員各自カ出資シテ共同事業ヲ營
ムヲ以テ目的トスアモヨリニ抄テ組合員ハ互に此目的ヲ達スル。會員權利ヲ確

利義務ヲ有ス組合ニハ組合財産アル是レ皆法律上ニ於テハ組合員ノ共同財產タルニ過キシテ組合其モノノ所有ニ非ス組合員ハ共同事業ヨリ生スル利義ノ配當ヲ受ケ組合ヲ解散スルトキノ組合財産ノ分配ヲ受タルコトヲ得ルモ是レ皆組合員各自カ事業主タルヨリ生スル結果ニシテ組合其モノヨリ與ヘラルモノニ非ス組合事業ヨリ生スル法律上ノ效果ハ總テ組合員各自ニ及フ之ヲ要スルニ組合ハ畢竟組合員間ノ法律關係タルニ過キシテ組合其モノノ組合員ヲ離レテ獨立ノ存在ヲ保ツモノニ非ス而シテ此法律關係ハ組合契約ニ因リテ生スルモノナルカ故ニ組合ノ法則ハ契約ノ法理ヲ以テ解釋說明スヘキモノナリ之ニ反シテ會社ハ社員ヲ離レテ獨立ノ存在ヲ保テ斯ル法八ナリ社員ハ會社ヲ設立スルニ付キ互ニ權利義務ノ關係ヲ有スルコトアルモ一旦會社カ成立シタル以上ハ會社ニ對シテ權利義務ヲ有スルニ社員ヲ就職相更ニ以何等ノ關係ヲ存スルコトナシ會社財產ハ社員ノ共同財產ニ非シテ會社ヲ專有財產ナリ社員ハ各自出資ヲ爲スモ其出資額は目的ニ面テニ會社ヲ有スル社員ハ之ニ對シ何等ノ權利ヲ有セス社員ハ利益ヲ配當受易會社解散ヲ場

合ノ殘餘財產を分配ヲ受ヌ又は得ルモ是レ皆會社財產ニ對スル自己ノ權利ニ基クモノニ非シテ會社ニ對スル對人的權利ノ作用ニ過キシ會社事業ヨリ生スル法律上ノ效果ハ總テ會社ニ歸屬シ社員ハ直接ニ關係ヲ有セナルフ原則ト決夫レ此ノ如ク會社ト組合トハ其本質ヲ異ニス然ル世上往往會社ヲ以テ組合ノ一體ノ如ク考ヘ會社ノ法則ヲ説明スル時組合ノ法理ヲ以テスル者莫ルハ誤サレルノ甚シキ者エナリ左ニ會社ト組合トノ差異ノ重要ナルモノ又舉ケンヤナリ而シテ前著五文獻スイ國體ニ及培養三十正統三里日本會事會並

(一) 會社ハ商業ヲ爲ス目的トシテ以此設立スルコトヲ得ルモ組合ハ商業以外ノ目的ノ爲メニモ亦設立スル者不獲乎

(二) 會社ハ自ラ商業ノ主人シテ社員ハ然ナリモ商業上ノ組合ニ在ナシ

會社ハ組合員各自カ商業ノ主人ナリテ其ノ生計・做業・取扱・販賣ヲ獨り且

(三) 會社ハ法夫力加モ組合ハ組合員間ノ法律關係ナリ諸合員の會員モ本章ヲ終ギニ關ニ我國者立法上會社ナル文字云關スル沿革ニ付キ一言ヲ添之ハ此民法之法律案トシテ參照國議會五議出セテレタムトキ其第三編第二章第十

三節又會社者規定ヲ爲シ其第三十五回ハ營利ヲ目的トスル此團ハ商事會社設立ノ條件ニ從ヒ之則法大抵爲古董トア得云々規定遂以テ現行商法ニ規定セル會社ニハ「商事會社」ノ名稱所用ニ現行民法ニ規定セル組合ニハ「會社ナル」名稱ヲ用ヒ以テ是者之區別ヲ爲オシトセリ此ノ如ク組合ヲ以テ會社ト稱シ且商事會社カル名稱所用ヒタル時代ニ在リテ然商事會社ハ會社即夫組合ノ一種ナル如タ認メテレバナルナリ是ヒ會社ノ法人論ニ付キ誤解ヲ來セル緣由ナルヘシ然ルニ帝國議會ハ民法ノ會社ナル名稱ヲ廢シテ之ニ代フ所ニ組合カル名稱ヲ以テセリ而シテ此修正ヲ爲スト同時ニ民法第三十五條ニ用ヒタル商事會社ナル文字ハ單ヒ會社ト修正セラバヘキ矣ノ夫リシニ事此ニ及ベナリシハ議會ノ過失ナリト謂ウサギヘカニヌ此修正ノ結果會社ト組合上ハ全ク其名稱ヲ異ニシ自タ二者ノ間ニ違義ノ異方ナルアリヘキヲ示スニ至リタル出會社也以テ第三章
第二章
會社ノ種類

會社ハ種種ノ標準無依リテ分類スルトヨ得商法第四十三條之會社別分ナム

合名會社、合資會社、株式會社及ヒ株式合資會社ノ四種ト爲セリ此分類ノ標準ハ
社員カ會社ノ債務ニ對シ責任ヲ負擔スル程度ニ在リ合名會社ノ社員ハ會社之
債務ニ付キ總テ連帶又テ無限ノ責任ヲ負擔シ株式會社ノ社員ハ總テ有限ノ責
任ヲ負擔シ合資會社及ヒ株式合資會社ノ社員ハ其一部ハ無限ノ責任ヲ負擔
他ノ一部ハ有限ノ責任ヲ負擔スルモノトス第六三條第一〇四條第一〇五條第
一四四條、第二三五條、第二三六條參照)出會社ノ時又以太過度モハ然す故
茲ニ謂フ所ノ責任ナル語ヲ以テ外部ニ對スル法律上ノ責任ナル意義ヲ有スル
モノトセハ無限責任、有限責任ノ語ハ稍ヤ釋當ヲ缺クモノトス蓋シ合名會社ノ
社員ノ如ク會社ノ財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルヨド能ハ少ルトキ自己ノ
全財產ヲ以テ債務者ニ對シ辨済ノ責ニ任スル者ハ其責任至ク無制限ナルカ故
ニ之ヲ無限責任ナリト謂フカ正當カルモ株式會社ノ社員ノ如ク會社ニ對シテ
出資ノ義務ヲ負フニ止マリ會社ノ債務者ニ對シテ何等ノ責任ヲ有セナルモノ
ニ至クテハ之ヲ無限責任ト謂クコト不當ナリ故ニ有限責任及ヒ無限責任ノ語
ニ正當カル意義ヲ與ヘントセ以社員カ如何カル程度オテ其財產ヲ以テ會社寧

業ノ危險ヲ冒すシ又バカア以外區別の標準ト爲シ之ニ優劣を實體ノ有無無限ヲ分タルヘガリ外國會社ノ社員が其全財産ヲ以テ危險ヲ冒ス株式會社ノ社員ハ其引受け又バ誰受ケタル株式ノ金額ヲ限度トシテ危險ヲ冒スモノナリ若シ外部ニ對スル法律上責任ノ程度ヲ標準ナシテ二者ノ區別ヲ爲サントセハ有限責任ノ語ニ換フシニ無責任者語ヲ以テセザルヘカラス
其他新商法ニ重要ガ外國會社ノ分類ハ内國會社及ヒ外國會社ノ分類是ナガ内國會社ハ其設立營業其他一切ノ事項ニ付キ總則我商法ノ規定ニ從スヘモモナレトモ外國會社ハ然ラズ外國會社ニ對シテ適用ズベキ法則ハ商法中篇二編第六章及ヒ第七章ニ之カ規定ヲ設ケタリ此分類ハ何ヲ以テ標準トスルヤ凡ソ人ハ國籍ヲ有スルヲ以テ之ニ據リテ内國人及ヒ外國人ノ區別ヲ爲スコトヲ得ルモ會社ニハ國籍ナルモノナシ商法第二百五十五條ニハ「外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ日本ニ成立スル同種ノモノ又ハ最モ之ニ類似セル者ノト開一ノ登記及ヒ公報ヲ爲スコトヲ要スト」在茲ニ日本ニ成立スル同種ノ者不云云トアルハ外國會社ニ對シテ内國會社ヲ言表ハシタルモノナム故ニ日本ニ

成立スル會社ノ意義明カナガヨキカ内國會社及ヒ外國會社ノ區別モ亦自ラ明瞭ト爲ルヘシ予輩ハ日本ニ成立スル會社トハ日本ノ法律ニ從ヒ日本ニ於テ設立セラレタル會社ヲ謂フモノト解釋ス蓋シ現今各國ノ法律カ會社ノ種類ヲ限定シ之ニ各特別ナル規定ヲ設タルハ會社政策上ノ理由ニ基キタルモノニシテ一國內ニ設立セラル會社ハ皆其國ノ法律ニ從ハツルカラス若シ他國ノ法律ニ從ヒテ會社ヲ設立スルコトヲ得ムノトスルキ會社ノ種類ヲ限定シタル法律ノ規定ハ有名無實ト爲リ公益ヲ害スル至ルヘシ故ニ會社ノ種類ヲ限定スル法律ノ規定ハ公益上ノ規定ニシテ内外國人ノ區別ナク皆之ニ從ハツルヘカラス日本ニ於テ會社ヲ設立スルニハ日本ノ法律ニ從フコトヲ要シ外國ノ法律ニ從ヒテ設立スルコトヲ得ス故ニ日本ニ於テ日本ノ法律ニ從ヒテ設立シタル會社ハ即チ日本ニ成立スル會社ニシテ換言スレハ内國會社ナリ而シタルヘカラス日本ニ於テ會社ヲ設立スルニハ日本ノ法律ニ從フコトヲ要シ外國ノ法律ヲ論據トスルモノナムカ故ニ社會ノ變遷ニ依テ各國カ會社ノ種類ヲ限定スルコトナキニ至リタルトキハ此論結モ亦自ラ影響ヲ受ケナガカラス

日本ノ法律ニ從ヒ設立セラルル以上ト日本ニ於テ設立セラルルト外國ニ於テ
設立セラルルトヲ問ハス總テ内國會社ナリトスルハ寺靈シ株ウラガ所ナリ又
本店ノ所在地ニ依リ又ハ日本ニ於テ商法ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスルト否
トニ依リテ内國會社及ヒ外國會社ヲ區別スルコト正當ニ非ス(第二五五條第二
五八條参照)

第三章 會社ノ設立

會社ノ設立トハ會社ナル社團法人ヲ成立スルヲ謂フ而シテ會社ヲ設立スルニ
ハ一箇ノ行爲ヲ以テ足レルモノアリ或ハ多數ノ行爲ヲ必要トスルモノアリ會
社ノ種類ニ依リテ同シカラス合名會社及ヒ合資會社ヲ設立スル事ム法律ノ要
件トシテ唯定款ヲ作成スル外尚ホ多數ノ行爲ヲ必要トシ會社ヲ設立スルニ
設立スルニハ定款ヲ作成スル尙ホ多數ノ行爲ヲ必要トシ會社ヲ設立スルニ
多數人ノ集合ヲ必要キスルコトハ言ラズタナル斯ニシテ定款ヲ作成其他ヲ行
為ニ付キ之ヲ言フヨギハ多數人ノ集合アルコトヲ前提下シテ論スル事ナリ

之ヲ要スルニ會社ノ設立ニ關シ總ナノ會社ニ共通ナシ要素ハ定款ヲ作成ナリ
而シテ會社ノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ登記ヲ爲スヨトヲ要ス故ニ本
章ニ於テハ先づ定款ノ作成及ヒ登記ニ付テ説明シ次ニ設立ノ許可ヲ論シ總ニ
設立行爲ノ法理上ノ性質ヲ述ヘントス

第一節 定款ノ作成

合名會社及ヒ合資會社ヲ設立セントスル者ハ定款ヲ作成スルコトヲ要シ株式
會社ノ發起人及ヒ株式合資會社ノ無限責任社員ト爲ラントスル者ハ定款ヲ作
成スルコトヲ要ス(第四九條、第一〇五條、第一二〇條、第二三七條參照)

定款トハ何ソヤ或ハ之ヲ以テ法律行爲ナリト曰ヒ或ハ會社ノ規則ヲ記載シテ
ル書面ナリト曰ヒ或ハ會社ノ基本タル規定ナリト曰ラ子輩ハ第三說ヲ以テ正
當ナリト信ス蓋シ定款ヲ作成スルハ一ノ法律行爲ナリ予輩ノ見解ニ依レバ此
行爲ハ一ノ契約ナリ然レトニ定款作成ノ行爲ト定款其事ノ本ハ同一物也非斯
定款ハ定款作成ナル法律行爲ノ結果ナリ茲ニ定款ノ作成事ハ會社ノ規則ヲ確

定スルコトヲ謂フ又定款ヲ以テ會社ノ規則ヲ記載シタル書面ナリト言フハ定款ノ形式ト實質トヲ混同シタルモカシテ正當ニ非ス是レ猶ホ商法所謂アガ商事ニ關スル去則ヲ掲ケタル書面ナリト言フカ如ク其說ノ誤レハコトハ多書ヲ要セス商法ニ定款ノ變更ト云々語アリ是レ定款ニ定メタル規則ノ變更ヲ謂フモノニシテ書面其モノノ變更ヲ謂フニ非ス故ニ子輩ハ定款ノ正當ナル意義ハ會社ノ基本タル規則其モノス謂フト解説セント欲ス而シテ此規則ハ書面ニ記載セラルルコトヲ要ス故ニ設立者間ニ於テ書面ニ依ラスシテ定メタル規則アルモ是レ定款ニ非ス定款ノ重要ナルハ恰モ國家ニ憲法ノ重要ナルハ如レ會社ノ目的資本等會社カ法人トシテ獨立ノ存在ヲ維持シ活動スルコトヲ得ル要件ハ總テ定款ニ依リテ定マルモノトスはレ定款ニ書面ヲ必要トスル所以ナリ」定款ハ會社ノ基礎ヲ確定スルモノニシテ會社ノ内部及ヒ外部ニ舊シ法律上ノ效果ヲ發生スルカ故ニ定款ヲ作成スル行為ハ「ノ法律行為タル」とトハ多言之要セス而シテ商法ノ規定ニ依リハ會社ノ設立者ハ各自定款ニ署名セラルコトヲ要ス故ニ定款ノ作成トハ數人ノ一致シタル意思表示ニ因リテ成立スル法律行

爲ニシテ¹ノ契約ナリ體外契約ニ關スル法則ハ總テ之ニ適用セラル設立者中ニ錯誤又ハ詐欺若ク又強迫ニ因リテ意思表示シタル者アルレギ又ハ無能力者アリタルトキハ定款作成ノ行為ハ初ヨリ無効ト爲リ又ハ取消ニ因リテ無効ト爲リ其結果定款モ亦無効ト爲ルタルケシ遺忘遺失ニ因リテ無効ト作成スルニ書面ヲ要スルコト前述タルが如前尙ホ其他設立者ハ各自定款ニ署名スルコトヲ要ス又定款ニ記載スル事項ニハ必要事項ト任意事項トノ二アリ必要事項トハ之ヲ記載セラルトキハ定款ヲ無効カラシムルモニシテ任意事項ハ之ヲ記載セラルモ定款ハ有效ニ成立シ唯之ヲ記載シタルト定款ヲ作成スルニ有スルニ過キス必要事項ハ會社ノ種類ニ依リテ異動アリシテ其詳細ハ本論ニ入リテ説明スヘシ第五〇條第一〇六條第一〇五條第一〇六條第一〇七條參照²定款ノ作成³如何タル效力发生スルヤ是レ會社ノ種類ニ依リテ異同アリ會社ヲ設立スルニ定款大作成ノミニ要スルモノニ在リテハ定款ノ作成ハ其重要ナル效果トシカ會社ヲ成立セシム然モ定款作成ノ外他ニ手續ヲ必要トスルモ無

三 在來ナハ此效力ヲ生ヌ故ニ此點ヲ別ニシテ論スルトキハ定款ノ作成ハ重要ナ
テノ會社ニ通シテ左之效果ヲ生ムル事項ヲ定め、其重要性第一也。

○第二二會社ト設立者トノ間ニ權利義務ノ關係ヲ生ス。

第一ノ效果ニ付テハ取引説明ノ要ヲ見ヌ唯第二ノ效果ニ付テハ少シク説明エ
ヘシ。此效果を算するに當テは、總務事務、財務事務、人事事務等の關係、其重要性第一也。
定款ノ作成ニ因リ會社直チニ成立シテ設立者カ其時ヨリ社員ト爲ル場合ト定
款ノ作成ノミニ因リテハ會社ハ未タ成立セラ、隨テ設立者ハ直チニ社員ト爲ル
コトヲ得サル場合トニ區別ナク定款ノ作成ハ設立者ト將來成立スヘキ會社ト
ノ間ニ權利義務ノ關係ヲ發生ス例へハ設立者ハ定款ニ出資ニ關スル事項ヲ規
定セシム、因リテ一定ノ出資ノ義務ヲ負ヒ會社ノ設立費用及ヒ設立者ニ與フヘ
キ報酬ニ關スル規定ヲ爲スニ因リテ會社ハ設立者ニ對シ義務ヲ負フが如シ設立
者ノ行爲タル定款ノ作成カ會社ヲシテ權利ヲ有セシム義務ヲ負フジムハ如
何ナル理由ニ因リモノナルヤ惟フニ設立者ハ會社ノ代理人ニ非ス又其行爲ハ

新編

第三者ハ爲本ニ不ル行爲ニ非ス、然テハ輸入税ヲ負ヒ會社ス故ニ定款ノ作成ヲ以土ノ若
果果生タルハ一キ法律規定無因應者狀を謂ハシムヲ得シ而後テ法律カ此數
果ヲ規定シタルハ設立者固全能力外認定書ハシムシテ設立者ハ會社ヲ設立
者然モ在本國大抵方故、其生存條件未定然テ能力ヲ有スルモ次第失ルハ當然シ
シトナリトス。

第一節 設立ノ登記

第一項 〔本項は、正百種可内證據並テ契約書類等の登記申請書類に於て用ひ得る。〕

第二項 〔本項は、正百種可内證據並テ契約書類等の登記申請書類に於て用ひ得る。〕

第三項 〔本項は、正百種可内證據並テ契約書類等の登記申請書類に於て用ひ得る。〕

商法大規定ニ依レハ合名會社及ヒ合資會社ハ定款ノ作成ニ因リテ成立シ株式
會社ハ或ハ發起人ハ總力ノ株式ヲ引受タルニ因リ成ハ創立總會ノ總結ニ因リ
ハ成立シ株式合資會社ハ創立總會ハ終結ニ因リテ成立ヌ然シトモ會社ヲ設立
立ヲ以テ第三者ニ對抗スルニシテ登記ヲ爲スコトヲ要ス是レ蓋シ會社ハ自然人
ノ如ク形骸ヲ有スルモノニ非ナルヲ以テ登記之方法ニ依リテ其存在ヲ明カニ
シ廣義公衆忌シ會社ヲ組織及ヒ契約シタル必要アルニ由ルモノトス(第四五條)】

我商法ノ主義ニ依リハ登記ハ會社ハ設立ヲ第三者ヲ對抗スルニ必ナル。

本ガルモ外國ノ法律ニ依リ登記ヲ以テ會社成立要件並爲スモアリ細述而
法方株式會社ノ設立登記法採用タル所ノ如キヘニ由ル事ノ大體四正規
登記ヲ爲スヘキ者ハ何人ナルヤハ非賤事件手續法並規定セリ同法第百七十九
條ニ依レハ合名會社ノ設立ノ登記於總社員ヨリ申請スベキ事ノニシテ同法第
百八十五條ニ依レハ合資會社ノ設立ノ登記於總支社無限責任社員ヨリ申請ス
ベキモノナリ又株式會社ニ在及ア不總テマ取締役及ヒ總テノ監査役ヨリ申請
シ株式合資會社ニ在リテ總社ノ無限責任社員及ヒ總テノ監査役ヨリ申請ス
ベキモノトス(非賤事件手續法第一八七條、第一九六條参照)若シ登記申請ノ義務
アル者之ヲ寫リタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル(第二六一條、
第一號)

會社設立ノ登記並會社ノ本店所在地ノ裁判所ニ備附タル商業登記簿上登記
スル事ナリ故ニ支店ノ所在地ニ於テ登記スルモノミテ以テハ設立登記ノ
效果ヲ生スルコトガ精是於支店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ノ爲スヨリ要セ
ズト云フ意味ニ非ナルヨト特ニ注意ヲ要ス會社ノ設立ノ登記並本店及ヒ支店

ノ所在地ニ於テ爲スベキ事ヲナレドモ其設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ唯
本店ノ所在地ニ於テ登記スルヲ必要トスルヲ第(第四五條、第五一條、第一〇七條、
第一四一條、第二四二條)並ハモニ付すノ同様ニ會計書亦登記スル事ナリ
登記ヲ爲スニハ一定ノ期間アリテ其期間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ヌ其期間ハ二
週間ニシテ始期ハ登記ノ種類及ヒ會社設立ノ方法ニ依リテ異ナル(第五一條、第
一〇七條、第一四一條、第二四二條参照)若シ其期間内ニ登記セナルトキハ過料ノ
制裁アレトモ其期間經過後下難ニ登記ヲ許ナナルモノニ非ス申ル事ニ異無

登記スベキ事項ハ會社ノ種類ニ依リテ異同アリ又其事項ニ絕對的登記事項ト
相對的登記事項ニニアリ相對的登記事項トハ合名會社及ヒ合資會社ニ在リテ
ハ特ニ會社ヲ代表スベキ社員ヲ定メタルトキハ其氏名株式會社及ヒ株式合資
會社ニ在リテ小商業前ニ利息ヲ株主ニ配當スルキ事不論定タル事項並其科
半及ヒ總テノ種類ノ會社ニ通スル會社ニ存立時期又ハ解散事由ヲ定メタル
トキハ其存立時期又ハ解散事由ノ如キ是大要四六款語ノ如キを總合せ候事

今設立登記ノ效力ヲ擧クビハ左ノ如キ事項並其科半及ヒ總テノ種類ノ會社ニ
在リテ小商業前ニ利息ヲ株主ニ配當スルキ事不論定タル事項並其科半及ヒ總
テノ種類ノ會社ニ通スル會社ニ存立時期又ハ解散事由ヲ定メタルトキハ其存立
時期又ハ解散事由ノ如キ是大要四六款語ノ如キを總合せ候事

第一文會社人設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得セシム(第四五條)

一二、開業ノ準備ニ著手スルオトコトヲ得セシム(第四六條)

三、登記後一定ノ期間内ニ開業ヲ爲スコトヲ要ス(第四七條)〔第五七條〕
以上之總テノ種類ノ會社ニ共通ナル效力有り此外株式會社及ヒ株式合資會社
ニ特別ナル登記又效力アリ即チ左ノ如シ事例ヘ其項後對外會社或該社員會社
之四款券ノ發行ヲ爲スコトヲ得(第四七條)〔第五七條〕
第五株式ノ讓渡又ハ譲渡ノ豫約ヲ爲スコトヲ得(第四九條)〔第五九條〕
第六、株式引受人ハ訴取又ハ強迫ヲ原因ナシタ其株式引受人申込ヲ取消スコ
トヲ得(第四二條)〔第五二條〕
商法第四十五條ハ第三者ニ對抗スル會社設立ノ效力ニ付キ規定セズ保正ノ力有
故ニ會社ト社員上ノ間ニ於テハ登記方キ西固モリ設立と效力要是此易登記
ナキヲ理由トシテ出資ヲ拒ムコトヲ得ナルト同時ニ會社モ亦登記ナキコトヲ
理由トシテ設立費用ノ賄済ヲ拒ムコトヲ得ス又登記が會社ナ其設立又第三者
ニ對抗スルニ必要ナル條件ニシテ第三者カ會社ニ其設立又營業スルニ必要ナ

ハ條件ニ非ス之又以テ會社カ登記以前ニ第三者有ニ對抗法津關係ヲ生シタル
場合ニ於テハ未タ登記ナキ事項ニ對抗理由トシテ第三者ニ請求ヲ無ムコトヲ得
バナリ〔第五八條〕
尙ホ設立ト登記ニ關シテ說明スヘキ點二アリ即チ第三者ニ意思表示書體ニ拘
テス登記ヲ要スルコト及ヒ登記ノ效力ハ公告ヲ待テス利テ發生シムスト是ナ
ラ
會社設立ノ登記ハ商業登記ノ一ナリ商業登記之總則ヲ定メタガ商法第十二條
ノ規定ニ依レハ登記スヘキ事項ハ登記及ヒ公告ノ後ニ非ヌビハ之ヲ以テ對抗
ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ナルト原則トス會社ノ設立ノ登記ハ此原則ニ一
人例外ヲ爲スモノニシテ會社ハ第三者ノ惡意ナル場合ニ於テモ登記ナキ以上
ハ其設立ヲ以テニ對抗スルコトヲ得ス但第三者ニ於テ會社ノ設立ヲ認メタ
バトキハ此限ニ在ス不會社ノ設立イ事實ヲ了知シテ承認スルトナ法律上其
效果ヲ異ニスルモノナリ會社ノ設立ヲ認メス之ト取引ヲ爲シタル場合ニ於テ登
記ナキコトヲ理由トシテ其設立ヲ爭フコトヲ得ナルナリ然るに既トカラ

トス例へハ登記前ニ於テ會社カ第三者ト營業上ノ法律行爲ヲ爲ス事如ジ此場合ニ於テハ第三者ハ會社ノ設立ヲ認メ取引ヲ爲シタルモノナルカ故ニ後日之ヲ争フガトサ得ス若シ然ラストセンカ第三者ハ自己ノ權利ニ付テハ會社ヲ已ニ成立シタルモノト看做シテ之ヲ主張シ義務ニ付テハ未タ成立モタルトシテ其履行ヲ免ルト至リ理論上決シテ許スヘキモノニ非ス會社が登記前ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得サルハ法律ノ命スル所ナリト雖セ其禁止ニ違反シテ爲シタル行爲ノ效力ト禁止違反ノ效力トハ自ラ別問題シテ會社ハ業務執行者ハ之カ爲メ過料ノ制裁ヲ受タルモ行爲其モ内ハ決シテ無效ニ非ナルナ

商法第十二條ノ規定ニ依レバ商業登記ヲ效力ハ公告ヲ待テテ發生スルヨリタル原則ト爲セリ登記アルモ公告ナキトキハ其登記事項ヲ以テ第三者若シ對抗タルコトヲ得ス會社ノ設立ハ此原則ニ對シ一ノ例外ヲ爲スモノナリ會社ノ設立ハ登記アルテ以テ足リ公告ヲ後ニ非勞シハ之ヲハ第三者本對抗タルヨリ慢待テルモノニ非ス公告ヲ登記ヲ後連帶シタル時則ニ慢ナ之ヲ爲スルキ免シナリ

本件は、第三節 設立ノ免許
第三節 設立ノ免許
本件は、第三節 設立ノ免許
會社ヲ設立スルヨリ官廳ノ許可ヲ必要トスル者民法上規定スル所ノ法人ハ舊有ノ目的トスル社團法人ヲ除キ其他ハ官廳ノ免許ヲ受タルコトヲ要ス舊商法ニ於テハ株式會社ニ限リ設立ニ官廳ノ免許ヲ必要トスル旨ヲ規定シタル下モ舊商法第156條新商法ハ此規定ヲ廢止シ總て會社ノ設立ニ付テハ自由主義ヲ採用セリ故ニ苟セ法律ノ規定ニ從フ以上ハ自由ニ聽テノ種類ノ會社ヲ設立スルコトヲ得各名會社或ニ合資會社並付テ其設立ノ免許ニ關シ從來議論ナ

カリシト雖モ株式會社ヲ設立ニ付テの種種ノ主義行ハシ達ニ今昔ニ至復改ムセノナリ其詳細ハ株式會社ヲ總括シテ説明スル事項甚矣茲不詳述ニ付テ會社ノ設立ニ官廳ノ免許ヲ要ス此謂會社ノ事業ニ官廳ノ免許ヲ要ス及トシ相似ノ非力有モスナリ前者在某方ハ官廳ノ免許又慢ケ等非業界ハ會社成立セ

傍ノ者後者ニ在ナラ所官廳免許少旨場會社ハ成立シ唯其事業ヲ營ム所付キ
皆ニ許可ヲ必要シ又所開免許ニ於其開業前ニ於ノ營業ノ許可を得テノ以テ足リ
登記其他ノ手續又爲ニテ此免許不ルコトヲ必要トセス我法律ニ於テモ合名
會社及ヒ合資會社ニ付タハ此理論ニ從ヒ設立ノ免許ト營業ノ免許トア區別セ
リ然ルニ非然事外手續法第百八十七條及ヒ同法第一百九十六條ノ規定ニ依リハ
株式會社及ヒ株式合資會社ノ官廳免許ヲ受ク「キ事業ノ目的ト各社トキ
其設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス並當申請書ニ其免許書又ハ認證アル時本ノ添附
スベコトヲ要ス化カ成セ此等ノ會社ハ登記以前ニ於テ營業ノ免許ヲ受ケタル
ヘカラズノ事外手續付人ニ謂チ其當ヘ官廳へ登記モ要矣ハナド免許之當商社
會社ノ營業ノ免許又取消又猶存ルモ無カ如候ナ則效果引生スル判商法第七十
四條第二號ニ會社ノ目的タル事業ノ成功ノ不能ヲ以テ會社解散ノ事由ヒセリ
免許ヲ要スル事業ノ目的トスル會社ノ其免許ヲ取消ナレタルトキハ其事業ノ
成功ノ不能ヲ來モノ大也ノ以テ會社ハニ因リテ解散セサルヘカラス(第七
四條第一〇五條第二項)條第十四六條

第三章

第四節 設立行為ノ性質

會社ノ設立スルニ人ノ行為ヲ必要とする事ニシテハ前述シタル所ニ據リテ明カ説
カ此行爲ハ法律上如何ナル性質ヲ有スルヤ是レ本節並於此説明セシトヌル所
ナリ標示欲求本願ハ設立人ノ舊有無又新設目的並其事項
先ツ合名會社ノ設立ニ付ス之ヲ論セシニ此會社ノ設立スルニハ定款ヲ作成ス
ルニナリ要ス其定款ニ記載スベキ事項外見ルノ目的商號社員氏民名住所奉店
及ヒ支店之所在地社員ノ出資額種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準是ナリ(第五〇條)
此等事項ヲ確定スルニキハ一方ニ於テ會社ハ其組織ニ必要ナル元素ヲ具備
シ他方ニ於テハ社員ト爲ランケ欲スル者ノ意思モ亦十分ニ發表セラレテ餘出
加シト然ハ合名會社ヲ設立スル行為ヲ以テノ契約ナリト論スルコトハ正當

ナリト信ス合資會社ニ付研究ス成ル此會社モ亦合名會社ト同シク定款作成ノニ
ニ因リテ成立スルヲ以テ設立行為ノ性質モ亦合名會社ノ設立行為爲主同シタ
メ契約ナリト謂フヲ以テ至當力アドス然ラハ株式會社ノ行爲ハ如何是レ頗ル
困難ニシテ而シテ其困難ナル所以ハ株式會社ヲ設立スルニハ定款作成ノ外他
ノ手續ヲ必要トスルノ點ニ存ス予輩ハ株式會社ノ設立行為爲モ亦一人契約ナリ
ト謂フヲ至當ト認ム以下其理由ヲ説明スヘシ

株式會社ヲ設立スルニ發起人カ總ナリ株式ヲ引受タル場合且然オサル場合則
アルコトハ既ニ説明シタル所ニシテ發起人カ總ナリ株式ヲ引受ケタル場合ニ
ハ會社ハ之ニ因リテ成立ス而シテ發起人ハ會社ノ設立ヲ目的トシテ定款ヲ
作リ且株式ヲ引受エ爲スカ故ニ其意思ハ互ニ一致シ其一致シタル意思表示ニ
因リテ會社成立スルモノナリ故ニ此場合ニ於ケル株式會社ノ設立ヲ以テ契約
ナリトスルハ毫モ不法ニ非ス然レトモ發起人カ總ナリ株式ヲ引受ケタル場合
ニ於テハ其關係甚々錯雜ト爲リ之ヲ明カニスルコト容易ノ業ニ非ス此場合ニ

ハ發起人モ其引受タガル株式共付キ株主ヲ募集アルヨリヲ要シ株主ノ募集其
數ヲ委託並アヌ株式ヲ引受アリ得ガト言ハズ株式引受人ヲシテ第一回ノ拂込ヲ
爲ナシテ續キテ創立總會ヲ招集シ其總會ニ於テ會社ヲ設立スハキロトヲ拂決
シタルトキ會社ハ之ニ因リテ成立ス先づ發起人相互間ノ關係ニ付テ觀察ハレ
ハ發起人ハ會社ノ設立ヲ目的トシテ定款ヲ作リ株式ヲ引受ケ株主ヲ募集シ創
立總會ヲ招集シ其他會社ノ設立ニ必要ナル行爲ヲ爲スモノナルカ故ニ其關係
思ノ一致アルコト明カナリ又發起人ト株式引受人トノ間ニ於テニ株式ノ引
受ニ關シテノ契約成立シ其契約ハ會社ノ設立ヲ以テ目的トスルカ故ニ發起人
及ヒ株式引受人ノ間ニ意思ノ一致アルコトヲ認ムル無難カヌス餘ラハ株式引
受人相互間ニベ意思ノ一致アルヤ否ヤ惟クニ株式引受人トノ間ニ各自發起人ニ對セ
株式引受ノ意思表示ヲ爲スヨモニシテ他ノ株式引受人ニ對シ何等ノ意思ヲ表
示スルモノニ非スアルカ如シ然レトモ能ク其關係ヲ探究スルトキハ其然ラツカ
コトヲ發見スヘシ抑モ株式引受ノ申込ヲ爲ス者ハ株式引受人ト爲リ會社ヲシ
テ成立スルニ至ラシメントスル意思ヲ表示スル性ソナラ故モ發起人ハ注タル

設立者ニシテ株式引受人ハ從タル設立者ナリト兩フタ得キシ浦江ナ此等シ謂成立セシムヘカラタルウヲ議決スルモノニシテ其創立總會ノ決議ハ多數決ニ依リテ之ヲ爲スモノナリ故ニ會社ノ設立ニ反對ノ意見ヲ發表シタル者ト設立ニ赞成ノ意見ヲ發表シタル者トメ間ニ設立ニ關スル意見ノ一或カ誤キ又總會ニ出席セサル者トメ間ニモ合意ハ成立セサルカ如シ然リト雖ニ會社ノ設立ニ反對ノ意見ヲ有スル者ト雖モ創立總會ノ決議ニ禍東はラレ反對ノ意見ヲ發表シタルコトヲ理由トシテ株式ノ引受ヲ取消スコトタ得ヌ舊約株式引受之意思ム此結果ヲ豫期スルモノニシテ此結果ヲ生シタルカ爲メ會社設立之意思ヲ失フモノト謂フヲ得ス故ニ之ヲ全體ノ上ヨリ觀察スレハ株式引受人ノ會社ヲ設立セントスル意思ハ株式引受ノ申込株金ノ物込及ヒ創立總會ノ決議ニ依リテ總法ニ且完全ニ表示セラルルモノト謂ハナルヘカラス換言シカ創立總會於ケド株式引受人各自ノ意見ヲ發表ハ會社ノ設立ニ關スル意思表示ト認ムヘキモノニ非シテ其議決ヨシ株式引受人全體ノ意思ヲ表示スル件ナリ創立

總會ニ出席セサル者モ亦之ト同シ多數ノ決議ニ服從セシキノ意思ヲ有スルモノト認メタルヘカラス之ヲ要スルニ株式引受人相互通達於テモ亦會社ノ設立ヲ目的トスル意思ノ一致アルコトハ認メ得ヘキモノニシテ株式會社ハ發起人及ヒ株式引受人全體ノ一致シタル意思表示ニ因リテ成立スルモト謂フ専決シテ不當ニ非ナルヘシ
株式會社ノ設立行為ニ付キ説明シタル所ハ株式合資會社ノ設立行爲ニ付シテ亦言フコトヲ得ルカ故ニ此會社モ亦無限責任社員及ヒ株式引受人ノ義致シタル意思表示ニ因リテ成立シ其行爲ハ一ノ契約ナリト云フニ歸著ス
以上説明シタル所ヲ略言スレハ會社ハ其種類ノ如何ト問ハス總テ設立者ノ
致シタル意思表示ニ因リテ成立シ其行爲ハ一ノ契約ナリト云フニ歸著ス

第四章　會社ノ住所

住所ハ法律上重要ナル關係ヲ有スルモノニシテ人之營業場所ハ住居ニ依リテ定マル又住所ハ義務履行ノ場所ト爲リ其他涉外的法律行爲ニ付フハ重要ナ

ル關係ヲ有ス種々の業務執行並其事務執行者等の資本又は額定資本
自然人ハ其生活ヲ本據ヲ以テ住所トスルコトハ民法第三百一條ノ規定ニ依
ナリ法人ニハ生活ノ本據ナシ是ヲ以テ民法ハ法人ノ主タル事務所ノ所在地ヲ
以テ其住所ト爲セリ民法第五〇條會社ハ商業ヲ營ムヲ以フ目的トスル所ノ法
人ナリ故ニ其商業ノ本據ヲ以テ會社ノ住所トスルコト至當ナリ士議員レ商法
第四十四條第二項ニ於テ會社ノ住所ハ其本店ノ所在地ニ在ル性ナキを規定
セル所以ナリ而ヒ本店之所在地ニ在ル性ナキを規定

會社ハ數箇ノ營業所ヲ有スルコトヲ得テ商人タバ商人カ販賣或業所更有不
ル場合ニ其本店及ヒ支店ヲ區別スルコトハ稍々困難ニシテ之異議固ス所ニシキ
事實上ノ調査ヲ爲サヌルヘカラス然ルニ會社ニ在リテハ本店及ヒ支店ノ所在
地ハ定款ニ記載スベキ絕對的必要事項ナタ故ニ其本店及ヒ支店の定款同一號
スレハ容易ニ識別スルコトヲ得ヘシ

民事訴訟法第十四條第二項ハ法人ノ普通裁判籍ヲ以テ事務所ノ所在地ニ在ル
モノト規定セリ然レバ商法附本店ノ所在地ニ以テ會社ノ住所意認ル旨ト又

規定契約ノ以上會社並普通裁判籍ハ其住所並依リ定マム又テ論ヲ挙ガズ
ル故ニ民事訴訟法第十四條第二項ニ規定中會社ニ關する部分ハ殆ド無業骨
歸シタルモノト謂ウ所ナカニ民法訴訟法第一〇條參照前人ノ義文セイ如
會社ノ本店ハ以上ノ如ク其住所ヲ定めル甚重要才ガノヨリナラ不其他種種ノ點
ニ於テ重要ナル關係ヲ有ス例ハ空會社ノ設立又以テ第三者ニ對抗スルニハ本
店ノ所在地ニ於テ登記スルコトヲ要セ合名會社及ヒ合資會社ノ退社員ハ本店
ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負セ
又株式會社ノ取締役及ヒ株式合資會社ノ無限責任社員ハ株主名簿及ヒ社債ノ
原簿ヲ本店ニ備附タルコトヲ要スルカ如後第四五條第七三條第一七一條參照
會社ハ商業ヲ營ムヲ以テ目的トスル所又社團法人ナリ其商業ハ商業ナリナシ
ヘカラス或ハ商業ヲ營ムハ會社設立ノ要件ニシテ會社存續ノ要件且非サルモ
ソノ如ク論述ル學者莫衷其理由ヲ見ルニ會社ハ法定ノ手續ニ從ヒ定款ヲ具セ

スル所トヲ得而本本其定款ヲ變更及ハ法律上何等不制限有シ故ニ始末又會社ヲ設立スルニ在商業實務ニ方易ノ目的トギルコトヲ要不得ト矣但設立シタガ以上ニ定款變更ノ手續ニ依リテ商業以外別事業ノ目的トギル者未ア得ト子輩ハ此說ニ賛スル能ハス以下其反對ノ理由ヲ説明スヘシ

(二) 民法第三十三條ノ規定ニ依レハ法人ハ民法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニ非ナレハ成立スルコトヲ得ス而シテ同法第三十四條ハ祭祀宗教慈善學術技術其施公益ニ關スル社團又ハ財團ニ關スル要件セラルキノフ法人をハルキ主務官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要スル旨ヲ規定シ第三十五條ハ督刺ヲ目的トスル社團ヲ法人トスルニ關スル會社ニ關スル規定ニ從フヘキコトヲ定シ第三十六條ハ外國ノ商行政區畫及ヒ商事會社ヲ法人トスルコトヲ規定シ第三十七條以下ニ於ク社團法人及ヒ財團法人ノ設立行動及ヒ消滅並購入ノ規定ヲ爲シタルリ會社ハ商法第四十二條以下ニ從ヒテ法人ト爲スコトヲ得ハ社團ナリ唯會社ノ設立者ニ意思ニ因クヌシテ當然法人タルセトカ義法ナシ規定ニ關スル社團法人ト異ナル所アルソミテ民法及ヒ商法ニ規定セルモナリ外

他ノ法律ノ規定ニ依リテ無人舎セモノ數多ヨリ市制町村制ニ依リテ市町村カ人格ヲ有ハル者如キ重要輸出品同盟組合法并依リテ其組合カ法人タガカ如キ又保險業法ニ依リテ相互會社カ法人タルカ如キ即チ是ナリ夫レ此ノ如ク法人ハ法律ノ規定ニ依ルニ非少シハ成算スルコトヲ得サシセメニシテ之ヲ立法ノ方面ヨリ觀察スルキハ種種大ル社團及ヒ財團ヲ法人トスルニハ各其手段ヲ異ニスル必要アリト認メ或ハ民法或ヒ商法或ハ其他之法律ニ於テ其成立ニ關スル規定ヲ爲シタルセオリ故ニ此等ノ規定ハ各獨立シテ決シテ互ニ混用スルコトヲ許サシルモイト謂サナルハカラス今會社ハ商法ノ規定ニ從ヒテ設立スルコトヲ得又商法ノ規定ニ從ヒテ法人タル資格ヲ取得スルモノナリ而シテ商法第四十二條ハ商業ヲ營ムヲ以テ目的トスル所ノ社團ヲ會社ト稱シ第四十四條第一項ハ之ヲ法人ト爲シタルヲ以テ觀レハ商法ノ精神ハ商業ヲ營ムヲ目的トスル所ノ社團ヲ法人トスルニ在リテ商業以外ノ目的ヲ有スガ社團ハ他と無能共於テ之ヲ法人トスル惟別商法ニ於テ之ヲ法人トスルセシモ非少キ解スルダツ至當トス果シテ然ラム定款ヲ變更ハ會

社ノ本質ヲ害セナル範圍内に於テアラ實ニ其ノ目的ヲ達成シ得タルか否トハ多言ヲ要セス若シシ定款ヲ變更シ無制限上之ヲ爲スヨリヲ得ルカ故ニ會社ノ目的ヲ變更シテ商業以外ノ目的下爲スコトヲ得トスレハ商業以外ノ目的ヲ有スル社團ヲ法人トスルニ付キ種種ナル規定ヲ設ケタル他ノ法律ハ之カ爲メニ破壊セラレ法人ニ關スル法律ノ規定ハ支離滅裂スルニ至ルヘシ例へハ會社ノ目的ヲ變更シテ民法第三十四條ニ規定セル公益ニ關スル事業ト爲スカ如シ此等ノ事業ヲ目的トスル社團ハ其成立ニ主務官廳ノ許可ヲ必要トスルニ拘フラス會社ノ定款變更ノ手續ニ依ルトキハ主務官廳ノ許可ヲ要セシテ、法人トシテ存在スルニトラ得ルニ至ル此ノ如キ結果ヲ生スルハ解釋オ正鵠ヲ得タルモノニ非サルヘシ之ヲ據スルニ法人ハ法律ノ規定ニ依リテ成立スルモノニシテ法律ハ社團ヲ類似ニ依リ之ヲ法人トスル手續ヲ異ニスルカ故ニ商法ノ規定ニ依リテ人格ヲ取得スル所ノ會社カ其目的ヲ變更シテ他ノ法律ニ於テ法人トスル社團ノ目的ヲ爲シ會社ノ實質ヲ變更シテ他ノ種類ノ法人ト爲ス

ハ法律ノ解釋上爲シ能ガナル所ナリト謂フアリ當も本ハ實質ヲ變更シ得タル事例也
(一) 會社ノ目的ト會社設立ノ目的トヤ異ナリ、會社ノ目的トハ其經營スル所ノ事業ヲ謂ヒ會社設立ノ目的トハ商法カ會社ト稱スル社團ノ設立ニ必要ナ
会ノ目的ヲ謂フ、會社ノ設立行為ヲ以テ一ノ法律行為ナリトスレハ設立ノ目的
ハ其法律行為ノ目的ニシテ會社ノ目的ハ其法律行為ノ結果トシテ生シタル
社團法人ノ目的ナリ、抑モ法律行為ハ其目的ニ依リテ確定シ其目的ノ變更ハ
法律行為ノ效力ヲ消滅セシムルコト一般ノ原則ナリ例ヘア賣買ト貸借ト異
ナルハ其目的ノ異ナルニ由リ賣買ヲ變シテ貸借ト爲スコトヲ得サルカ如シ
定款ヲ變更シ會社ノ基本タル規則ノ變更ニシテ會社ノ設立行為ノ目的ヲ變
更スルモノニ非ス設立行為ノ目的ヲ變更セハ會社ハ之ニ因リテ消滅セナル
ヘカラス商法第四十二條ハ商業ヲ營ムヲ以テ會社設立ノ目的トセリ然ニ會
社ノ目的タル事業ノ變更ハ定款變更ノ手續ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ルモ
其變更の會社設立ノ目的ニ抵觸セザル範圍内ニ就テノミ之ヲ爲スルトシ得
換言又レハ目的タル事業ノ變更ノ爲スニ會社ヲシテ商業ヲ營ムモノニ非ナ

社團ト爲シテ得ス。會社ノ目的タル事業ニハ之ヲ營ムニ官廳ノ許可ヲ要シモ可也。又之ヲ要セ
タルモノアリ官廳ノ許可ヲ要スル事業ハ其許可ヲ得タル後ニ非ナレハ之ヲ營
ムコトヲ得サルト同時ニ一旦許可アリテモ後之ヲ取消オレタトキノ翌後之
ヲ營ムコトヲ得ス而シテ會社ハ其事業ヲ營ムニ官廳ノ許可ヲ必要トスルト否
トヲ問ハス。本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非ナレハ開業ニ準備ニ著手スル
コトヲ得ス(第四六條況ヤ開業スルニ於テフヤ若シ會社ノ業務ヲ執行スル者ガ此
禁止ニ背キテ開業シ又ハ開業ノ準備ニ著手シタルトキハ五圓以上五百圓以下
ノ過料ニ處セラム(第二六一條第五號)而シテ此禁止ニ違反シテ當レタル行爲ノ
當然無效ニ非ナルコトハ既ニ一言シタル所ナリ。獨逸商法ノ規定ニ依セハ株式
會社ノ設立登記前ニ於テ會社ノ名ヲ以テ爲シタル行爲ニ付テハ行爲者タク其實
ヲ負ハナルヘカラス是レ獨逸商法ハ登記ヲ以テ株式會社ノ成立要件ト爲シタ
ルカ故ニ登記前ニハ會社ナルモノノ絶對的ニ存立セサル方哉ナリ。我高法ハ登記
ヲ以テ會社成立ノ要件ト爲ナス唯之ヲ以テ第三者ニ會社ノ設立ヲ對抗スルニ

必要ナル條件ト爲セリ而シテ第三者ニ登記前ニ於テ會社ニ對シ其設立ヲ對
抗スルコトヲ得ルカ故ニ登記前ニ於テ會社ニ取引未爲シタルトキハ其行爲ハ
當事者雙方ニ對ジ有效ニ成立スルコト可得成ハ。商法第四十六條ハ公ノ秩序ニ
關スル規定ニシテ之ニ反スル目的ヲ有スル法律行爲ハ絕對的ニ無効ナルカ如
キ觀アリ然リト雖モ子輩ハ此規定ヲ以テ公ノ秩序ニ關スルモノニ非スト信ス
假ニ公ノ秩序ニ關スルモノナリトスルモ登記前ニ爲シタル法律行爲ハ公ノ秩
序ニ反スルコトヲ目的トスバモノニ非ス何トナレハ法律ヲ禁止スル所ノセノ
ハ登記前ニ於ケル營業ニシテ法律行爲其モノニ非ナレハナリ
會社ハ登記後一定ノ期間内ニ開業スルコトヲ要ス。商法第四十七條ニ依レハ其
期間ハ六箇月ヲ以テ原則トス然レトモ事業ノ性質ニ依テ六箇月内ニ開業ヲ爲
スコトヲ得ナルモスアリ此ノ如キ事業ノ目的トスバ會社ニ之ヲ強制スルハ正
當ナラス其他正當ナル事由ニ因リテ六箇月内ニ開業不能ト能ヤタル場合ニ
限リ裁判所ハ會社ニ請求ニ因リ此法定メ期間ヲ伸長シ所セト不當請求メ手
續及ヒ裁判ニ關シテハ非證據件手續法第百二十六條第一項、第百三十四條第二

項第一百三十五條ニ規定セラ第47條同上二百二十六条第一項第三百三十回判例第二
會社カ法定ノ期間内若クハ裁判ニ由リテ定マリ來ル期間内ニ開業セラムトキ
ハ其效果如何舊商法第八十三條ハ會社ノ登記及ヒ公告ヲ無效シスルニ止マリ
タレトモ新商法ハ裁判所ヲシテ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ解散
ヲ命スルコトヲ許セリ其理由ヲ按スルニ會社カ登記後六箇月ヲ經過シタル後
ニ於テ尙ホ開業セツルハ正當ノ理由ナクシテ開業スルヨドモハツルモノト推
定スヘタ開業スルコト能ハツル會社ヲシテ登記公告ヲ爲シタル儘永久ニ存續
セシムルハ會社ノ取締上妨アルノミオラヌ成ハ之カ爲メ弊害ヲ生スル虞ナシ
トセズ故ニ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其開業セツル事由ヲ調
査シ會社トシテ存續セシムル必要ナシト認メタルトキハ解散ヲ命スルコト商
業政策上甚ダ便宜トスル所ナリ是レ商法第四十六條ノ規定アル所以ナランカ
此場合ニ解散ニ關スル手續ハ非訟事件手續法中簡示ノ法律ニ規定セラレタリ
會社カ營業中公ノ秩序又ハ善良ノ風俗を反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所
ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解説判命本成子時未得是ハ聞ル如キ會

社フ有權セシムルハ公益ニ害アルカ故ナリ(第四八條)

第一編 合名會社

第一章 合名會社ノ意義

合名會社ハ社員オ全體カ無限責任ヲ負擔スル所ノ會社ナリ社員ノ責任ノ無限
ナムト有限ナルトニ依リ會社ノ種類ヲ分フ場合ニ於テ責任ナル賄辭ニ適當ナ
ル意義ヲ與ヘント欲キ不此語辭ハ經濟上ノ意義ヲ有シモノト爲ス人キヤト
既ニ說明シタル所オリ然リト雖モ茲ニ合名會社ノ意義ヲ明カニスルニ當リテ
ハ合名會社カ法律上他ノ會社ト異ナル所ノ特質ヲ舉クル必要アリ體ヲ茲ニ所
謂無限責任ナル語ハ外部ニ對スル法律上ノ意義ヲ有スガモノナルコト特ニ往
意ヲ訪ハントスル所ナリ

舊商法ハ法律ノ規定ヲ以テ會社ノ意義ヲ定メントシ第七十四條ニ於テ合名會
社ノ定義ヲ掲ケ第百三十六條ニ於テ合資會社ノ定義ヲ掲ケ第百五十四條ニ於
テ株式會社ノ定義ヲ掲ケタリ新商法ノ之反対ヲ法律ヲ以テ會社ノ定義ヲ定

メヌ後ニ各名會社ノ意義ヲ知る所當歟其事は法律ノ規定ヲ觀照シ此會社カ他又會社ト異ナシ所及特質ヲ探究スルヨリトヨリ要は商法第六十三條ノ規定ニ依レム會社ノ財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルヨリ能ハサルより各社員が連帶シテ其辨済ノ責ニ任セサルヘカラス此規定ハ合名會社ノ社員ハ其出資ヲ限度トシテ會社ノ損失ヲ負擔スルヲ以テ足りリトセス自己ノ全財産ヲ以テ會社債務ヲ辨済フ爲ナツルニカラサルトヲ定メタルモノナリ之ニ反シテ合資會社及は株式合資會社ハ無限責任社員及ヒ有限責任社員ヨリ成立シ合名會社ノ社員ニ關スル規定ハ其無限責任社員ノミニ準用セラルルカ故ニ有限責任社員ハ會社ニ對シテ出資ヲ爲スノ義務ヲ負フニ止マリ會社ノ債務ニ付キ第三者ニ對シテ法律上何等ノ責任ヲ負ムモノ非ス其他株式會社ノ社員モ亦其引受けハ無限ケタル株式ノ金額ヲ限度トシテ會社ニ對シ出資ノ義務ヲ負フニ止マル之ニ依リテ觀レハ社員ノ全體カ會社ノ債務ニ付キ無限ノ責任ヲ負擔スルハ合名會社ニ於テノミ見ル所ナリ故ニ之ニ據リテ合名會社ノ意義ヲ定ムルコトヲ正當トス

次に本論主なる點へ想起ニ當て取次諸大老諸賢人等

此無限責任ハ社員ノ意思ニ關係ナリ發生ス故ニ或社員カ之ヲ反對ノ意思ヲ有ストノ理由ヲ以テ無限責任ヲ免ガルヨリ上ヲ得ス然ヒトモ其反對ノ意馬カ定款ニ依リテ外部ニ發表セラレタル場合ニ於テハ其社員ハ無限責任ヲ負フコトナシ是レ合名會社ノ社員トシテ無限責任ヲ免ガルモノナリ非スシテ社員中ニ此ノ如キ意思ヲ有スル者アリテ其意馬カ定款ニ依リテ外部ニ發表セラレタル場合ニ於テハ合資會社カ成立スルハ格別合名會社ハ正當ニ成立セサルカ故ナリ又此無限責任ハ會社ノ外部ニ對スルモノナリ故ニ會社ノ内部ノ關係ニ於テ或社員ノ責任ニ制限及加スルコトハ合名會社ノ特質ニ反スルモノニ非ス唯其内部ニ制限ハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルノミ第三者カ其利益ヲ拋棄スルハ一般ノ場合ト同様ク他人ノ利益ヲ害セサル範圍内ニ於テ爲シ得ル所ナルカ故ナリニ非夫レ此ノ如ク合名會社ノ社員ノ責任ハ外部ニ對シ無限ナリト雖モ第三者トノ特約ニ因リ之ヲ制限スルヨリハ法律ヲ禁スル所ニ非ス是レ無限責任ノ規定ハ第三者ノ保護ノ目的トスルモノニシテ第三者カ其利益ヲ拋棄スルハ一般ノ場合ト同様ク他人ノ利益ヲ害セサル範圍内ニ於テ爲シ得ル所ナルカ故ナリニ非

獨逸商法ニハ合名會社ヲ法人トスル法條ナ然多數ノ學者ハ之ヲ以テ法人ニ非スルモノトスル旨既ニ述ヘタル所ナリ而シテ合名會社ヲ以テ法人ニ非スルタル學說ノ根據ノ一ハ此社員ノ無限責任ヲ以テ法人ノ思想ニ抵觸スルモノトスニ在リ故ニ此無限責任ヲ果シテ法人ノ思想ニ抵觸スルモ否セラ研究ノルハ決シテ無用ノ事ニ非ス以下之ニ付キ少シク論述スヘシ

法人ト組合トノ區別ヲ要點シ總論第一章ニ於テ説述セリ法人ハ權利ノ主體ニシテ組合ハ組合員間ノ法律關係ナリ組合事業ヨリ生シタル債務ハ組合員ノ共同債務ニシテ組合ノ財產ハ組合員ノ共同財產ナルカ故ニ組合ノ財產ヲ以テ其債務ヲ完済スルコト能ハナルトキ組合員カ自己又全財產ヲ以テ其辨済ヲ責ム仕ヌルハ當然ノ結果ナリ之ニ反シテ法人ノ債務ハ法人ナル權利主體ノ債務ニシテ社員ノ共同債務ニ非ス法人ノ財產モ亦法人一箇ノ財產ニシテ社員ノ共同財產ニ非ス果シテ然ラバ法人ノ債務ハ法人ノ財產メミヲ以テ辨済シ不足ケルトキハ法人ノ破産ヲ惹起シ法人ハ之ニ依リテ解散スヘキモノニシテ法人ト全社員ノ權利主體タル社員ハ其財產ヲ以テ法人ノ債務ヲ辨済スルモ義務ヲ生

セナルモメトスルコト論理上正當ナリ若シ社員カ會社ノ債務ニ付キ辨済ノ責ニ任スルセシトスルニハ保證ノ如キ法律上他人ノ債務所付キ辨済ノ責ニ任スベキ原因为アルヲ必要トス然ルニ合名會社ニ於テハ社員ハ此ノ如キ原因ナクシテ會社ノ債務ニ付キ辨済ノ責ニ任ス是レ合名會社ハ法理上一ノ組合ニシテ法人ニ非ナルカ故ナリト云フハ非法人説ヲ主張スル獨逸學者ノ唱道スル所ナリ此説ハ理論上正當ナリ故ニ社員ノ無限責任ヲ以テ法人ノ理論ヨリ生スル當然ノ結果ナリトスルハ正鶴ヲ得タルモノニ非ス立法上合名會社ヲ法人トスルヲ可トスルヤ否キハ別問題ナリキモソシテ會社ノ債務所付キ辨済ノ責ニ合名會社ノ特質トシテ掲クヘキモノハ社員ノ無限責任ノ外ニ之ナキヤ否ナ哉商法第七十五條ハ合名會社ノ商號ニハ總オノ社員又ハ其一人若クハ數人ノ氏ヲ用ヒヒ之ニ會社ナル文字ヲ附スヘキコトヲ規定シ第百三十九條ハ合資會社ノ商號ニハ社員ノ氏ヲ用フルコトヲ得ツルヲ原則トシ唯無限責任社員ノ氏ヲ用フルコトヲミヲ許シ何レノ場合ニ於テモ合資會社ナル文字ヲ稱スヘキコトヲ規定シ第百七十三條ハ株式會社ノ商號ニハ株主ノ氏ヲ用フルコトヲ得ス且株

式會社ナル文字ヲ附スヘキコトヲ規定セリ故ニ會社ノ商號ニ社員ノ氏ヲ用ア
ベコトハ合名會社ノ特質トシテ掲クヘキモノナリシ制逸及ヒ佛祖西ノ商法ニ
モ之ト同一ノ規定アリ我新商法ハ此點ニ修正ヲ加ヘ第十七條ニ於テ會社ノ商
號中ニハ其種類ニ從ヒ合名會社合資會社株式會社又ハ株式合資會社ナル文字ヲ
用フヘキコトヲ規定セリ故ニ合名會社ノ商號ニモ社員ノ氏ヲ用フルコトヲ必要才
シ獨佛等ノ法律ニ於テ合名會社ノ商號ニ社員ノ氏ヲ用フルコトヲ必要トシタ
ルハ沿革上ノ理由ニ依ルモノニシテ次シテ法理上若クハ實際上ノ理由ニ出ツ
ルモノニ非ス往時ニ在リテハ合名會社ノ社員ハ會社ノ債務ニ付キ各自連帶
限ノ責任ヲ負フモノニ非スシテ會社ノ業務ヲ執行スル社員ノミ之ニ對シ連帶
無限ノ責任ヲ負擔シタリ故ニ無限ノ責任ヲ負擔スル業務執行社員ヲ表示スル
カ爲メ其氏ヲ會社ノ商號ニ用フルノ必要アリタリ然ルニ其後無限責任ノ負擔
ハ共同事業ノ爲メ社員各箇ノ對人的信用ヲ基礎トスル元ノナシトノ觀念ヲ生
シ業務ヲ執行セナル社員モ亦無限責任ヲ負擔スルニ至レラ故ニ初テ合名會社
ノ商號中ニハ業務ヲ執行スル者ノ氏名ヲ掲ケ之ニ依リテ或社員カ業務ヲ執行

シ且無限ノ責任ヲ負擔スルコトヲ表白シタルヒトモ其後業務執行ト無限責任ト
ハ必要ノ關係ヲ有セサムニ及ヒ商號中ニハ唯或社員ノ氏ヲ掲クルコトヲ必要
トスルニ至リタルモノナリ我舊商法カ第百十三條ニ於テ社員ニ非サル者カ會
社ノ商號ニ其氏ヲ顯ハスコトヲ承諾シ又ハ之ヲ顯ハスニ任セタル者ハ社員ト
同一ノ責任ヲ負擔スルコトヲ規定シタルハ能ク商號中ニ氏ヲ顯ハスコトト無
限責任トノ關係ヲ説明シタルモノナリ然リト雖モ現今ノ法律ニ於テハ無限責
任ヲ負擔スル者ハ商號ニ氏ヲ顯ハシタル社員ノミニ限ラスシテ其他ノ社員セ
亦之ト同一ノ責任ヲ負擔スルカ故ニ合名會社ノ商號ニ社員ノ氏ヲ用フルコト
ヲ必要トスルハ現今ニ於テハ全ク其實用ヲ失ヒタルモノナリニ

此他明治二十三年ノ舊商法ハ合名會社ヲ組織スヘキ人員ノ最大數ヲ七名ト定
各自無限ノ責任ヲ負擔シ且各自業務ヲ執行スル權利ヲ有スルモノナルカ故ニ
メ他ノ種類ノ會社ニハ此ノ如キ制限ヲ加ヘサルカ故ニ此點モ亦合名會社ノ特
質ノ一トシテ教フルヲ得タリ然レトモ新商法ハ此ノ如キ制限ナキツ以テ今日
ニ於テハ之ヲ以テ合名會社ノ特質トシテ掲クルヲ得ヌ蓋シ合名會社ノ社員ハ

此會社ハ社員相互間ニ大ナゾ信用ヲ有スルニ非ナシハ成立スガフ得ス故ニ法

律ニ於テ社員ノ最大數ヲ制限セサムモ實際上合名會社ヲ組織スル者ノ數ニハ制限アリ又假ニ多數ノ人カ合名會社ヲ組織ストスルモ之ヲ禁スルノ理由ナシ

第二章 合名會社ノ設立

合名會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス(第四十九條定款ニ記載スヘキ経営的必要事項ハ第五十條ニ掲ケラル即チ左ノ如シ)但其員ノ資本ノ額及出資額ノ理由ナシハ
一、目的：目的トハ會社之經營スル事業ヲ謂フ此事業ハ必ス商行為ヲ目的ト
スルモノナラサルベカラス是レ會社カ商業上ノ社團法人タガヨリ生スル當然ノ結果ナリ
二、商號：商號ニハ必ス合名會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス第一七條はレ
商號ニ依リテ其會社ノ社員カ無限責任ヲ負擔スルコトヲ公示セシメントスル
カ爲メナリ社員ノ氏ヲ用フルコトハ商號ヲ要存ニ非ス以て開業セシム
三、社員ノ氏名住所：社員ヲ氏名住所ヲ獨クルハ之能依リテ無限責任ヲ負擔

スル者ア明カニタルバ趣旨ニ由ツ商法ハ氏名ナル語辭ト商號ナル語辭トヲ區別シテ用ヒタリ故ニ商號ヲ記載スルコトハ法律ノ認メサル所ナリト謂ハサル
ヘカラヌ外妻スベテ掛見ノ丸音第六一

四、本店及ビ支店ノ所在地：是ハ營業所ア記載ナリ茲ニ本店及ビ支店トアリ
テ支店ノ所在地ハ必ス定款ニ記載スルコトヲ要スルモノノ如キ觀アリ然レト
モ支店ヲ有セナル會社ニ於テ支店ノ所在地外記載ヲ爲スハ事實上不能ナリ法律ハ人ニ不能テ強制スルモノニ非ス故ニ設立ノ當時支店ヲ有セナル會社ニ在リテハ定款ニ本店ノ所在地アミヲ記載スルヲテ足ルモノト解セサルヘカラ
ス法文ニ拘泥シ會社ヲ設立スルヨニハ必ス本店及ビ支店ヲ置クコトヲ要シ其所
在地ヲ定款ニ記載スルコトヲ要ストスルバ予輩ノ探ラナル所ナリ

五、社員ノ出資ノ種類及ヒ價額又ハ評價ノ標準：是レ會社財產ト社員ノ私產トヲ固別シ損益分配等ノ標準ヲ定ムルニ付キ必要ナル事項ナリ拂セ會社ハ社員ノ出資ヲ資本トシ營業スル者ニシテ既ニ差入レタ麻出資或社員ノ私產ヲ離シテ會社ノ財產ニ歸スルモノナルカ故ニ一方ニ於テハ會社ノ財產ヲ明カニシ

他方ニ於テハ出資利社員ノ他ノ財産トノ區別ヲ明カニスルコトハ會社ノ基礎ア堅固ナラシムルニ於テ必要アリ且出資ノ多寡ハ營業上ニ生シタル會社ノ損益ヲ社員間ニ配當シ會社解散ノ場合ニ於テ殘餘財産ノ分配ヲ爲シ付クモ當ニ標準ト爲シモノナシカ故ニ定款又以テ出資ノ額ヲ明確ナラシムルハ後日ノ紛議ヲ防止スルニ於テ最ニ必要トスル所ナリ單に財主文書題文ミ商法第五十條ニ掲ケタル事項ハ定款ニ記載スヘキ絕對的必要事項ニシテ其ヲ缺クトキハ定款ハ無效キシテ會社ハ成立スルコトヲ得ス然レバトモ定款ニ記載スル事項ハ必スシモ第五十條ニ掲ケタルモノハニニ限ラス尙ホ其他ノ事項ヲ記載スルコトヲ得而シテ其事項ニ法律カ特ニ認メタルモノト然ラナルモノトアリ法律カ特ニ認メタル事項ハ下ノ如シモ認ムヨリハ既モ認ムト然ノイ一會社ノ業務ヲ執行スル社員ノ氏名第六十條参照

二 會社ヲ代表スヘキ社員ノ氏名第六一條参照

三 會社ノ存立時期第六八條参照

四 退社ノ事由第六九條第一款参照

五 持分ノ拂戻ニ關スル事項(第七一條参照) 逐項又第十一條又第十二條
六 解散ノ事由(第七四條第一款参照) 逐項又第十一條又第十二條
七 解散ノ場合ニ於ケル會社財產ノ處分方法第八五條参照

八 會社ノ本質ニ属ラナル事項ハ總テ定款ニ記載スルコトヲ得然ラナルモノハ之
ヲ記載スルモ其效ナシ認ムベシ又出資、運営並ニ販賣、支払事務等々の事務又
會社ハ定款ヲ作リタル日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ法律ニ
定メタル事項ノ登記ヲ爲スヨトヲ要ス會社ハ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲ス
ニ因リ其設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルハ既ニ説明シタル所ナリ其
登記スヘキ事項ハ第五十一條ニ規定セラル即チ左ノ如シく二種類内ニ前記ハ
一 目的
二 商號
三 社員ノ氏名住所
四 本店及ヒ支店

五 設立ノ年月日

六 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

七 社員ノ出資ノ種類及ヒ財產ヲ目的トスル出資ノ價格

八 會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ其氏名

會社設立ノ後支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ二週間に内ニ前掲ノ事項ヲ登記シ且本店及ヒ他ノ支店ノ所在地ニ於テ同期間内ニ支店設置ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス又本店若クハ支店ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ支店ヲ設ケタルトキハ其新設支店ノ所在地ニ於テ前記事項ノ登記ヲ爲ス必要ナク唯本店若クハ支店ノ所在地ニ於テ支店新設ノ登記ヲ爲スフ以テ足ル(第五一條第二項第三項)

會社カ其本店又ハ支店ヲ他ノ登記所ノ管轄區域内ニ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間に内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所所在地ニ於テハ同期間に内ニ第五十一条第一項ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス然レトモ同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノ登記ヲ爲スフ以テ足ル(第五十二条)

又第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間に内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス(第五十三条)
登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テハスコトヲ怠リタルトキハ會社ノ業務ヲ執行スル社員カ五十回以上五十回以下ノ過料ニ處セラル(第二六一條第一號)

第三章 社員

合名會社ハ社員ト財產ヲ以テ其基礎ト爲ス本章ニ於テハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ル者社員ト爲ルコトヲ得ナル者及ヒ社員タル資格ノ得喪ニ付キ説明セント欲ス
合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ル者ニ付キ特ニ法律ノ定メタルモノナシ故ニ一般ノ法則ニ從ヒ總大人ハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ト謂フア原則トスルヲ至當ナリト信ス而シテ合名會社ノ社員ト爲ルニハ法律行爲ヲ必要トスルコト普通ナリ故ニ人ハ一般ニ合名會社ノ社員ト爲ルニコトヲ得ルモ社員ト爲ルニ必要ナル行爲ヲ爲スニハ行爲能力ヲ有セナムヘカラス未成年者カ法定代理

人ノ許可ヲ得テ若クハ其法定代理人ノ行爲ニ依リ、單禁治產者ガ保佐人ノ同書ヲ得テ妻カ夫ノ許可ヲ得テ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ルヤ否ヤ商法第六十九條第五款ニ依レハ社員ノ禁治產ヲ以テ退社ノ原因ト爲セリ故ニ此規定ニ依レハ禁治產者ハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ナルカ如シ然リテ雖モ此第六十九條ノ規定ノ全部ハ決シテ人ノ意思ニ因リテ動スコトヲ得ナル公益上ノ規定ニ非ス定款ヲ以テ變更スルコトヲ得ナルモノハ破產ニ關スル規定ノミニシテ其他ハ皆定款ヲ以テ自由ニ變更スルコトヲ得禁治產ノ如キモ即チ其一ニシテ會社ハ定款ニ禁治產ヲ以テ退社原因ト爲ナルコトヲ定ムルヲ得故ニ第六十九條ノ規定ニ基キ禁治產者ハ當然合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ナルモノト謂フハ正當ナラス之ヲ要スルニ禁治產者ハ法定代理人ノ行爲ニ依リテ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得スルニシテ會社ハ退社原因ト爲ナルコトヲ得ナルノ如キモ即チ其一ニシテ會社ハ破產ノ宣告ヲ受ケタル債務者ハ復權ヲ得ルニ非ナレハ會社ノ無限責任社員ト爲ル

コトヲ得ナル旨ヲ規定セリ合名會社ノ社員ハ即チ無限責任社員ナルカ故ニ破產者ハ復權ヲ得ナル限ハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ス此他商法施行法第一百三十七條民法施行法第二條第三條ノ規定ニ依レハ家資分散者及ヒ身代限ノ處分ヲ受ケ未タ債務ヲ完済セサル者ハ破產者ト同シタ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ス
法人ハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ルヤ否ヤ此點ニ付テハ議論アリ予輩ハ法人ト雖モ法律又ハ定款ノ規定ニ依リ禁セラレナル限ハ合名會社ノ社員ト爲リ合資會社株式會社若クハ株式合資會社モ亦合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得獨逸ニ於テハ此點ニ付キ或ハ合名會社ハ他ノ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ルモ合資會社株式會社ハ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得スト曰ヒ或ハ合名會社ハ勿論合資會社及ヒ株式會社ト雖モ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得ト曰ヒ或ハ合名會社合資會社及ヒ株式會社ハ總ノ合名會社ノ社員ト爲ルコトヲ得スト曰ヒ學說一定セス是レ獨逸商法ハ合名會社ヲ以テ法人ト看做サアルヨリ生ジタル結果ナリ

然レトモ我商法ハ合名會社ヲ以テ一ノ法人ト爲シタルカ故ニ會社ト社員トハ各別箇ノ人格ヲ有ス體ヲ他ノ法人カ合名會社ノ社員ト爲ルハ法人ノ理論ニ反スルモノニ非ス或ハ說ヲ爲ス者アリ法人ハ定款ニ依リテ定マリタル目的ノ範圍内ニ於テノミ權利ヲ有シ義務ヲ負フコトヲ得ルモノナルカ故ニ合名會社ノ社員ト爲ルカ如キハ其爲シ得ナル所ナリト此說一理アルカ如シ然リト雖モ會社カ他ノ株式會社ノ株式ヲ取得シテ株主ト爲ルハ實際上常ニ見ル所ノ事實ニシテ何人モ之ニ付キ會社カ株式會社ノ株主ト爲ルコトヲ得スト言フ者ナシ予輩ハ此點ニ關シ株主ト合名會社ノ社員トノ間ニ區別ヲ設クルコト能ハスト信ス株式ヲ取得スルモ合名會社社員ノ持分ヲ取得スルモ其ニ資金ノ利用ヲ爲スモノナリ唯株式ハ其譲渡ノ自由ナルニ反シ持分ノ譲渡ハ自由ナラス然レトモ是レ資金利用ノ便否ニ關スル事項ニシテ既ニ資金ノ利用ヲ以テ會社ノ目的ヲ反セナルモノトスル以上ハ其利用ノ便否ニ因リ一ハ會社ノ爲シ得ル所ニシテ一ハ其爲シ得ナル所ナリトスルハ正當ナラス

第一節 社員タル資格ノ取得

合名會社ノ社員タル資格ヲ取得スルニハ種種ノ原因アリ以下一一之ヲ説明セント

第一　會社ノ設立者ト爲ルコト　合名會社ノ設立ヲ目的トシ定款ヲ作リテ之ニ署名スル者ハ會社ノ成立ト同時ニ社員ト爲ルコト言フハ然タル
第二　會社ト入社契約ヲ爲スコト　會社ノ成立後會社ト入社契約ヲ爲スニ因リテ社員ト爲ルコトヲ得設立後新社員ノ入社ヲ許スコトハ商法第六十四條ノ規定ニ照シテ疑フ容レス社員ノ氏名住所ハ商法第五十條ニ依リテ定款ニ記載スヘキ絶對的必要事項ナリ故ニ會社カ入社契約ヲ締結シテ新ニ社員ヲ得ルニハ定款ノ變更ニ必要ナル手續ヲ爲スコトヲ要ス商法第五十八條ハ定款ノ變更ヲ爲スニ總社員ノ同意ヲ必要トスル旨ヲ規定セリ故ニ入社契約ヲ爲スニモ亦總社員ノ同意アルコトヲ要ス而シテ入社契約ニ因ソテ新ニ社員ヲ得タルトキハ其氏名住所ハ商法第五十三條ノ規定ニ從ヒタ二週間にニ本店及ヒ支店ノ所

在地ニ於テ登記スルコトア要ス

第三 社員ノ持分ヲ譲受タルコトモ商法第五十九條ニ依レハ社員カ他ノ社員ノ承認ヲ得テ其持分ヲ他人ニ譲渡シタルトキハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得而シテ持分ノ譲渡ヘ如何ナル效果ヲ生スルナト云フニ商法第七十三條第二項ニハ他ノ社員ノ承認ヲ得テ持分ヲ譲渡シタル社員ノ責任ヲ規定シ本店ノ所在地ニ於テ其譲渡ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負ヒ其責任ハ登記後二年ヲ經過シタルトキ消滅スル旨ノ規定アリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ持分ヲ譲渡シタル社員ハ退社員ト同シク會社ヨリ脱退スルコト明カナリ果シテ然ラハ其社員ノ持分ヲ取得シタル者ハ之ニ代リテ社員ノ資格ヲ取得スルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ持分ハ社員タル資格ヲ維持スル必要條件ナルコト第七十三條第二項ノ規定ニ徴シ明カニシテ他ニ必要條件トシテ認ムヘキモノナケレバナリ其他同法第七十一條ニセ持分ノ拂戻ニ關スル規定アリテ退社員ハ努力又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト羅モ持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得持分ヲ有スルコトカ社員タル資格ノ唯一ノ要件ナルコト

新編

ト此規定ニ依リテ愈、明白ナリ之ヲ要スルニ社員ノ持分ヲ譲受ケタル者ハ之ニ因リテ社員タル資格ヲ取得ス持分ノ何タルマハ後ニ詳説スヘキモ茲ニ其大略フ述ヘンニ持分トハ社員カ社員タル資格ニ於テ會社ニ對シテ有スル財産上ノ關係ヲ謂ヒ之ヲ勤的ノ方面ヨリ觀ルトキハ出資ヲ爲ス義務利益ノ配當ヲ受クル權利、退社シタルトキ持分ノ拂戻ヲ受クル權利會社解散シタルトキ殘餘財産ノ分配ヲ受クル權利是ナリ持分ヲ譲渡シタルトキハ社員ノ變更ヲ生スルカ故ニ同法第五十三條ノ規定ニ從ヒ變更ノ登記ヲ爲スコトア要ス

以上ハ商法ニ規定セル社員タル資格ノ取得原因ナリ其他定款ニ於テ社員カ死亡シタルトキ其相續人ヲ以テ社員トスルコトア定メタルトキハ相續人ハ社員ノ死亡ト同時ニ當然社員ト爲ル此場合ニ於テハ社員ニ變更ナキモノト看做スト雖モ社員ノ氏名ノ變更ヲ生スルモノナルヲ以テ是レ亦變更ノ登記ヲ爲スヘキモノナリ

第二節 社員タル資格ノ喪失

會社カ解散シタルトキ社員カ其資格ヲ喪失スルコトハ當然ノ理ナリ然レトモ
會社ハ解散ノ後ト雖モ清算中ハ其目的ノ範圍内ニ於テ存續スルモノト謂ハサルヘカラス故
アルカ故ニ社員モ亦清算中猶ホ其資格ヲ持続スルモノト謂ハサルヘカラス故
ニ社員タル資格ノ絶對的ニ消滅スルハ清算終了ノ時ナメ以上ハ會社ノ消滅ニ
因リテ社員タル資格ノ消滅スルモノニシテ此場合ニハ總ノ社員カ同時ニ其
資格ヲ喪失ス此他特定ノ社員カ特別ニ其資格ヲ喪失スル場合アリ以下一一之
カ説明ヲ爲ナン

第一 持分全部ノ讓渡 商法ハ退社ト持分ノ讓渡ヲ區別セリ然レトモ持分
全部ノ讓渡アルトキ讓渡人ハニ因リテ全然社員タル資格ヲ喪失スルモノナ
ルカ故ニ持分全部ノ讓渡カ一ノ退社原因タルコトハ論ヲ俟タス唯單純ナル退
社ト持分全部ノ讓渡ト異ナル所ハ單純ナル退社ニ在リテハ現在ノ社員カ其實
格ヲ失フノミニシテ他入カ之ニ代ルヨトキモ持分全部ノ讓渡ニ在リテハ讓
受人ハ讓渡人ニ代リテ社員タル資格ヲ取得ス之ヲ要スルニ持分全部ノ讓渡ハ
社員ノ變更ヲ生スル一ノ原因ナリ

第二 小退社、退社ニハ任意ノ退社ト不任意ノ退社トアリ以下之ヲ分説セン

(甲) 任意ノ退社

- (一) 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メナリシトキ又ハ或社員ノ終身間會社
ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ六箇月前ニ豫告シテ營業年度
ノ終ニ於テ退社スルコトヲ得(第六八條第一項此規定ハ一方ニ於テハ社員ノ
利益ヲ圖リ他方ニ於テハ會社ノ利益ヲ害セラシコトヲ期シタルモノナリ
蓋シ定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メナリシトキハ各社員ハ會社ノ債務ニ
付キ永久無限責任ヲ負ハサルヘカラスシテ其負擔甚タ大ナリ又或社員ノ終
身間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタル場合ニ於テセ會社ハ何時マテ存續ス
ルカ之ヲ知ルコト能ハシシテ社員ノ責任ノ存續期間モ亦自ラ不確定ナリ此
ノ如キ場合ニ於テ退社ノ自由ヲ與ヘサルトキヘ何人ト雖モ安シテ社員ト爲
ル者ナク到底會社ノ成立ヲ妨タルニ至ル故ニ此二箇ノ場合ニ於テハ社員ニ
自由ノ退社ヲ許スコトハ實際上甚タ必要ナリ然レトモ之カ爲メ會社ノ利益
ヲ害スルコトヲ得ス會社ハ退社員アルトキハ之ニ對シテ持分ヲ拂戻シ爲ナ

ナルヘカラス故ニ營業年度ノ半ニ於テ安ニ退社ヲ許ストキハ會社ハ其財產ノ幾部分ヲ失フノミナラス之カ爲メ事業ノ上ニモ亦尠カラズナル不便ヲ生スルコトヲ免レス是レ法律カ六箇月ノ豫告ヲ以テ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ許シタル所以ナリ

(二) 會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス已ムヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社スルコトヲ得第六八條第二項已ムコトヲ得サル事由トハ事實上ノ問題ニシテ一概ニ論スルコトヲ得ス茲ニ一例ヲ示サハ努力ヲ出資ノ目的トセル社員カ疾病ニ因リテ引續キ勞力ヲ供スルコト能ハサルトキ又ハ社員間ニ業務執行ニ付キ衝突ヲ起シテ調和ノ見込ナキトキノ如キハ已ムコトヲ得サル事由アルモノト謂フコトヲ得此ノ如キ場合ニ於テ社員ニ何時ニテモ退社ヲ許スハ會社及ヒ社員ノ雙方ノ爲メ利益ナルカ故ナリ

(三) 定款ニ定メタル事由ノ發生第六九條第一號

(四) 總社員ノ同意第六九條第二號

(2) 不任意ノ退社

(一) 死亡 合名會社ハ社員ノ人の信用ニ重キヲ置ク所ノ會社ナリ故ニ社員死亡シタルトキ其相續人ハ當然社員ト爲ルコトナシ然レトモ定款ヲ以テ相續人ヲ社員トスルコトヲ定メタルトキハ社員ノ死亡ニ因リ其相續人當然社員ト爲ル(第六九條第三號)

(二) 破産第六九條第四號) 破産者ハ經濟上ノ信用ヲ喪失シテ自ラ財產ノ占有管理及ヒ處分ヲ爲ス能力ヲ有セサルモノニシテ商法施行法第百四十三條ハ復權ヲ得サル破産者ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトア禁シタリ故ニ破産カ合名會社ノ社員ノ退社ノ原因ト謂ハナルヘカラス

(三) 禁治產 合名會社ノ社員ハ各自業務ヲ執行スル權利義務ヲ有シ又會社ヲ代表スル權限ヲ有スルコトヲ得ス家資分散者ハ破産者ト同一視セラルコト商法施行法第百三十七條、民法施行法第二條ノ規定スル所ナリ故ニ家資分散ノ宣告ヲ受クルコトハ退社ノ原因ト謂ハナルヘカラス

(四) 禁治產 合名會社ノ社員ハ各自業務ヲ執行スル權利義務ヲ有シ又會社ヲ代表スル權限ヲ有スルコトヲ得ス家資分散者ハ破産者ト同一視セラルコト商法施行法第百三十七條、民法施行法第二條ノ規定スル所ナリ故ニ家資分散ノ宣告ヲ受クルコトハ退社ノ原因ト爲セリ但定款ニ反

對ノ規定ヲ爲スハ法律ノ據スル所ニ非ス

(四) 除名、除名トハ或社員ニ其社員タル資格ヲ剝奪スル處分ヲ謂フ除名ア
爲スコトヲ得ル場合ニ制限アリ且除名シタル社員ニ其旨ヲ通知スルニ非ナ
レハ之ヲ以テ其社員ニ對抗スルコトヲ得ス除名スルコトヲ得ル場合左ノ如
シ第七〇條

(イ) 社員カ出資ヲ爲ス能ハナルトキ又ハ借告ヲ受ケタル後相當ノ期間内
出資ヲ爲ササルトキ

(ロ) 社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得シテ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業
ノ部類ニ屬スル商行為ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無

三限責任社員ト爲リタルトキ

(ハ) 社員カ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ當リ會社ニ對シテ不
正ノ行爲ヲ爲シタルトキ

(二) 社員カ會社ノ業務ヲ執行スルノ權利ヲ有セナル場合ニ於テ其業務執行
ニ干渉シタルトキヘ當員カ人與當事ニ重複又は同一會員

第四章 會社ノ資産

（ホ） 其他社員カ重要ナル義務ヲ盡ササルトキ
以上ハ他ノ社員ノ一致ヲ以テ或社員ヲ除名スル場合ナリト雖モ其他除名ニ
關スル特別ノ場合アリ即チ商法第八十三條ニ規定スル場合はナリ此規定ニ
依ルトキハ已ムコトヲ得ナル事由アルトキハ各社員ハ會社ノ解散ニ代ヘテ
或社員ヲ除名スルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘク裁判所ハ判決ヲ以
テ除名ノ裁判ヲ爲スコトヲ得第八三條

商法第二十條ニ依レハ株式會社ノ定款ニハ資本ノ總額ヲ記載スルコトヲ要
スルヲ以テ資本ノ額ノ一定スルコトハ株式會社ノ要件ナルコトモ疑フ容レ
ス合名會社ノ資本ニ付テハ此ノ如キ明確ナル規定ナシ然レトモ會社ノ事業ト
會社ノ資本トハ互ニ密接ノ關係ヲ有シ會社ノ資本ハ必ス一定スルコトヲ要ス
何ト九レハ資本ノ額ハ事業ノ大小難易ニ從ヒテ定マルヘキモノニシテ會社ノ
事業定マル以上ハ會社ノ資本モ亦一定スル必要アリハナリ合名會社ニ在リテ

モ資本ノ一定スルコトヲ必要トセサル理由ナシ商法第五十條第五號ハ合名會社ノ定款ニ社員ノ出資ノ種類及ヒ價額又ハ評價ノ標準ヲ記載スヘキコトヲ命シタリ此法條ハ社員ノ出資ノ方面ヨリ規定シタルモノナリト雖モ出資ハ資本財產ヲ組織スヘキモノニシテ各社員ノ出資ノ種類及ヒ價額一定スルトキヘ之ニ依リテ會社ノ資本ノ額モ亦自ラ一定スルコトヲ得故ニ予號ハ第五十條第五號ヲ以テ社員ノ出資ニ關スル規定ヲ爲スト同時ニ會社ノ資本ニ關スル規定ヲ爲シタルモノナリト解セント欲ス然ラハ資本トハ何ヲ謂フカ子號ハ出資ノ價額ノ總計ヲ以テ會社ノ資本ナリト謂フヲ至當ナリト信ス資本ハ實質的ノ存在ヲ有スルモノニ非シテ一ノ思想上ノ計算ナリ今會社ノ資本カ十萬圓ナリト云フハ十萬圓ノ價格ヲ有スル動産不動産其他ノ財產ヲ云フモノニ非シテ會社カ保存セサムヘカラサル財產ノ總計ヲ謂フ會社カ現ニ有スル所ノ動産不動產其他ノ物ハ所謂會社ノ財產ニシテ會社ノ資本ニ非ス會社ノ資本ハ抽象的ノモノニシテ會社ノ財產ハ具體的ノモノナリ資本ノ増減アリタルトキハ財產モ亦増減ス之ニ反シテ財產ノ増減アルモ資本ハ増減スルコトナシ資本ハ定款ニ

依ラク一定スルニ資本ヲ増減スル所ナリ定款變更ノ手續ヲ爲スコトヲ要アリ財產ハ事業ノ狀況ニ依リ常ニ變動致テ止マ虎ノ馬久太郎會社ノ資本主會社ノ財產トノ間ニ區別アガロシハ特注注意ナ要スル點上承認ニ付セシ者也第六十條會社ハ資本ニ應スル財產ヲ保有スルニ要ス是レ蓋シ會社ノ財產ヘ會社債權者ノ擔保ヲ爲スモノナリ九故ニ會社債權者ノ利益ヲ保護スルカ爲スニハ資本ニ應スル財產ヲ保有スル必要アリニ由ル商法第六十七條ニ會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非ナレガ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得スト規定シタルハ資本財產維持ト法則ヲ定メタルモナリ會社財產カ資本ニ超過スル者ナリハ會社ニ利益アリト謂引テ爲スモノナリ九故ニ會社債權者ノ資本ナリハ會社財產カ資本ニ不足スル事項ナリ故ニ會社ハ第五十八條ノ規定ニ依ラズ會社財產カ資本ニ不足スル上カハ會社ニ損失アリト謂アリト會社財產カ資本ニ不足スル事項ナリ故ニ會社ハ第五十八條ノ規定ニ依ラズ會社財產カ資本ニ不足スル者ナリハ會社財產カ資本ニ増減アリト謂アリト會社財產カ資本ニ不足スル原因ト爲ダ故ニ會社債權者ハ資本ナリ增加無リ利潤無ナリトアリ因損失ヲ招ク日止ナリ之ニ反シテ資本ノ減少ハ會社財

益ノ減少ヲ惹起スル原因ナルニ致シ自由上資本ノ減少ヲ爲スコトハ許セ乍レ
ハ會社債權者ヲ不利益ヲ蒙ヌ事無シ或同名會社ノ社員ノ會社財產ノ債權ニ付
キ連帶シテ無限ノ責任ヲ負擔スル事故三會社ノ資本ノ減少スル事會社債權者
ハ大ナル不利益ヲ被ルコトナキ力如キ觀アリ然リ某羅モ會社債權者ニ對スル
第一ノ擔保ハ會社財產ニシテ社員ノ財產ハ第二ノ擔保ナリ社員ハ會社財產ヲ
以テ會社債務ヲ完済スルヨリ能ムタル部分ニ付キ辨済ノ責ニ任シ而シテ債權
者カ社員ノ財產ニ付キ辨済ヲ求ムルニム會社財產ニ付キ辨済ヲ求ムルヨリ能
一層繁雜ナル手續ヲ要ス故ニ會社財產ニ付キ全部ノ債務ヲ受タル下之ニ付キ
一部ノ辨済ヲ受ケ更ニ社員ノ財產ニ付キ辨済ヲ受クルトハ其便否同様ノ論ニ
非ス是レ予賛カ資本ノ減少ヲ以テ會社債權者ノ利益ヲ害スルモノナガト言フ
所以ナリ商法第二百二十條第七十八條乃至第八十條ハ株式會社ノ資本減少ニ
付キ種種タル規定ヲ爲スト雖若各名會社ノ資本減少ニ付クハ僅ニ第六十六條
ノ規定アルシミ第第六十六條ノ規定シテ曰「社員ノ出資ノ減少ハ之ヲ以テ會社
ノ債權者ニ對抗スルヨリ得ス但本店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲シタル後二

年間債權者カ之ニ對シニ異議ヲ起ヘサリシトキハ此限ニ在ヌスキ此法條ハ出
資ノ減少ニ付キ規定シタルモノナリト雖若既ニ端ヘ未ルタク如ク會社ノ資本ニ
出資ノ債額ノ總計ニシテ出資ノ減少ハ當然資本ノ減少ヲ惹起ス若シ出資ヲ減
少スルモ資本ノ減少ヲ惹起スモノニ非ストヒハ收支出賣ノ減少ニ付キ債權者
ノ同意ヲ要スルコトナシ是レ予賛カ第六十六條ヲ以テ資本ノ減少ニ關スル規
定ナリト言フ所以ナリ會社ハ社員ノ出資ヲ減少スルモノ之ヲ以テ債權者ニ骨抗
スルコトヲ得ス此規定ヲ以テ會社ハ債權者ノ同意ナクレハ出資ノ減少ヲ爲ス
コトヲ得サルモノト爲ス勿レ會社ハ定款變更ノ手續ニ從フトキハ自由ニ出資
ノ減少ヲ爲スコトヲ得シテ其減少ハ會社ノ内部ノ關係ニ於クハ固ヨリ其效
アリ第六十六條ノ規定スル所云之ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス
ト云フニ在ルノミ會社債權者カ其出資ノ減少ヲ承認シタル場合ニ於クハ會社
ハ之ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得斯ルハ論外矣タゞ又豫め會社債權者ノ承
認ヲ得スシテ出資ヲ減少シタル場合ニ於クモ其登記ヲ爲シタル後二年間債權
者カ之ニ對シ異議ヲ起ヘサリシトキハ之ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得是也

權者々暗黙ニ承認ヲ與ヘタルモノト推定スルニト、又得シムニナラニ永タ法律關係ヲ不確定カラシムルハ宜キヲ得タルモノニ非ヌレバナリ。以上ハ出資ノ減少ニ付キ述ヘタルモノナレトモ、資本ノ減少ニ付クモ亦之上同前二論アルコトヲ得ヘシ。

會社ノ資產ヲ形成スルモノハ、社員ノ出資、營業ニ依リテ得タル財產其他ノ物ナリ。此財產ハ會社ナル法人ノ財產ニシテ、社員ハ其上ニ何等ノ權利ヲモ有セヌ。唯出資ヲ爲シテ會社財產ヲ組成スルノ理由ニ因リ、會社ニ對シ財產上ノ計算關係ヲ有スルノミ。此關係ヲ社員ノ持分ト謂フ。持分ニ付テハ後ノ章ニ於テ詳説スヘシ。會社財產ト社員ノ財產トハ全ク別箇スルモノナルカ故ニ、社員ノ債權者ハ會社財產ニ對シ直接ニ權利ヲ行使スルコトヲ得ス。唯社員カ會社ニ對シテ有スル財產上ノ權利ヲ差押フルコトニ因リ、社員ニ代リテ利益リ配當、盈餘財產ノ分配又ハ、社員カ退社シタルトキ、持分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ルニ遇キス之ニ反シ、ナ社員カ會社ノ債務ニ付キ其私財ヲ以テ辨済ノ責ニ任スル時、全ク便宜上よりニ基キタルモノニテ論理ノ結果ニ非ナルコトハ當テ論述シタル所ナリ。會社

カ破産スルモ、其效果ハ會社財產上ニノミ發生シ、當然社員ノ私產並及ハサハノ原則トス。社員ハ破産ニ付テモ亦之ト同シ、會社財產ハ之カ爲メ、當然影響ヲ受ケルコトナシ。獨逸商法第百三十一條第五號カ社員ノ破産ヲ以テ會社ノ解散事由ト爲シタルハ、合名會社ヲ法人ト認メサル結果ナリ。ミタ夫會社ニハ、合名會社ハ設立登記ノ時及ヒ毎年一回一定ノ時期ニ於テ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス。一年ニ二回以上利益ノ配當ヲ爲シ、會社ニ在リテハ毎配當期ニ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス。是レ會社財產ノ狀況ヲ明カニシ且利益配當ノ計算ヲ爲スニ必要アルカ爲メナリ。第二十六條、第二十七條。

第五章　會社ノ法律關係

合名會社ノ法律關係ハ之ヲ内部ノ關係ト外部ノ關係ト區分ツコト、通常學者ノ爲ス所ナリ。内部ノ關係トは、會社ト社員トノ間ノ關係ヲ謂ヒ。外部ノ關係トは、會社ト第三者トノ關係及ヒ、社員ト第三者トノ關係ヲ謂ラ。或ニ内部ノ關係シテ、社員相互間ノ關係ヲ數ツル者アリト雖モ、社員ハ其資格ニ於テ相互ニ關係ヲ有

スルコトナシ例、ハ會社ノ業務ヲ執行スル社員相互間ノ關係又ハ業務ヲ執行スル社員ト業務ヲ執行セサル社員トノ間ノ關係ノ如キ、社員相互間ノ關係又如キ關係アリト雖モ決シテ然ラス會社ノ業務ヲ執行スル社員ハ業務ヲ執行又目的トスル會社ノ機關ナリ故、前ニ掲タルノ關係ノ如キ々其ノ機關ヲ組織スル者ノ相互間ノ關係ニシテ一ハ社員ト會社ノ機關トノ關係ナリ之ヲ以テ社員トシテ相互ニ關係ヲ有スルモノトスルハ正當ナラス蓋シ會社ヲ一ノ法人ナリトスル以上ハ社員ハ會社ニ對シテ權利義務ノ關係ヲ有スルニ止マリ相互ニ社員タル資格ニ於テ權利義務ノ關係ヲ有スルコトナシ舊商法ク「社員間ノ權利義務」ト題シテ第八十五條乃至第一百七條ニ規定ヲ爲セシハ合名會社ヲ法人民スル主義ニ背クコト甚シキキモノナリ社員カ第三者ニ對シテ法律關係ヲ有スルハ合名會社、合資會社及上株式合資會社ニ於テ見ル所ニシテ株式會社ニハ之ナキ所ナリ是レ法律カ無限責任社員ラシク會社ノ債務ニ付キ第三者並對シ責任ヲ負ハシメタル結果ナリトテ此ハ會社之內部ノ關係也當然要矣。

内部ノ關係ハ定款ヲ以テ自由ニ定ムルニシテ然之が法律ヲ規定ハ定款

上別段ノ定ナキ場合ニ於テ適用セラルニ遇キダルラ原則トス之ニ反シテ外
部ノ關係ハ定款ヲ以テ自由ニ定ムルコトナ得ナルヲ原則トス是レ外部ノ關係
ヲ定ムル所ノ法律ハ規定ム公盡ニ關係ヲ有スルコト甚タ多ク強制的ノ性質ヲ
有スルカ然ナリ立身出仕者職員候外者又ハ會社員は然外者ハ皆一
體ニ當ルベシ總員人出資ハ財産外カ財產ハ家財ニ積餘本外生財外
第一節 會社ノ内部ノ關係
合名會社ハ一ノ法人ニシテ組合利ハ其本質ニ於テ異ナム所アリハ勿論ナル也
此會社ハ社員ノ人の信用ニ基礎ヲ置クモノニシテ社員ノ會社ニ對スル權利義務
務ハ組合員相互ノ權利義務ト同一ニ定ムルヲ得各社員カ會社ノ業務ヲ執行ス
ル權利義務ヲ有スルガ如キ其議決權ハ平等ナルカ如キ若クハ自由ニ退社ヲ許
サアルカ如キ皆會社員ノ人の信用ニ基礎ヲ置クニ原因スルモノナリ是ヲ
以テ商法第五十四條ハ會社ノ内部ノ關係ニシテ定款又ハ商法別則規定定力制
モナシ付クハ組合ニ關スル民法ノ規定其專用不ヘキニ對テ定メタニ舊商法ハ
民法ヲ立シ商法ノ権利範圍外タルカ爲メニ民法ノ規定ト同一ノ規定ヲ商法

中ニ多シ存セシモ新商法派民法及規定並シテ商事ニ單用スルコトヲ得ル也
ハ皆之ヲ單用以キヲ定メ之ニ依リ本法律ノ規定ヲ重複スルコトヲ避ケタム
ニ立社上體裁ノ宜キヲ得タム考カト謂之ヘシ本節ニ於テハ社員ノ義務ヲ説明
シ次ニ社員ノ權利ヲ説明スヘシ前項根ニ基づキ而シテ是固ニベシハシヘキ事

人財務諸事項第一款 改訂社員規約
第一項 出資 第一項
出資ハ社員カ會社ノ資產ヲ組織ス所爲ニシテ供出不バ所ノ財產上ノ價格ヲ有
スルモノヲ謂フ我商法ノ用語トシテハ出資ノ目的ト謂フヲ可ト斯商法第五十
條ニ依レハ社員ノ出資ノ種類及ヒ價格ハ定款ニ記載スルコトヲ要スル事項ナ
リ故ニ會社ヲ設立シテ社員ト爲ル者及ヒ會社ノ設立後社員ト爲ル者ハ皆一定
ノ出資ヲ爲ヌ事例ハカラス但現社員ハ持分ヲ譲受ク之ニ因リテ新之社員ハ爲
シ若ハ誰達人ノ有タル財產上ノ權利義務ヲ承繼不バ以テ譲渡人ハ既ニ出資
ノ義務ヲ全部履行シタルモ其方トキハ譲受人ハ全名出資ノ義務ヲ負ヘサ

モ譲受人ハ未タ出資ノ義務ヲ全部履行モナルモノガルトキハ譲受人ハ其譲受
ケタル持分ヲ割合ニ於テ出資ノ義務ヲ負擔ス之ヲ要スルニ出資ハ社員ミ體作
スル所アーリ必然ノ義務ナリ出資ノ義務ハ會社ヲ設立スルニ因リ文ハ會社ト
入社契約ヲ爲スニ因リテ發生シ其何シノ場合ニ於テモ此義務ヲ範圍ハ定款ニ
依リテ定マルモノトス社員ハ定款ニ定メタルヨリ以外ニ出資ヲ爲スノ義務ナ
ク又之ヲ爲スコトヲ得ス出資ノ範圍ヲ變更スルニハ定款變更ノ手續ヲ爲スコ
トヲ要シ社員ハ一旦出資ヲ爲シタル以上ハ其目的ヲ消滅シ又ハ毀損スルモ之
ヲ填補スル所ノ義務ナキコト多當リ要セス又ハ鄰接地等の不動産又は機械等ハ
出資ノ目的ト爲ルコトヲ得ルモノニ三種アリ財產勞務及ヒ信用是ナリ以下之

ヲ分テテ説明スヘシ目次第ノ詳説ハノチハ其種類を總括シ會社ノ財產ナリ
第一 財產ヘ其種類要セス又ハ鄰接地等の不動産又は機械等ハ
財產ナル語ニハ廣義ナリ意義アリ之ヲ廣義ニ解スレハ荷モ經濟上ノ價格ヲ有
スル又ハ曾之ヲ財產謂フヨトヲ得勢務信用是亦此意義ニ於ケル財產ナリ
然レトキ之ヲ狹義解スレハ主トシテ財產精ヲ指シ勞務信用ノ如某ハ此中ニ

又ラノ財産中ニキ出資ノ目的上シテ最活潑事ニ行ヘバ其間ノ金錢ナリ然ド
トニ其他ノ動産不動産債権特許權等用資間並出資ノ目的ト爲ニシテ得動
産不動産ノ所有權以之出資ノ目的ト爲シテ資モキハ之ヲ會社ニ引據シタ所
以上ハ社員ハ其滅失毀損ニ付テ資ヲ負ハシレトモ動産不動産ノ使用權若クハ
收益權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキハ其動産不動産ヲ會社ニ引渡シタル
後ニ於ニキ其滅失毀損ニ付キ社員ハ之ヲ填補ナル義務アリ何トナセハ之ヲ填
補ナシレバ會社ハ定款ヲ定メルカ如キ使用又ハ收益ヲ爲スコトヲ得ナレハナ
リ若シ社員カ此ノ如キ場合ニ其填補足爲ガラシハ完全無出資ノ義務ヲ履行セ
ナムモノシテ其責任ナシアルカニテ更夫次第ニハ當然雙重ノ年期算置キセ
第二、勞ハシテ人相扶助の意味ニ成ハシムニ思過我ニ出資足額又ハ資本を
勞務ナ出資ノ目的ト爲シコトヲ譽ハシタルハ商法第七十一条ノ規定ニ従ヒテ是ラ客
ヒニ勞務又出資ノ目的トシルトニ會社ハ爲シテ精神上若クヘシ體上ノ活動ヲ
爲スヌ開拓故ニ精神若クヘシ身體ニ衰弱ニ固リ活動スルコト能ハサルニ至リタ
ルトナシハ出資ノ不能ト爲キタバ未だナシテ會社ハ第七十條第一號前段ノ規定

ニ依列共社員判陳名文ナシトテ得労務ヲ目的ハ成ルキハ其價格及シ勞務ノ
標準ヲ定メ之ヲ定款並記載參照ハシルナシトニ従ハシル事當ニ明宣ナシトニ得ル
第三、借用ノ義理ナシトテ貰ム日用及出資ノ目地ナシトニ商業社ニ音響ナシ
信用カ出資ノ目的ト爲ルコトヲ得ルハ商法第七十一条ノ規定ニ従シテ是ラ容
レス舊商法ハ財產ト勞務ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ許セシモ信用ヲ以テ
出資ノ目的ト爲スオトニ認メス其理由ハ社員ハ出資ヲ爲シテ共有資本ヲ組織
スヘキモノナルカ故ニ出資ノ目的ト爲ルコトヲ得ルモルハ移轉スルゴトヲ得
ルモノナラナルヘカラズ然ルハ信用ハ專屬のモノニシテ才移轉ナシトテ得
ス隨於出資ノ目的ト爲スコトヲ得ス又信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲スオトノ許
ストキハ會社ハ借用者名ナシ給リテ第三者ヲ署著シ之ニ不測ニ損害ヲ被
ラジムル處アリト云スニ在リ然レトモ是レ信用出資ニ關スル大抵ノ解説ナリ
抑モ物カ出資ノ目的ト爲スエバ財產上ノ價格リ有シ他人ヲ利用之利用來爲
ナシムルコトヲ得レ不足レ財源不充足モ移轉ナシトニ斯ニ必要トセス動產不動產
ノ所有權以之出資ノ目的ト爲シタ所場合ニ於大抵權利移轉於大下限有之

ニ反シテ勧善不勸惡人使用權若タマ收益權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合
ニ於テハ之ヲ嚴格ニ言々ヘ使用權若タマ收益權又設定不變シモ人也外國者等
ノ權利ノ移轉アルモノニ非ス勞務ヲ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テモ勞務
ハ決シテ他人ノ移轉スルコトヲ得ルモニニ非ス唯他人ニ勞務又利用セシムノ
コトヲ得セシムルニ過キス信用其モノハ人ニ專屬スルモノナリ即ち之ヲ他
人ニ利用セシムルコトハシ得ガル所ニ非ス而シテ商業上ノ信用ハ財產上ノ
價格ヲ有スルコト論ヲ缺ク矣故ニ商業上ノ信用ヲ以テ出資ノ目的トスルハ毫
モ出資ノ論理ニ背クモノニ非ス又信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ許スル
キハ之ヲ約シタル者ハ之ニ因リテ社員ト爲シタル者又他人社員同シ者會
社ノ債務ニ付キ連帶シテ無限ノ責任ヲ負有故ニ第三者又其社員ノ債務大會社
ト取引ヲ爲シタル場合ニ於テモ第三者ハ會社又其社員ノ名ヲ繕列久バカ爲シ
少シモ損害ヲ被ルコトナシ加之信用ヲ出資ノ目的トシテ商業上ニ名望アル者
ヲ社員ト爲スコトヲ得ルハ會社カ事業又營ムニ於テ非常ニ便宜トスル程ナリ
夫レ此ノ如ク信用出資又許可を實際ニ弊害大カル便當ナリ是ハ商

法カ信用ヲ以テ出資ト爲スヲ許シタル所以ナリ
信用ヲ出資ノ目的ト爲ストヤ會社又シテ自己ノ商業上ノ信用ヲ利用専割ム
コトヲ謂フ或ハ之ヲ以テ人カ會社ノ債務ニ付キ無限責任ヲ負擔スルコトヲ謂
フモノナリト說ク學者アリ然レドモ無限責任ハ人カ社員タルカ就ニ負擔スル
モノニシテ無限責任ヲ負擔スルカ故ニ社員タルニ非ス社員ニ非ナル者ニシテ
社員ト同一責任ヲ負フ者アルハ商法第六十五條ノ規定スル所ナリ信用ヲ以テ
出資ノ目的ト爲ス者ハ之ニ因リテ社員ト爲シタル無限責任ヲ負擔スルモノナ
リ故ニ信用出資ヲ以テ無限責任ヲ負擔スルコトヲ謂フモノナリトスルハ社員
タル資格ヲ取得スルニ必要ナル出資ノ義務ト社員タル資格ヲ取得シタルカ故
ニ負擔スル所ノ無限責任トノ混同スルモノニシテ正當ニ非ナルナリ
出資ヲ爲スベキ時期ハ定款ニ別段ノ定アルトキヤ之ニ從ヒ然ラヂアトキハ會
社ノ成立ト同時ニ之ヲ爲ナシアルヘカヌス而シテ出資ヲ爲スモ云アヨリハ出資
ノ目的ヲ會社ニ利用セシムルコトヲ謂テ之ヲ爲ス方法ヲ出資ノ目的書依リテ
異同アリ勘定ニ在シテハ引渡す必要トジ不勘定ニ在シテハ引渡ト登記ス勞務

ニ在ホナカヤ理ニ會社大爲不動産活動スル事ト、信託ニ在リテ一會社ヲアリテ之ヲ別用セシム所ヨリ債權ナシハ債權讓渡ノ手續アリシ、特許權在入者所普通名義ノ書換ヲ必要シス、金錢ナ以テ出資ノ目的而爲次第所場合ニ付大ハ法律ニ特別ノ規定アリテ即チ民法第六百六十九條ニ規定スル所シシ社員之出資ヲ爲ユヨトヲ意リタルトキヘ選延利息ヲ支拂フ外尙ホ損害ヲ賠償セシムベキカラス民法及ヒ商法ノ規定ニ從ヘハ金錢債務ハ原則トシテ之ヲ意ルモキ法定若クハ約定ノ利息ヲ支拂ハシムルヲ以テ義務不履行ニ對スル損害賠償ノ方法ト爲シ此利息ノ外尙ホ損害賠償セシムタルコトナシ故ニ金錢ナシ以テ出資ノ目的ト爲シタル者ノ義務不履行ニ對スル民法第六百六十九條ノ規定ハ金錢債務單獨タル原則ノ例外ヲ爲スモノナリト謂ハサルヘカラズ又社員之債權ナシハ債權未以テ出資ノ目的ト爲ゼル場合ニ債務者が辨済期ニ辨済ヲ爲ナシタルキハ過失ハ其辨済ノ責ニ任メ此場合ニ於テバ其利息ヲ支拂フ外尙ホ損害賠償或テサルヘカラヌ第五五條此規定ハ社員ニ對シ甚々過酷ナシ社員が第三者に與該債權ヲ以テ出資ノ目的下爲シ既至之ヲ會社ニ移轉シタル後ニ於テ債務者カ資力ヲ失キ

會社之損失ヲ生ミシムナル小額ホ社員が動産若クハ不動産又所有權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シ之彼會社並引姫シ衆若幹其動產若クハ不動產又滅失或損失因リ會社之損失又生地シタタルト同上ニシテ理論上ヨリ言フヨリキハ幾ノ場合ニ於テ社員ニ貪欲根ヲ填補スル責任ナキト同ジタ前ノ場合ニ於テモ社員が辨済ノ責任ナキトナド爲ナシタルヘカラス然ルニ商法カ債權出資ノ場合ニ限リ特別ノ規定ナ爲シ社員が辨済ノ責任ヲ負擔セシムタルハ接スルニ此ノ如ク爲ナシルトキキ有名無實ノ債權ヲ出資ノ目的ト爲ス弊害ヲ生スル處アルカ故ナムヘシ』社員が出資ヲ爲スヌ事由ヘテルトキ又ハ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出資ヲ爲ナシタルトキヘキハ會社ニ之ヲ除名スルハ會社ノ自由ニ爲シ得ル所ナレトモ之ヲ除スコト能ハサルトキ之ヲ除名スルハ會社ノ自由ニ爲シ得ル所ナレトモ之ヲ除名キス但テ社員タル資格ヲ喪有セシム所ハ畢竟其社員ノ出資ノ一部ヲ免除セシムモ可矣シテ定款ヲ記載後又出資ノ事項變更ヲ生セシム所モウナリ仕ニ子

業ノ解釋スル所ニ依レバ出資者爲スコト能ハタゞ社員ヲ除名セナムトキニシテ
出資ニ關スル定款ノ一部ヲ變更スル必要アリ。其社員、出資、一物、並額ナ
正當ナル意義ナリ。然レトモ合名會社ハ商法第五十八條ノ規定ニ依リ、總社員
ノ同意アルトキハ其目的ノ範囲内ニ在ラサル行爲ヲモ爲スコトヲ得ヘタ而シテ
此場合ニ於ケル行爲ヲ以テ業務ノ執行ニ非スト謂フコト又得ナルカ故ニ業務
執行ナル語ニハ上並掲ケタルモノノリ。稍ヤ廣汎ナル意味ヲ與ヘラル「カラス」
會社ハ法人ニシテ自然人ノ如ク意思能力ナシ故ニ會社カ事業ヲ假ムニ付スハ
自然人ノ力ヲ備ラサルヘカラス業務ノ執行ニ付フ會社ニ代リテ之ヲ爲ス者フ
業務執行社員ト稱ス業務執行社員ハ業務ノ執行ニ關スル會社ノ機關ナリ。是レ
猶株式會社ニ於ケル取締役カ業務執行ノ機關タルカ如シ我商法ノ業務ノ執
行ヲ爲ス者ヲ社員ニ限メト爲ス故ニ社員ニ非サル者ニ業務執行社員タルト

能ハス是レ會社事業ノ成績ヲ重視ナル利害關係ヲ有スル者復以テ業務ノ執行
ヲ爲スシタルヨリ至當方ナカ放ガリ。此原據源流足跡已著詳説
商法第五十六條ニ規定ニ依リハ各社員ハ會社ノ業務ヲ執行スル權利又有シ義
務ヲ負フ。以テ原則トス定款ニ於テ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキハ其社
員ノミ業務執行ノ權利ヲ有シ義務ヲ負ヒ他以社員ハ其權利義務ヲ有セス者無
合名會社ハ専述シタル如ク社員間ハ信用甚深厚久且各社員ハ連帶以テ無限責
任ヲ負擔スルモハナレバ會社ハ業務ノ執行ヲ付ス。各社員ヲシテ之ニ干渉ス
ルコトヲ得セシムルハ甚ダ穩當ナリ。唯社員ノ多寡ナルトキ又ハ社員中ニ業務
執行人任ニ當ルコトヲ欲せナル者アルトキ又ハ特ニ會社事業ニ付テ經驗ヲ有
スル者アルトキ等ノ場合ニ於テ特定ノ社員ヲ選任シテ業務執行ノ任ニ當ラシ
ムルハ實際上甚タ便宜ナリ。是レ商法第五十六條ノ規定アル所以ナリ夫レ此ノ
如ク定款三別段ノ定めキトキハ各社員ハ業務ヲ執行スル權利義務ヲ有ス然レ
トモ業務ノ執行ト業務ノ執行ヲ爲スベキ決定基ハ區別スルコトヲ要ス各社員
ハ獨立シテ業務ノ執行ヲ爲ス權利義務ヲ有スル事止マヌ。如何ナル業務ニ付ス

專門ニテ之ヲ爲スコトヲ得ル者ノニ非ヌ業務ノ執行ヲ爲スベキヤ否モハ社員ノ過半數ニ依リテ之ヲ定ムハキセナリ唯當務ハ各社員専門ニ之ヲ決行シトヲ得但其結了前他ノ社員カ異議ヲ述ヘタル時キニ限ル第五四條民法第五七〇條参照上項を明宣ナシ星六月五日付議事第十六號ノ議案並に同社員業務執行ノ方法ニ付テハ定款ヲ以太之ヲ制限遂に社員共同スルニ拂ム者ハ之ヲ爲スコトヲ得スト定ムルコトヲ得業務執行ニ關スル決議ノ方法ニ付テモ亦同シ業務執行ハ各社員之権利ナルカ故ニ他ノ社員ハ之ヲ妨タル事上ヲ得ヌ又業務ノ執行ハ各社員ノ義務ナルヲ以テ一社員が惡意又ハ過失ニテ業務ノ執行セナリシ爲メ會社ニ損害ヲ加ヘタルトキハ損害賠償の責ニ任ヌ業務上不正ノ行為アリシトキハ會社ハ他ノ社員ノ一致ヲ以テ其社員ヲ除名スルコトヲ得ヌ又七〇條第三款参照上項を明宣ナシ星六月五日付議事第十六號ノ議案並に其並左取次以テ特ニ業務執行社員ヲ定めシテ其職務執行社員外ニ業務執行ノ權利義務ヲ有シ他人社員ハ此權利義務ヲ有セサルカ故ニ業務執行ヲ爲スヘキヤ否ヤ不決定並業務執行社員ハ過半數ニ依リテ爲スベキ事項ノ議定

テ他ノ社員カ之ニ干與スルヨドリ得ナルハ論ヲ俟タシテ是ト干與セム商法第七十條第四號ノ規定ニ依テ職名セサルムシトアリ業務執行社員ノ選任ハ職社員ニ業務執行ノ權利ヲ與ケルモシテ非シシテ他ノ社員ニ業務執行ノ權利ヲ剝奪シ其義務ヲ免除スルモノナリ何トナレハ總アノ社員ハ勿ヨリ業務執行ノ權利義務ヲ有スルモノナレハナリ業務執行社員トシテ選任セラシタル者ハ正當ノ事由アルニ非ナレハ辭任スルコトヲ得ナルト同時ニ又解任セラルコトナシ是レ蓋シ業務ノ執行ハ各社員ノ本來ノ義務ニシテ且權利ナルカ爲シニ外ナラス(民法第六七二條参照)蓋人ナムハ想シ其目的ノ實地ニ如シテ宜アリ支配人ノ選任及ヒ解任バノ業務ノ執行ナリ支配人ハ主人ノ營業ニ關シテ概括的ノ代表權ヲ有シ其適任者ナルト否トハ主人ノ營業上ニ重要ナル關係ヲ有ス是ヲ以テ商法第五十七條ハ支配人ノ選任及ヒ解任ニ付キ特別ノ規定ヲ設ケ業務執行社員ノ定アルトキト雖モ其社員ノ專斷ニ選任メルカトナリ總社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スヘキセナト定メタリ又樹立ノ公會會員又合資會員ニ以上合名會社ノ目的ノ範圍内ニ在ル業務ヲ執行其間民法則ヲ説明カ別商

法第五十八條ノ規定ニ依リ、合名會社ノ總務會社員の同意無く、其ハ目的の範圍内ニ在ラナル行爲ヲ雖モ之ヲ爲スコトヲ得是レ、合名會社及ヒ合資會社ニアル所ニシテ株式會社及ヒ株式合資會社ニ之ナキ所ナリ、會社カ其目的ノ範圍内ニ在ラナル行爲ヲ爲スハ法人の理論ニ抵觸スル所ナリ、カ是研究次ヘ至一問題ナリ、按スルニ會社ヲ以テ社員間ノ法律關係大上スルトキハ、社員間ノ合意ヲ以テ其目的ノ範圍内ニ在ラナル行爲ヲ爲スコトヲ得ルハ論アリ、然タゞ然レトモ、我商法ノ如ク、會社ヲ以テ法人トスル以上ハ其目的ハ定款ニ依リテ定マリ、會社ハ其目的ヲ達セシカ爲スニ存在スルモ、大抵カ該主其業務モ亦目的ノ範圍ヲ超越スルコトヲ得ス、抑モ、社團ハ一定目的ノ爲モ、成立不既セム、人未リ而シテ法權カ、社團ニ人格ヲ認メ之ヲ、法人トスルハ之又シテ其目的ヲ達セジメントスルニ在リ、目的ハ法人ノ神體キシテ目的ハケビハ法人大抵カ該主其法人ハ目的ノ範圍内ニ在ラノミ、人格又有スト季ルベ理論上正當ナルカ、如、民法第四十三條カ、法人ハ法合ノ規定ニ從ヒ定款又ハ寄附行為ニ依リテ定マリ、又、目的ノ範圍内ニ於テ權利ヲ有シ議務ヲ負フト定メタルハ此理論又屬メタノモノト。

斯果シテ然ラハ法人タル會社カ其目的ノ範圍内ニ在ラナル行爲ヲ爲スハ法人ノ理論ニ抵觸スルコト謂ハサルヘカラス、此理論ヲ實徵スルトキ、法人ハ如何ナル手續ヲ以テスルモ其目的ヲ變更スルコト能ハナシセノ、爲方の所ニカラス、然ルニ民法及ヒ商法ハ共ニ一定款變更ノ手續ヲ以テ法人ノ目的ヲ變更スルコトヲ許セリ、是レ實際上ノ便宜ヲ圖リタルニ外ナラズ故ニ問題ハ會社カ目的ノ範圍内ニ在ラナル行爲ヲ爲スコトヲ得ルヤ否セニ在ラヌシテ、會社又シテ目的ノ範圍内ニ在ラナル行爲ヲ爲ナシムルハ實際上便宜ナル然否ヤ在リ乎、聖ハ商法第五十八條カ、合名會社三許ズニ目的ノ範圍外ノ行爲ヲ爲スコトヲ以テシタルニ拘ハラス、株式會社及ヒ株式合資會社ニ之ト同一ノ規定ヲ爲サルハ如何ナル理由ニ出ツルモノナルヤ、ヲ知ルヨド能ハナガナリ、合名會社立目的ノ範圍内ニ在ラナル行爲ヲ爲スニハ總テノ社員ノ同意ヲ必要トスルカ故ニ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ其社員ノ同意ヲ計ニ有レバ之ヲ爲不ゴトア得ス、蓋シ、モ、該社員ノ同意ヲ計ニ有レバ之ヲ爲不ゴトア得ス。

是ヨリ、社員カ業務ヲ執行スル事ハ付テ職務ヲ付テ職務明カシ、社員オ會

此ノ業務ヲ執行スルム如何ナル法律關係ニ基クヤ會社ノ業務ハ會社ナル法人ノ業務ニシテ社員ノ業務ニ非ス故ニ社員カ會社ノ業務ヲ執行スルハ會社ナル他人ノ爲メニ行爲ヲ爲スモノニシテ其關係ハ俗モ委託ノ關係也如シ唯之ヲ以テ純然タル委託關係ト看ルコト能ハナルモノナリ何ソヤ特ニ業務執行社員ア定メナル場合ニ於テ各社員カ業務執行ノ權利義務ヲ有スルハ商法第五十六條ノ規定ニ基クモノニシテ會社ト社員トノ間ニ委託契約カ成立セシモスト看ルコト能ハス又特ニ業務執行社員ヲ定メタル場合ニ於テモ其社員カ業務ヲ執行スル權利義務ヲ有スルハ定款三條ルニ非ヌシテ商法第五十六條ノ規定ニ依ルモゾナリ此場合ニ於テ他ノ社員ハ業務執行ノ權利義務ヲ失フモノニシテ會社ト業務執行社員トノ間ニ委託契約ノ成立ナシはレ業務執行三條キ會社ト社員トノ關係ヲ以テ純然タル委託關係ト看ルノ能ハナル所以ナリ然レガモ其性質ハ最モ能ク委託關係ニ類似之同ニ規定スル點トテ得ルノ以テ商法第五十四條民法第六百七十一條件ニ對シ委託ニ關スル規定焉車用スヘキ事トア申メタリ業務執行並付キ社員又有スル權利義務五ノ如シセシ吾故ニ記述スル如人

(一)

社員ノ業務執行員ハ同種ニ生長會社並々業務執行會社相承ニ取引大對象及外
(イ)社員ハ善良ナル營業者勿注意ヲ以テ業務ヲ執行スル責任ナリ(民法第六
四四條參照)但員ハ殊益ニ過度モ又ナムハ少々ハ多々ニ過度ニ損害ニ損員モ
歟(ロ)社員ハ業務ヲ執行スルニ當リ會社ノ爲莫大受取ルタ必金錢其他ノ過失
若夫會社ニ引渡シ又ハ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ヲ會社ニ移轉スル義務
アリ引渡又ハ移轉ノ息リタルト年期之カ爲メニ生シタル損害ヲ賠償シタル外
金錢ノ引渡ニ付テハ其引渡スヘカラシ日以後ノ利息ヲ支拂ハナルヘカラス

(民法第六四六條參照)且テ過失ナムニ外掛書を要シ或ノ過失無ニ會社ニ損害
(ハ)社員カ會社ニ引渡スヘ前金額又ハ其利益ノ爲メ所用フベキ金額ヲ自己
ノ爲メニ消費シタルトキハ其消費セル日以後ノ利息ヲ支拂フ外損害アリ外
ルトキハ其賠償ヲ爲メナルヘカガニ(民法第六四七條參照)本ノ件ニ關スル大對象
(イ)社員ノ權利ヲ以テ證明大對象者ナムニ付キ當該出心及取引等ハ會
(オ)社員ハ特約アリ其委託又ハ業務執行ニ付テ報酬ヲ請求スルコトヲ得ズ
(民法第六四七條參照)又ハ其費用ヲ算入會社ニ課スル其前掛

(五) 社員の業務又執行スルニ付キ費用ヲ要スルトキハ會社ニ對シテ其前拂
ヲ請求スルヲ得(民法第六四九條参照)。計り歸附を請ふ。

(六) 社員が業務ヲ執行スルニ付キ必要ト認ムヘキ費用ヲ出シタルトキハ會
社ニ對シ其費用及支支出ノ日以後ニ於ケル利息ヲ償還ヲ求ムルコトヲ得又
社員カ必要ト認ムヘキ債務又負擔シタルトキハ會社ヲシテ自己代えテ其
辨済ヲ爲ナシテ又其債務カ辨済期ニ至ラカルトキハ相當ノ擔保ヲ供セバ
ルコトヲ得又社員カ自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ會社ニ對シ
ヲ賠償ヲ請求スルニ至ル。但し日以降、利息、支拂ヘキヘ止ス。
以上ハ業務ノ執行ニ關スル法則イ説明ナリ茲ニ附加シテ業務監督ヲ付キ、
言セシ定款ヲ以フ特ニ業務執行ノ社員ヲ定メタル場合ニ於ケル他ノ社員ハ業務
執行ニ干與スル權利ヲ有セタルモ業務執行の良否ハ會社ノ盛衰或大亦關係
ヲ有シ其結果ハ社員ノ利益ニ影響ヲ及ホスヘキモノナルカ故ニ此等ノ社員ヲ
シテ業務ヲ執行ヲ監督スル權利ヲ有セシム。ト然甚タ確當ナニ業務執行人
權利ヲ有セタル社員ハ何時ニテモ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ状況ヲ検査スル

第二章

コトヲ獨(民法第六四九條参照)レ即チ合規會社ノ業務監督ヲ目的スル機關
ニシテ猶ホ株式會社ノ監査役ノ如シヤス。但し合規會社ノ監査役ハ監査及ハチ
監査外ノ監査ヲ行フ事無シ。監査外ノ監査ヲ行フ事無シ。

第三項 競業ノ禁止

コトヲ獨(民法第六四九條参照)レ即チ合規會社ノ業務監督ヲ目的スル機關
ニシテ猶ホ株式會社ノ監査役ノ如シヤス。但し合規會社ノ監査役ハ監査及ハチ
監査外ノ監査ヲ行フ事無シ。監査外ノ監査ヲ行フ事無シ。

社員ハ他ノ社員ヲ承諾アルニ非サレハ自己又或第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ
部類ニ屬スル商行為爲シ又ハ同種ノ營業ノ目的トスル他ノ會社ノ無限責任
社員ト爲ルコトヲ得ス是ヒ商法第六十條第一項ノ規定スル所ニシテ社員が會
社ニ對シテ有スル一ノ義務ナ此規定ノ理由ヲ約言スレハ社員又ハ第三者ノ
利益ト會社ノ利益ト大衝突ヲ避タルニ在リ茲ニ合規會社ノ社員ハ特ニ業務執
行社員ヲ選任セサルトキハ皆業務ヲ執行アル權利ヲ有シ特ニ業務執行社員が
選任シタルトキハ會社ノ財產及ヒ業務ノ状況ヲ検査スル權利ヲ有スルカ故ニ
何ノ場合ニ於ケモ能ク會社ノ業務及ヒ財產ノ状況ヲ知ルコトヲ得ルニシテ
員カ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行為爲シ又ハ同
種ノ營業ヲ目的トスル他人會社ノ無限責任社員ト爲リテ其會社ノ業務ヲ執行セ

又ハ監督スル事キム自少其地位ヲ利用シ自己若ダハ第三者又ハ他の會社ノ利
益ヲ圖リ會社ニ損失ヲ蒙クシムキ度アリ是以法律カ社員ニ就業禁止ノ義務
ヲ負ハシタル所以カリ自己又ハ第三者ノ爲ニ商行爲ヲ爲メトハ自己又ハ
第三者ノ計算ニ於テ商行爲ヲ爲スヨドヲ謂クモノニシテ其名義ハ何人ノ名義
ヲ以テスルモ區別ナシ體テ自己又ハ第三者ノ名義ヲ以テスルモ真實會社ノ計
算ニ於テ據スモノハ本條之場合ニ入ラヌ又社員ヘ他ノ會社ノ無限責任社員ト
爲ルコトヲ得ナルノミナ所カ故ニ株式會社又ハ株式合資會社ノ株主ト爲リ又
ハ合資會社ノ有限責任社員ト爲ルストハ法律ノ禁スル所ニ非ス是レ株主其他
ノ有限責任社員ハ其資格ニ於テ當然會社ノ業務ヲ執行レ又ハ監督スル權利ヲ
有セザルカ故ナリ但合名會社ノ社員ハ株式會社ノ取締役ト爲ルを得ス何ト大
レハ取締役ハ株式會社ノ業務ヲ執行スル者ニシテ商法第六十條第一項ニ所謂
第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲ス者ナレハナリ商行爲カ會社ノ營業部類ニ屬スル
ナ否ナ他ノ會社カ同種ノ營業ヲ目的トスルヤ否ヤハ各場合ニ付キ審査スヘキ
事實問題ナリ他ノ社員ノ承諾ガ必スシキ當取示カル事ト重要セラ社員ヲ保護會

社ノ無限責任社員タルコトヲ認メナカラ之ヲ入社セシムタル場合等ニ於テ本
暗黙ニ承諾ヲ與ヘタルモノト看做エコドヲ得ハズ始ニテ不^レノ^レ相異ニ似也
商法第六十條第一項之規定ハ第三十二條第一項ノ規定ト能ク類似セリト雖
全ク其精神ヲ異ニス第六十條第一項ハ利益ノ衝突ヲ防止スルヲ以テ目的其決
レトモ第三十二條第一項ハ支配人ラシテ忠實ニ其義務ヲ盡ナシムルノ目的ト
ス之ヲ以テ合名會社ノ社員ハ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同
種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ナルニ止マリ
タル規定ナリトスルハ正常ノ見解ニ非ス^レノ^レ此^レ之^レ點ニ當^レ此^レ點ニ當^レ此^レ點ニ當^レ
社員カ此競業禁止ノ義務ニ違反シタルトキ如何ナル制裁アガヤ之ニ付^レ總方
ノ場合ニ其過ナル制裁ハ他ノ社員ナ一致ヲ以テ其社員ヲ除名シ且損害アガタ
ルトキハ之ヲ賠償セシムルコト是ナリ(第七〇條第二款參照)唯社員カ既已ス得

メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行為ヲ爲シタル場合ニ付テ特別ノ規定アリ即チ此場合ニ於テハ他ノ社員ハ過半數ヲ決議ニ依リ其行爲ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得之ヲ會社ノ引受權ト謂フ此權利ハ會社カ社員ニ對シテ有スル權利エシテ第三者ニ對スルモノニ非ス故ニ會社ハ其行爲ヲ原因トシ第三者ニ對シ直接ニ權利ヲ行使スルコトヲ得ス第三者モ亦社員ニ對シテノミ義務ノ履行ヲ爲シ得ルモノニシテ會社ニ對シ之ヲ爲スモ社員ニ對スル責任ヲ免ルルコトヲ得ス但會社カ引受權ノ實行ニ依リ社員ヲシテ第三者者ニ對スル權利ヲ讓渡シタルトキニ此限ニ在ラス法律カ此權利ヲ認メタル所ノモノハ會社ヲシテ社員ノ行爲ニ因リ損害ヲ被ルコトナカニシタムカ爲ヨニ外ナラス故ニ會社ハ利益アル場合ニ於テノミ之ヲ行使スルヲ得然ダツル場合ニハ損害賠償ヲ以テ滿足セカルヘカラス損害要債ハ權利ト引受權ト其性質相反スルモノナリ故ニ會社ハ二者ノ中其一ヲ行使スルコトヲ得ルニ止マリ二者共ニ之ヲ行フコトヲ得不引受權ヲ行使スル方法ニニアリ(一)社員ノ爲シタル商行為カ未タ完結セタル場合ニハ會社ハ社員並對シ其行爲セイタニシタル債

權ノ讓渡ヲ爲シタルコトヲ得ニ其行爲カ既ニ完結シタル場合ニハ會社ハ社員カ之ニ因リテ得タル利益ヲ會社ニ移轉セシムルコトヲ得シタルトキハ會社カ引受權ヲ行使シタルトキハ會社ト社員トノ間ノ關係ハ一ツ業務執行ノ關係ナリ故ニ會社ハ社員カ其行爲ヲ爲スニ付キ支出シタル必要ナル費用ヲ辨償シ又ハ社員カ其行爲ニ因リテ負擔シタル債務ヲ自ラ辨済スル責任アリ是レ業務執行ニ關スル法則ノ適用ニ外ナラスニシテ第三者ノ利害ヲ害スルハ到底許スヘキコトニ非ナレハナリ引受權ハ他ノ社員ノ一人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二週間又ハ行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ消滅スはシ當事者間ニ於ケル法律關係ヲシテ永ク不確定ナラシムルヲ避ケンカ爲メナリ此權利ノ消滅ハ时效ニ因ルモノニ非ナルコトヲ注意スヘシ

第二款 社員ノ権利

第一項 會社ノ機關ニ干與スル権利

此権利ヲ説明スルニ付テハ先づ會社ノ機關トハ如何ナルモノア謂フケラリ
 ニスルノ必要アリ抑モ合名會社ハ法人ニシテ自然人意思ヲ有セバカ故ニ自
 然人ヨリ成立スル種種ノ機關ヲ必要トス此機關ニハ四アリ(第一)會社ノ業務ヲ
 執行スルコトヲ以テ目的トスル所ノ機關ヲ執行機關ト稱ズ(第二)會社ヲ代表
 スル機關之ヲ代表機關ト稱ス(第三)會社ノ業務ノ監督ヲ以テ目的トスル機關之
 フ監督機關ト稱ス第四此等ノ諸機關ノ上ニ立ナラ之ヲ統括シ重要ナル事項ノ
 裁決ヲ爲スフ目的トスル機關之ヲ最高機關ト謂フ第一ノ機關ハ業務執行社員
 第二ノ機關ハ代表社員第三ノ機關ハ業務執行ノ権利ヲ有セラル所社員監督機
 關ハ總社員ヲ以テ組織ス此四者ハ法律カ合名會社ニ要所ノ機關夫ニ此他
 會社カ便宜上支配人其他ノ商業使用人ヲ選任シテ會社ノ業務ヲ執行セシムル
 コトヲ得ルハ論ヲ埃タヌ但監督機關ハ時トシテ存在セラバ可トアリ耶各社員

員カ業務執行ノ権利義務ヲ有スル場合是ナリ
 商法第五十四條ニ依リ合名會社ノ業務執行ニ付キ專用セラルル民法第六百七
 十三條ニハ各組合員ハ組合ノ業務ヲ執行スル権利ヲ有セナルトキト雖モ其業
 務及セ組合財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得ルカ故ニ各社員カ業務執行ノ権利ヲ有ス
 ドキハ各社員ハ會社ノ業務ヲ執行スル権利ヲ有セラルトキト雖モ其業務及セ
 會社財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得ルカ故ニ各社員カ業務執行ノ権利ヲ有ス
 ル場合ニ於テハ勿論業務及ヒ會社財產ノ狀況ヲ検査スル権利ヲ有スルカ如キ
 観アリ然リト雖モ業務ノ執行ト業務ノ監督トハ其性質ヲ異ニシ各社員カ業務
 執行ノ権利ヲ有スル場合ニ於テハ之ニ業務監督ノ権利ヲ認ムル必要ナシ株式
 會社ニ於テ監査役ニ取締役及ヒ支配人ヲ兼任スルコトヲ禁シタルルハ即チ此理
 由ニ由フ故ニ合名會社ニ於テ各社員カ業務執行ノ権利ヲ有スル場合ニ於テハ
 業務執行ノ機關アル者業務監督ノ機關ナキモノト謂ハナカルヘカラス
 各社員ハ定款別段ノ定ナリトキハ會社ノ業務ヲ執行スル権利ヲ有シ義務ヲ
 負フコト及ヒ業務執行ノ権利ヲ有セラル社員ハ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀

況フ検査スルヨリ更得ル所本節第一款第二項ニ説明セル所ナリ社員ヲ執行機関及シ監督機關共干與スル權利ヲ有シ候ト之ニ依テ見ルモ明カナリ又會社ノ代表機關タバ代表社員ニ付テハ次節ニ於テ之ヲ説明スヘシト雖モ茲ニ其要領ヲ示セハ定然又ハ總社員ハ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メナルトキハ各社員ハ會社ヲ代表スル權限ヲ有ス第六一條參照社員カ會社ノ代表機關ニ干與スル權利ヲ有スルコト此規定ニ依リテ明カナリ業務ノ執行大會社ノ代表トハ全ク其性質ヲ異ニスル事項ニシテ之ヲ區別スルヲ要ス業務ノ執行ハ會社ト社員トノ間ハ關係固ナ内部ノ關係ナルモ會社ノ代表ハ會社ト第三者トノ關係固ナ外部ノ關係ナリ會社ノ業務ノ重要ナルモノハ法律行為ナリ而シテ其法律行為ニ因リ會社アシテ第三者ニ對シ權利義務ヲ有セシムルニテ其行為ヲ爲ス所人社員ニ會社ヲ代表スル權限アルコトヲ必要トス故ニ業務執行ノ權利ヲ有スル社員ハ亦會社ヲ代表スル權限ヲ有スルコト普通ノ狀態ナリ然レトモ時トシテ社員ハ業務執行ノ權利ヲ有スルモ會社ヲ代表スル權限ヲ有セナムコトアルテ又代表ノ權限ヲ有スルモ業務執行ノ權利ヲ有セザルコト

アルヘン前の場合ニ於テ社員カ會社ノ爲スニ法律行為ヲ爲シタルトキハ當然會社ニ對シテ其效果ヲ生セサルモ會社カ之ヲ追認シタルトキハ會社ニ對シテ其效果ヲ生ス又社員ハ自己ノ名ヲ以テ會社ノ爲スニ爲サレタルモノナレハナリ但社員カ其行為ノ爲スニ必需要ナル費用ヲ支出シタルトキハ之ヲ辨償シ又必要ト認ムベキ債務ヲ負擔シタルトキハ社員ニ代リテ之ヲ辨済スルコトヲ要ス(民法第六五〇條參照是ニ依リテ觀ルモ社員カ代表ノ權限ヲ有セサルモ業務執行ノ權利ヲ有スルトキハ會社ノ爲スニ法律行為ヲ爲シ得ルコト明カナリ況ヤ法律行為ニ非サル行為メニ必要ナル費用ヲ支出シタルトキハ之ヲ辨償シ又必要ト認ムベキ債務ヲ負擔シタルトキハ社員ニ代リテ之ヲ辨済スルコトヲ要ス(民法第六五〇條參照是ニ依リテ觀ルモ社員カ業務ノ執行ヲ爲シタルトキハ會社ハ商法第七十條第四號ノ規定ニ依リテ該社員ヲ除名スルコトヲ得然レトモ其行為ハ代表權ナル者ノ爲シタルモノナルカ故ニ第三者會社トノ間ニ於テハ完全ニ其效果

ヲ發生ス夫レ此ノ如ク業務ノ執行ト會社ノ代表トハ其性質ヲ異ニス體テ執行
機關ヲ組織スル社員ト代表機關ヲ組織スル社員トカ同一人ナル場合ニ於テモ
常ニ區別シテ觀察セナルカラス商法ノ規定ニ依レハ業務執行社員ハ定款ヲ
以テ若クハ定款ニ定メタル方法ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ要スルモ代表社員
ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス(第五六條第六一條參照)
其結果トシテ代表社員ハ單ニ總社員ノ同意ヲ以テ解任スルコトヲ得レトモ定
款ニ依リテ選任シタル業務執行社員ハ定款變更ノ手續ヲ爲スニ非サレハ之ヲ
解任スルコトヲ得ス但正當ノ事由アリトキハ他ノ社員ノ同意ヲ以テ業務執行
社員ヲ解任スルコトヲ得(民法第六七二條參照)

以上ニ説明シタル三機關ノ上ニ立テ之ヲ總括シ重要ナル事項ノ裁決ヲ爲ス
所ノ最高機關ハ總社員ナリ社員カ此最高機關ニ干與スル權利ヲ有スルコトハ
言ハスシテ明カナリ合名會社ノ總社員ハ株式會社ノ株主總會ニ該當スルモ此
機關カ行動ヲ爲スニ付テ株主總會ノ如ク法律ニ何等ノ規定ナキカ故ニ總社員
カ一場ニ會合シ決議ノ方法ニ依ルコトヲ必要トスルモノニ非スト解スルヲ翌

當トス此機關ニ干與スルコトヲ得ル者ハ各社員ナレトモ之ニハ三箇ノ例外ア
リ第一ハ社員カ就業禁止ノ義務ニ違反シテ自己ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ
屬スル行爲ヲ爲シタルトキ其行爲ヲ會社ニ引受タル場合第六〇條第二項參照
第二ハ社員ヲ除名スル場合第七〇條參照第三ハ正當ノ事由アリタルトキ業務
執行社員ヲ解任スル場合民法第六七二條參照是ナリ此三箇ノ場合ニ於テ當該
社員ノ同意ヲ必要トスルトキハ會社ハ到底其處分ヲ爲スコトヲ得ス是レ法律
カ此三場合ニ限リ他ノ社員ノ一致ヲ以テ事ヲ處決スルコトヲ許シタル所以ナ
リ此他各社員カ此最高機關ニ干與スル權利ヲ有スル法則ニ對シ例外ヲ爲スカ
如キ觀アルモノアリ商法第五十九條及ヒ第六十條第一項ニ規定スルモノ即チ
是ナリ社員カ持分ノ讓渡ヲ以テ會社ニ對抗スルニ他ノ社員ノ承諾アルコトヲ
要シ又自己若クハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行為ヲ爲シ又
ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルニ他ノ社員ノ承諾
アルコトヲ要ス然レトモ此二箇ノ場合ニハ當該社員ノ申込ニ對シ他ノ社員ノ
承諾アルモノニシテ結局持分ノ讓渡又ハ就業的行爲ハ總社員ノ同意アルニ因

リテ會社ニ對シ其效果ヲ生スルモノナリ故ニ此二場合ハ決シテ原則ニ對スル例外ヲ爲スモノニ非スモ不可也。併し本項は前項に於て規定せらるる法律ハ最高機關カ重要事項ノ裁決ヲ爲スニ付キ其方法ヲ二ニ分アタリ一ハ總社員ノ同意ヲ要シ一ハ總社員ノ過半數ノ同意ヲ要ス總社員ノ同意ヲ要スル事項ハ左ノ如シ。二は總社員ノ同意ヲ要スル事項ハ左ノ如シ。其方法ヲ二ニ分アタリ一ハ總社員ノ同意ヲ要シ一ハ總社員ノ過半數ノ同意ヲ要ス總社員ノ同意ヲ要スル事項ハ左ノ如シ。二は總社員ノ同意ヲ要スル事項ハ左ノ如シ。其方法ヲ二ニ分アタリ一ハ總社員ノ同意ヲ要シ一ハ總社員ノ過半數ノ同意ヲ要スル事項ハ左ノ如シ。二は總社員ノ同意ヲ要シ一ハ總社員ノ過半數ノ同意ヲ要スル事項ハ左ノ如シ。三は持分ノ譲渡(第五九條)。

四競争の行為ノ承諾(第六〇條第一項)。

五代表社員ヲ定ムルコト(第六一條参照)。

六退社(第六九條第二號参照)。

七解散(第七四條第三號参照)。

八存立時期ノ満了其他定款ニ定メタル解散事由ノ發生シタルトキ會社ヲ繼接スルコト(第七五條参照)。

九會社ノ合併(第七七條参照)。

十解散後ニ於ケル會社財產ノ處分方法(第八五條参照)。

此他正當ノ事由アルトキ業務執行社員ヲ解任スルトキ及ヒ社員ヲ除名スルトキニハ他ノ社員ノ同意ヲ要スルコト前述セルカ如シ本ノ點ニ至ラム。

一一支配人ノ選任及ヒ解任(第五七條)。

一二社員カ自己ノ爲メ競争的行為ヲ爲シタルトキ引受權ヲ行フコト(第六〇條第二項)。

三社員ノ議決權ハ平等ナルヲ原則トス是レ合名會社ノ社員ハ各自無限責任ヲ負擔スルモノニシテ會社事業ニ對スル利害ノ關係ハ相同シキモノト認ムルコトヲ得ルカ故ナリ然レドモ定款ニ於テ之ト反對ノ規定ヲ爲スコトヲ得ルム勿論法律ノ禁スル所ニ非ス(第五四條)。

四總社員ノ同意ヲ要スル事項ハ左ノ如シ。

五總社員ノ過半數ノ同意ヲ要スル事項ハ左ノ如シ。

六代表社員ヲ定ムルコト(第六一條参照)。

七退社(第六九條第二號参照)。

八解散(第七四條第三號参照)。

九會社ノ合併(第七七條参照)。

一〇代表社員ヲ除名スルコト(第五七條参照)。

社員ハ出資ヲ爲シ會社ノ資產ヲ形成スルモノニシテ會社へ其資產ヲ以テ事業フ經營ス而シテ會社ノ事業ハ社員ノ利益ヲ目的トスルモノナルカ故ニ會社ノ財產ニ付キ社員ニ或權利ヲ與フルハ甚タ正當トスル所ナリ唯之カ爲メ他人ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス組合ニ於テ各組合員カ組合財產ノ分配ヲ受クル權利ハ組合財產カ組合員ノ共有財產ナリトノ理由ニ因タルモノナリ之ニ反シ社員ノ有スル會社財產ノ分配ニ與ケ權利ハ法律カ特ニ社員ニ與ケタルニ因ル是レニ者ノ甚シク異ナル要點ナリ此權利ハ分レテ三ト爲ル(一)利益ノ配當ヲ受クル權利(二)持分ノ換戻ヲ受クル權利(三)殘餘財產ノ分配ヲ受クル權利是ナリ六〇

第一文利益ノ配當ヲ受クル權利
會社ハ其資本ノ額ニ對スル財產ヲ保有スルコトヲ要シ之ヲ資本維持ノ原則ト云フコトハ既ニ述ヘタル所ナリ若シ財產ノ價額カ資本ノ額ニ超過スルトキハ其差額ヲ利益ト稱ス此利益ハ會社事業ニ因リテ生スルコトアリ或シ經濟上之狀況ノ變動ニ伴ヒ財產ノ價額ノ騰貴シタクニ因リ自然ニ生スルコトアリ何レノ場合ニ於テモ其利益ヲ社員ニ分配スルハ第三者ノ利益ヲ害スルコトナク之

ニ依リテ社員ノ欲望ヲ滿足セシムヨリト得ル故ニ法律ハ社員ニ與フルニ利益ノ配當ヲ受クル權利ヲ以テモ大百十兩持ニ覺テセば該益當付會合會社員カ利益ノ配當ヲ求ムル權利ハ何時發生スルモノナルヤ予輩ノ解スル所ニ依レバ此權利ハ會社ノ業務執行機關カ利益ヲ配當ヲ爲スベキコトヲ決定シタルトキニ發生ス株式會社ニハ此點ニ付キ詳細ナル規定アリテ取締役ハ利益ノ配當ニ關スル議案ヲ作リテ監査役ハ之ヲ検査シテ報告書ヲ作リ株主總會ノ承認ヲ得タルトキ各株主ハ利益配當ノ權利ヲ取得ス合名會社ニ在リテハ此点如キ詳細ナル規定ナシト雖モ實際ニ於テハ之ト同様ノ手續ヲ爲スヘキモノナリト信ス第一九〇條乃至第一九二條參照商法第二十七條ノ規定ニ依レバ利益ノ配當期日ニ於テ業務執行社員ハ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作リ會社財產ノ狀況ヲ明カニス而シテ會社事業ノ狀態ニ從ヒ利益ノ配當ヲ爲スヘキナ否ヤ若シ配當スルキトセハ其額定定メツルヘカラヌミ其時ニ外人カ商法第六十七條ノ規定ニ依レバ會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非ガレバ利益ノ配當ヲ爲スコト得ベ此規定ハ予輩ノ見ル所ニ依レバ殆ト其必要大シ抑モ利

益トハ會社財産ノ價格カ資本ノ額ニ超過セルトキ存在スルモノナルカ故ニ損失ヲ填補シタル後ニ非テハ利益カルモノアリ得ヘカラス故ニ此規定ハ當然ノ事項ナリ唯通俗ニ於テハ或事業年度ニ於ケル支出ト收入ト比較シ收入カ支出ニ超過スルトキハ之ヲ以テ直サニ利益アリタルモノト看ル場合アリ然ビトモ道ハ利益ナガ語ノ正確ナラサル用例ニシテ採ルニ足ラス會社カ損失ヲ填補セシテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキハ即チ利益ナキニ利益アルモノトシカ會社財産ヲ分配シタルモノナルカ故ニ社員ハ不當ニ利得ヲ得タルモノナリ會社ノ債權者ハ之カ爲メニ其利益ヲ害セラル故ニ會社ノ債權者ハ社員ニ對シ之ヲ返還セシムルヨトキ得會社カ不當利得ヲ原因トシテ社員ニ其返還ヲ求ムルヲ得ルハ論ヲ埃タス會社ハ此種ニ付テ別紙ノ定ナキトキハ商法第五十四條ニ依リ組合ニ關スル利益ノ配當ハ會社ノ内部ノ關係ナリ故ニ其割合ハ定款ヲ以テ自由ニ之ヲ定ムルコトアリ得若シ定款無別段ノ定ナキトキハ商法第六百七十四條ニ依リ組合スル民法ノ規定ヲ準用ス而シテ民法第六百七十四條ニ依レハ利益配當ノ割合ハ出資ヲ額ニ依リヲ定マルヲ原則トス是レ出資ノ額ハ社員カ會社事業ニ干與ス

ノ程度ヲ示スモノナルヲ以テ之ニ從ヒテ利益ノ配當ヲ爲スヲ聽當トス
利益配當ノ效果如何ト云ビニ會社カ違法ノ手續ニ依リ利益ノ配當ヲ爲シタルトキハ其財產ハ社員ノ所有ニ歸スルコト論ヲ埃タス未タ配當ヲ實施セサル以前ニ在リカモ既ニ利益ノ配當スヘキコト確定シタルトキハ利益配當ノ目的トスル社員ノ權利ハ既ニ發生シタルモノナルカ故ニ其後會社ニ損失ヲ生スルモ社員ノ此權利ハ其レカ爲メニ影響ヲ受クルコトナシハ當審矣

第二 持分ノ拂戾ヲ受タル權利詳文此種モ主權及於該社員並有其權利者
合名會社ノ社員ハ各持分ヲ有ス社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得テ其持分ヲ譲渡シタルトキハ該社員ハ之ニ因リ會社ヨリ脱退スルコトハ商法第七十三條第二項人解釋上疑ヲ容レス故ニ持分ハ社員タル資格ノ要件ニシテ之ヲ有スル者
社員タリ之ヲ失フ者ハ社員タル資格ヲ失フ然ラハ持分トハ果シテ何ヲ云フカ
是レ一ノ問題ナリ蓋シ會社ノ社員カ互ニ財產ヲ供出シテ會社ノ資產ヲ形成シ之ヲ資本トシテ其同ノ事業ヲ營ムコトアリ目的トスルノ經濟的制度ナリ會社ノ資產ハ社員ノ出資ヨリ成立ス故ニ社員ハ法律上會社財產ノ上ニ直接ニ直接ニ

ヲ有スルモノニ非スト雖モ出資ヲ爲シ會社ノ資産ヲ形成ストノ理由ニ依リ會社ニ對シ一種ノ財產上ノ關係ヲ有セオルベカラス此關係ハ金錢上ノ價格ヲ有シ會社財產ノ狀況ニ因リ異動ス此關係ヲ其作用ノ方面ヨリ觀察スルトキハ出資ノ義務利益ハ配當ヲ受タル權利退社シタルトキ持分ノ價額ニ應シテ會社財產ノ一部ノ拂戻ヲ受タル權利及ヒ會社カ解散シタルトキ殘餘財產ノ分配ヲ受タル權利ト爲ル故ニ予輩ハ持分ヲ解シテ社員カ其資格ニ於カ會社財產ニ與ル關係ナリト言ハント欲ス以上ハ予輩カ社員ノ持分ニ付テ有スル見解ナリ今此見解ノ正當ナルコトヲ法文ニ依リテ證明セント欲ス商法第七十一条ニハ社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキテ雖モ其持分ノ拂戻ヲ受タルコトヲ得トアリ此規定ニ依レハ社員ハ如何ナル種類ノ出資ヲ爲シタル場合ト雖モ退社シタルトキハ持分ノ拂戻ヲ受タルコトヲ得此規定ノ裏面ニ於テハ出資ヲ爲サナル者ハ持分ノ拂戻ヲ受タルコトヲ得ス故ニ社員ノ持分ハ出資ヲ原因トシテ發生スルモノナルコト疑フ容レス次ニ持分ノ拂戻ハ社員ト會社トノ間ノ關係即チ内部ノ關係

係ニシテ商法第五十四條ニ依リ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用スヘキモノナリ而シテ民法第六百八十一條ニ依レハ組合員ハ脱退ノ當時ニ於タル組合財產ノ狀況ニ從ヒ持分ノ拂戻ヲ受ケ且其拂戻ハ出資ノ種類如何ヲ問ヘス金錢ヲ以テ爲ナルヘキモノナリ此規定ヲ會社ニ準用スルトキハ社員ノ持分ハ會社財產ノ狀況ニ因リ變動スル所ノ金錢ニ見積リ得ヘキ財產上ノ關係ナルト明カナリ又各社員ハ商法第五十四條民法第六百七十四條及ヒ第六百八十九條第二項ノ規定ニ依リ出資ノ額ニ應シテ利益ノ分配ヲ受ケ又會社解散ノトキ殘餘財產ノ分配ヲ受タルコトヲ得是ニ依リテ觀ルニ持分ハ社員カ出資ヲ爲スニ因リテ會社財產ノ分配ヲ受タルニ在ルコトト明カナリテ此ノ如ク持分ヲ解釋スルトキハ持分ノ一部ヲ讓渡シタル場合ニ於テ讓渡人ハ之カ爲メ毫モ業務執行若クハ業務監督ノ權利義務ニ影響ヲ受ケタル理由ヲ説明スル能ハス予輩ハ赴員

ノ財產上ノ權利義務ヲ以テ社員ノ基本タル權利義務トシ業務執行若クハ業務監督ノ權利義務ヲ以テ社員ノ從タル權利義務トス蓋シ後ノ權利義務ハ社員ノ財產上ノ權利ヲ確保センカ爲メニ付與セラビタルモナリ隨ナ後ノ權利義務ハ財產上ノ權利義務ニ隨伴ス財產上ノ權利義務ヲ有スル者ハ業務執行若クハ業務監督ノ權利義務ヲ有シ財產上ノ權利義務ヲ有セナル者ハ此權利義務ヲ有セス持分ノ一部ヲ譲渡シタル社員カ其譲渡以後ニ於テモ從前ト同一範圍ニ於テ業務執行若クハ業務監督ノ權利義務ヲ有スルハ即チ此理ニ因ル子輩ノ言ハント欲スル所ハ社員タルカ故ニ持分ヲ有スルニ非ス持分ヲ有スルカ故ニ社員タリ而シテ社員タルカ故ニ業務執行若クハ業務監督ノ權利ヲ有スルモノトス。退社員ハ任意ノ退社ト不任意ノ退社トヲ區別セス持分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得此請求權ハ社員ノ有スル純然タルノ債權ナリ故ニ若シ會社カ退社員ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ於テハ其債權ト社員ノ此權利トヲ相殺スルコトヲ得又此請求權ハ退社員カ金錢其他ノ財產ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ハ勿論労務又ハ信用ヲ以テ出資トシタル場合ニ於テセ存在ス但定款ニ別段ノ定

アルトキハ此限ニ在ラス第七一條商法第百二十四條ハ勞力又ハ退社ト共ニ終止スル所ノ出資ヲ爲シタル者ニ付テハ特別ノ合意アルニ非サレハ報償ヲ爲ス義務ナキ旨ヲ規定セリ之ヲ説明スル者ハ曰ク此等ノ出資ハ退社後會社ニ残存スルモノニ非シテ會社ハ之カ爲メ利益ヲ受タル所ナキカ故ニ報償スル義務ナキナリト然レトモ勞力、信用其他退社ト共ニ終止スル所ノ出資モ金錢其他ノ出資ト同シク會社ノ資產ヲ組成スルモノナルカ故ニ其社員モ亦他ノ社員ト同シク會社ニ對シテ財產上ノ關係ヲ有セサルヘカラズ既ニ財產上ノ關係ヲ有スル以上ハ退社後其出資ノ目的カ會社ノ財產ニ殘存スルト否トニ因リテノモノノ間ニ區別ヲ設クルコト能ハス況ヤ勞力ノ如キモノモ之ヲ會社ニ供給シタル結果ハ永ク存續スルニ於テヲヤケナルヘカラス要スルニ拂戻ノ價額ハ資本ヲ標準トセシテ財產ヲ以テ標準

ト爲スモノナルカ故ニ決シテ一定不動ノモノニ非ス法律カ此ノ如ク退社ノ當時ニ於ケル財産ヲ以テ持分拂戻ノ標準ト爲シタルハ退社員ハ退社前ニ生シタル會社ノ損益ニ就テ分擔ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フカ故ニ外ナラス而シテ其拂戻ハ出資ノ種類如何ヲ問ハス金錢ヲ以テ爲スヘキモノナリ特別ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス退社員カ會社財產ノ分割ヲ請求スルコトヲ得ナルハ會社財產ノ上ニ其有權ヲ有セサレハナリ會社ハ退社ノ當時ニ於ケル財產ノ貸借對照表ヲ作リテ以テ其狀況ヲ明カニシ退社員ノ持分ニ應シテ之ヲ計算ス若シ退社ノ當時ニ於テ未タ結了セザル事業アリテ其計算ヲ爲ス能ハナルトキハ其終了後ニ於テ計算スルコトヲ得此場合ニ其未タ結了セザル事業ヲ度外ニ置キテ退社員ノ持分ヲ計算シ後日利益アリタルトキハ其一部ヲ退社員ナ配當シ損失アリタルトキハ其一部ヲ退社員ノ責任ニ歸セシムルコトヲ得ルハ論ヲ俟タス持分ノ拂戻ハ任意ノ退社及ヒ除名ノ場合ニハ退社員本人ニ之ヲ爲スモ其他ノ不任意ノ退社ノ場合ニハ退社員本人ニハ之ヲ爲ス例ヘハ死亡ノ場合ニハ相續人破産ノ場合ニハ破産管財人禁治產ノ場合ニハ其後見人ニ拂戻スカ如シ退社

員カ持分ノ拂戻ヲ受クノ法律關係ハ會社内部の關係ナレハ商法第五十四條ノ規定ニ依リ民法第六百八十一條ノ規定ヲ準用ス
第三 残餘財產ノ分配ヲ受クル權利ニ^{第三}、
會社解散シタルトキハ其財產ノ處分ヲ爲ナシヘカラス會社財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済シタル後ニ於テ尙ホ殘餘ノ財產アルトキハ之ヲ社員ニ分配ス之ヲ殘餘財產ノ分配ト謂フ此分配ニ關スル法則ハ清算ヲ論スルニ當リテ説明スルコトヲ便宜ナリトスルヲ以テ後章ニ譜リ茲ニ之ヲ説明セス

第二節 會社ノ外部ノ關係

會社ノ外部ノ關係ハ公益ニ關スルコト多キヲ以テ定款ヲ以テ自由ニ定ムル能ハナルコトヲ原則トスルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ此外部ノ關係ハ何時ヨリ發生スルヤ會社ハ其設立ノ登記ヲ以テ非ナレハ其設立ヲ以テ第三者ニ對抗ズルコトヲ得ナルハ商法第四十五條ノ規定スル所ナリ然レトモ是レ會社ヨリ第三者ニ對シテ其設立ヲ主張シ得ナルコトヲ規定セバモニシテ第三者ヨリ

會社ニ對シ其設立ヲ主張スルハ法律ノ許ナナル所ニ非ヌ故ニ會社ノ外部ノ關係カ發生スルニ必シモ設立ノ登記ヲ要スルモノニ非ナルコトヲ注意セテルヘカラス唯既ニ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ縦合定款ヲ以テ其外部ノ關係ノ發生時期ヲ特ニ定ムルモ第三者ニ對シテハ其效ナシ要スルニ會社ノ外部ノ關係ハ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ當然ニ發生スルモ其登記以前ニ在リテ第三者ト取引ヲ爲シタルトキハ其時ヨリ發生スルモノトス

第一款 會社ノ代表

合名會社ノ各社員ハ會社ヲ代表スル權限ヲ有ス此權限ハ會社カ外部ニ對シテ存在スルコトヲ得シニ至リタルトキ直チニ發生スルモノニシテ社員ノ當然ニ有スル權能ナリ又此權限ハ會社ノ解散ヲ以テ終ル故ニ會社ノ清算中會社ヲ代表スル者ハ清算人ニシテ各社員ハ之ニ就ク代表權ヲ有セス
社員ノ有スル代表權ノ範圍ハ廣汎ニシテ會社ノ營業ニ關スル總務ヲ行爲ス
爲スヨリ又得目的ノ範圍外キ在ルモノ無テ總社員ノ同意ヲ得タルモノニ付

テハ會社ヲ代表シテ之ヲ爲セント得第六十二條ニハ會社ヲ代表スヘキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ニ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スト規定セリ代表社員カ其權限内ニ於テ爲シタル行為ハ會社ニ對シテ其效力ヲ生スルコトハ一般代理ノ法則ニ依リテ明カナリ民法ニ於テハ代理人ノ爲シタル行為カ本人ニ對シテ效力ヲ生スルニハ本人ノ爲メニスルコトヲ表示スルコトヲ必要トシ唯對手人カ其本人ノ爲メニスルコトヲ知リ又ハ之ヲ知リ得ヘカラシトキハ本人ニ對シ效力ヲ生セシム之ニ反シテ商法ニ於テハ縦合本人ノ爲メニスルコトヲ表示セザル場合ニ於テモ本人ノ爲メニ爲サレタル商行為ハ本人ニ對シ效ヲ生スルコトヲ原則トス故ニ合名會社ノ代表社員カ會社ノ爲メニスルコトヲ表示セスシテ爲シタル商行為ニ付テモ會社ハ之カ爲メニ權利ヲ得義務ヲ負フ是レ代表社員カ會社ノ爲メス所ノ行爲ノ商行為タルト否トニ因リテ異ナル要點ナリ代表社員ノ爲シタル不法行為ニ付テハ會社ハ當然其義務ヲ負フコトナシ然レバ其不法行為ニシテ社員カ會社ノ爲メニ常リテ爲ナシタルモノナガ場合ニ於テハ之ヨリ生シタル損害ニ付ギ會社ニ賠償ノ

責任ヲ負ハシムノハ被導者ヨ保謹スル上モ於テ必要ナリ以テ商法ハ此點ニ付キ民法第四十回條ノ規定ヲ導用シタリ會社カ社員ノ不法行為ニ因リ第三者ニ對シ損害賠償ノ責任ヲ負擔スルハ其行為カ會社ノ業務ヲ執行スルニ當リテ爲ナレタルニ由ハ其他ノ場合ニ於テハ之ヲ爲シタル社員ノミ其責ニ任セサルヘカラス（小ナリ之を認ムカレバ前項ノ事例、即ち會社ノ外務ノ關係）社員ノ代表權ニ加ヘタルトキハ會社ハ其社員ニ對シテ除名又ハ損害賠償ノ制限シトモ其制限ハ社員ニ對シテハ勿論有效ナルヲ以テ社員カ之ニ從ハシテ然シトモ其制限ハ社員ニ對シテ除名又ハ損害賠償ノ制限シトモ第三者ト行爲ヲ爲シタルトキハ會社ハ其社員ニ對シテ除名又ハ損害賠償ノ制限シトモ第三者カ之ニ從ハシテ然シトモ第三者ハ會社ト取引スルニ當リ一、登記簿ニ付テ開章スルニ非ナレハ登記ノ有無ヲ知ルコト能ム此ノ如キハ實際類繁ナル商業ニ於テ爲シ難キコトナリ故ニ原則トシテ第三者ハ凡テ其制限ヲ知ラサルモノトス

シテ之ニ對シ效力ヲ有セシメヌ惡意ノ證據アル場合ニ限り之ニ對シ效力ヲ有セシムハ最モ正當トス惡意ノ證明ハ會社ニ於テ爲ス責任アリ（第六二條第二項、民法第五四條参照）

代表權ハ各社員ノ當然有スル所ナレトモ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ選任スル場合アリ是レ多數ノ社員ヲ有スル會社ニ於テハ實際上便宜トスル所ナリ此場合ニ於テハ他ノ社員ハ代表權ヲ失ヒ其選任セラレタル社員ノ代表權ヲ有ス代表社員ハ單獨ニ會社ヲ代表シ得ルコト商法第六十一條ノ規定ニ照シテ明カナレドモ若シ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ代表社員共同スルニ非ナレハ會社ヲ代表スルコトヲ得スト定タル場合ニハ代表社員各箇ハ代表權ヲ有セス此代表社員ス選任ハ第三者ニ對シ其效アリ哉ニ代表社員ノ氏名ハ登記スルコトヲ要ス（第五一條第六號又定款ヲ以テ定タル代表社員ノ解任ハ定款ノ變更ナルカ故ニ總社員ノ同意ヲ經ルニ非ナレハ之ヲ爲スヲ得ナルモノトス

第二款 社員ノ義務

社員ノ外部ニ對スル義務トハ社員カ會社ノ債務ニ付キ第三者ニ對シテ負フ所ノ義務ヲ謂フ合名會社ハ法人ニシテ自ラ獨立シテ權利義務ノ主體ト爲ルコトヲ得ルカ故ニ其財產ハ會社ノ財產ニシテ社員ノ財產ニ非ナルト同シク其債務セ亦會社ノ債務ニシテ社員ハ之ニ付テ責任ヲ有セナルモノト爲ナナルヘカラス然ルニ商法第六十三條ハ會社財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハズトキハ各社員連帶シテ其辨済ノ責ニ任スト規定セリ社員ノ此連帶責任ハ論理ニ出テタルモノニ非ス第三者ヲ保護セントスル實際上ノ便宜ニ出テタルモノナリ蓋シ會社ノ財產ハ決シテ固定ノモニ非ス社員ノ意思ニ依リテ増減スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ會社ノ財產ノミヲ以テ其債務ノ辨済ニ充テ社員カ之ニ付キ何等ノ關係ヲ有セサルコトスルトキハ第三者ハ常に危險ナル地位ニ立タサルヘカラス之ヲ保護スルニハ社員ヲシテ會社ノ債務ニ付キ連帶ノ責任ヲ負ハシムル必要アリ此義務ハ法律ノ規定ニ依リテ當然發生シ且公當

上ノ理由ニ出ツルモノナルカ故ニ之ニ反スル契約ハ其效ナシ但第三者カ或社員ニ對シ此責任ヲ免除スルコトハ固ヨリ其自由ナリ此免除ノ意思表示ハ會社債務ノ發生以前ニ爲スモ或ハ發生以後ニ爲スモ其效力ニ於テ異力ナレ所ナガ矣此種之契約ノ事例ハ甚少然ニシテ會社財產ノ辨済ノ責付スル場合ニ連帶責任ハ會社財產カ其債務ヲ完済スルコト能ハナルトキ商法第六十三條ニハ會社財產ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハナルトキハ各社員ハ連帶シテ辨済ノ責ニ任ストアリテ此法文ヲ一讀スルトキハ社員ノ連帶責任ハ會社財產カ其債務ヲ完済スルコト能ハナルトキ始メテ發生スルモノノ如シト雖モ決シテ然ラス社員ノ義務ハ社員タル資格ヲ取得スルトキ直チニ發生シ唯會社財產ヲ以テ其債務ヲ完済スルコト能ハナビトキニ非ナリハ社員ハ其辨済ノ請求ニ應セサルコトヲ得ルノミナリ故ニ會社ノ債權者カ社員ニ對シテ辨済ヲ請求スルニハ先づ會社ニ對シ辨済ヲ請求シ破産若クハ強制執行ノ結果辨済ヲ得ナリシ部分カ確定シタル後ナラナルヘカラ以社員ハ相互ニ連帶ノ關係ヲ有スレモ會社ト社員トノ間ニハ連帶ノ關係ナシ會社ニ據健社員カ會社ノ債務ニ付テ第三者ニ對シテ負フ所ノ債務ニ一刻保護債務ナリ保

證債務ハ主タル債務者ガ債務ヲ履行セサル場合ニ於テ之の代り其履行ノ責務任スルモノナルコトハ民法第四百四十六條ノ規定スル所ナリ合名會社ノ社員ハ會社カ其財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハナルトキ私產ヲ以テ辨済ノ責ニ任スルモノナルカ故ニ之ヲ保證債務ナリト論スルハ正當ナリ唯其效果カ一般ノ保證債務ト少シク異ナル所アリ即チ左ノ如シ

(一) 社員ハ各自連帶シテ辨済ノ責ニ任スレドモ一般ノ保證債務ニ於テ保證人數人アルトキハ其義務ハ保證人間ニ分割セラム(民法第四五六條商法第六三條參照)

(二) 一般ノ保證債務ニ於ケル保證人ハ主タル債務者カ履行ヲ爲ナラルトキ其履行ノ責ニ任スルモノニシテ檢索ノ利益ハ一ム抗辯タムニ過キス故ニ保證人カ此抗辯ヲ提出セナリシトキハ縱令主タル債務者ニ辨済ノ資力アル場合ニ於テモ保證人ハ其資ヲ盡ナシルヘカラス之ニ反シ合名會社ノ社員ハ會社財産カ其債務ヲ完済スルコト能ハナリシトキニ至リ始メテ辨済ノ責ニ任スルモノナリ故ニ債權者ハ會社ノ無資力ナルコトヲ立證シタル後ニ非ナリ保證人タル

社員ニ對シ請求ヲ爲スヨリ得ス社員カ檢索ノ抗辯ヲ提出スルト否トハ關係ナシ(民法第四五二條、第四五三條參照)。是事並に登記簿上に社員名前ニ記載有り以上ニ掲ケタムニ二點ヲ除キ其他ノ保證債務ニ關スル民法ノ規定ニ合名會社ノ社員ノ義務并付モ亦適用セラル社員ノ此義務ハ法律ノ規定ニ依ル保證債務ナリ(民法第三百三十九條)。

社員ノ無限責任ハ會社タ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後五年ヲ経過シタルトキハ消滅ス(第一〇三條社員カ會社ノ存續中退社シ又ハ持分ノ全部ヲ譲渡シタルトキハ其登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス(第七三條參照))。會社ノ債務ニ對する辨済ノ責任ヲ負フ者は各社員ナリ故ニ特ニ業務執行社員ノ定アル場合ニ於テモ他ノ社員モ亦連帶責任アリ而シク既ニ社員タル以上ハ會社ノ設立以後ニ於テ加入シタル者ト雖モ加入前ノ會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ此義務ハ法律ノ命令スル所ニシテ之ヲ免レシムヘキ契約アリ爲ス。第三者ニ對レ其效カシ但第三者カ之ヲ免除シ得ルコトハ論フ矣タゞ社員ノ入社ノ登記スヘキノ事項ナレトモ其社員ノ責任ハ登記ヲ要セシム入社ト同時ニ發生ス

第六四條參照、イテ其並月、貴社へ登記モ添ナ、又メ入出ト開閉ミ無事
員ニ非サル者ニシテ會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ者アリ即チ左ノ如シ事ニ建
(一) 自己ヲ社員ナリト信セシタル者(第六五條參照)、販賣ニ付キ責任ヲ負
現實會社ノ社員タル者第三者ニ對シ恰モ社員タルカ如キ行爲アリタル
者ハ善意ノ第三者ニ對シ社員ト同一ノ責任ヲ負フ是レ合名會社ハ社員ノ信用
ヲ基礎トスルモノナルカ故ニ此ノ如キ規定ヲ設ケタルナリ惡意ノ第三者ニ對
シテハ此規定ヲ適用セス此者ノ責任ハ其行爲アリタル後ニ生シタル會社ノ債
務ニ對シ其以前ノ債務ニ及ハス又其責任ハ社員ト連帶ナリ

(二) **退社員第七三條第一項參照**

退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ為ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付
キ責任ヲ負フ此責任ハ登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス退社ノ登記後ニ
生シタル債務ニ付キ責任タキハ勿論ナリ法律カ登記前ノ債務ニ付キ退社員ニ
責任ヲ負ヘシタル所以ノモノハ第三者が其退社シタル社員ニ信用ソ及利會

社ト取引ヲ為シタルヤモ計ラシス然ルニ退社ト共ニ全ク責任ヲ免レシムト
キハ第三者ニ不測ノ損害ヲ加フ且時トシテハ第三者ヲ欺クカ為メニ、時信用
アル者ヲ入社セシム取引後直チニ退社セシムルカ如キコトナシトモス此等リ
詐欺ヲ防キ第三者者ノ利益ヲ保護スルカ為メニ退社員ヲシテ責任ヲ負ムシム
ルコト必要ナリ唯制限ナク責任ヲ負ハシムルハ第三者ヲ保護スルニ偏シ退社
員ノ為メニ甚タ苛酷ナリ故ニ法律ハ其責任期間ヲ登記後二年トモリ此責任ヲ
消滅ハ時效ニ依ルモノニ非ス故ニ法定ノ期間ヲ經過スレハ當然消滅スルヘ
(三) 特分ノ讓渡シタル社員ノ財産ノ管理、監視、監査、相手人、被相手人、被相手人
特分全部ノ讓渡ハ社員ノ責更ヲ惹起シ讓渡人ハ之ニ因リ會社ヨリ脱退ス故ニ
其讓渡人ニ對シ退社員ト同一ノ責任ヲ負ハシタルハ其當ヲ得タルモノナリ
第七三條第二項參照

第六章 解散
第六節 部派解散セシム者セシム者
合名會社ハ社員ノ意思ニ因リテ解散スルコトアリ又社員ノ意思ニ因ラスシテ
解散スル者セシム者セシム者

解散スルコトアリ何時ノ場合ニ於テ解散後會社ハ其營業止メ存在ヲ失フセ止マリ絕對的ニ消滅セナルヲ原則トス純理上ヨリ謂フトキハ會社ノ解散ハ會社ナル社團ノ消滅ニシテ之ヲ法人ノ點ヨリ觀察スレハ人格ノ喪失ナリ會社ノ解散前ニ生シタル法律關係ニシテ解散ノ當時未タ終了セナルモノハ解散ニ因リテ其主體ヲ失フカ爲メ之上同時ニ消滅セナルベカラス會社財產が無主物ト爲リ會社債權者ハ其權利ヲ失フ此ノ如キヘ論理ノ結果ナビトモ公益上許可キ事項ニ非ス是ヲ以テ法律ハ解散ノ後ト雖モ會社ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テ尙ホ存續スルモノト看做スル例ハ合併ニ因リテ解散スル場合是ナリ此場合ニハ合併ニ因リテ解散スル所ノ會社ノ權利義務ハ合併後尙ホ存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ニ承繼セナルカ故解散ヲ清算ミ爲ス必要ナク會社ハ解散セリ

其一切ノ權利義務ハ當然滅社員ハ承繼セナルカヨリ其規定シタル場合ニ於テ亦會社ノ解散ニ因リテ絕對的ニ消滅ス之ヲ要スカニ解散ハ二三ノ場合ヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ會社ノ營業能力喪失ノ原因ニシテ絕對的消滅ノ原因ニ非ス解散前ノ會社ハ商業ヲ營ムヲ以テ目的の全シ解散後之會社ハ會社財產ノ處分ヲ以テ目的トシニ若全ク其性質ヲ異ニスレントモ法律ハ便宜上之ヲ以テ同一ノ會社ト看做セラ

第一節 解散ノ原因

第一款 存立時期ノ満了其他定款ニ定メ、又財資等
之類或人道關係等ニ由之ノ發生又開基者モ其員生又其後ハ事務
是レ商法第七十四條第一號ニ規定スル解散ノ原因ニシテ會社之生因リテ解
散スルハ多言ヲ要セス此場合ニ於テ社員ノ全部又ハ一部其同意ヲ以テ會社
ヲ繼續スルコトヲ得純理ヨリ謂フトキハ會社ハ存立時期ノ満了其他解散ノ事
由發生ニ因リテ當然解散スルキモ大ガルカ故ニ社員ハ既且解散ノ手續ヲ爲シ
タル上ニ更ニ新設ノ手續ヲ爲ナガルベカラス然レト滿此ノ如キハ無用ノ手續

ヲ爲シ毫モ實際上ニ利益ナカセカラ故ニ法律ハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ前會社ヲ繼續スルコトヲ許セリ但此場合ニ於ク同意ヲ爲サヌシ社員ヲ限制シフ依然社員タル資格又有セシムルハ經營才ラナルヲ以テ不同意ノ社員ハ常然退社シタルモノト看做ス此ノ如ク法律ハ會社又繼續ヲ以テ會社ノ變更ト看做スカ故ニ此場合ニハ設立ニ要スル手續ヲ爲スノ必要ナシ唯第五十三條ニ依リ變更ノ登記ヲ爲スヲ以テ足レリトス同意セナリシ社員ニハ持分ノ拂戾ヲ爲スコトヲ要シ又此社員ト雖モ前會社ノ債務ニ付キ退社ノ登記後二年間ハ責任ヲ負擔セナシヘカラス(第七五條參照)

第一款 會社ノ目的 タル事業ノ成功又ハ其成功

會社ノ目的又ハ其成功又ハ其失敗ノ不能
會社ハ一定ノ商業ヲ營ムヲ以テ其目的トス然ル其目的ヲ達シタル時止ム
局目的ナキニ至リタルモナリ又其目的カ到底成功セサシニ至リタル時止ム
目的ナキト同時ニ論スルヨリ不得故ニ此二ツノ場合ニ於ク會社ノ解散不ル
當然ナリ目的ノ成功ノ不能ニ法律上ノ理由ニ因リテ生スルコトアリ又經濟上

ノ理由ニ因リテ生スルコトアリ會社ノ事業カ經濟上ノ狀況ノ爲メニ到底損益相償ハサルニ至リタルトキハ之ヲ以テ目的ノ成功不能ニ至リ失敗也ト看だ
ヨトヲ得第七四條第二號參照)主職津邊氏、會通ラハ合意シ本紙セシム(公
會紙セシム)

第三款 總社員ノ同意

總社員ハ合名會社ノ最高機關ニシテ此機關ノ決議ヲ以テ會社解散ノ原固ト爲シタルハ至當ナリ此決議ハ即時ニ會社ヲ解散セシムヘキコトノ目的ナリセナルベカラス將來ニ於ク會社ヲ解散セシムヘキコトノ目的ナリ決議ハ愛護所謂解散ノ決議ニ非シテ存立時期若タハ解散事由ニ關スル定款ノ變更セシムノ異ルヘキモノナリ解散ノ決議ハ存立時期ノ定アル否トヌ間ハ何時ニテノ之ヲ爲スコトヲ得(第七四條第三號參照)

總社員ノ事由
第四款 會社ノ合併

總社員ノ合併甲乙ニ會社ノ合併ニ申會社合併ノ理由ニ合併
合併トヘニツ以上ノ會社ヲ相合シテ一スル會社者ニ看謂本邦方達ニ云アリ

一、甲會社ヲ解散シ乙會社ニ加入シ、甲乙二會社各自解散並ニ丙會社ヲ設立スルモノヲ謂フ第一ノ方法、合併トキハ合併ハ甲會社解散ノ事由乙會社變更ノ事由ニシテ第二ノ方法ニ依ルトキハ合併ハ甲乙二會社ノ解散ノ事由丙會社設立ノ事由ナリ此ノ如ク合併ノ效果ハ會社ノ解散ノミニ限ラスト雖モ商法第七十四條第四號カ之ヲ以テ解散ノ事由ト爲シタル時合併因リテ解散スル會社ノ方面ヨリ觀察シタルモノナリ然レバセ合併ハ解散ノ外ニ會社ノ變更若クハ設立ヲ生スルカ故ニ其變更ヲ受タル會社又ハ新ニ設立スル會社ノ在ラテハ其會社ノ種類ニ從セ之ニ必要ナル手續ヲ爲シロキテ要スル議論ヲ俟タス本款ニ於テ説明スル所の合名會社カ合併ニ因リテ解散又ハ場合ニ開業ル能則ノ説明ナリ會社ノ合併ハ舊商法ノ認メナル所ナリシト雖モ實際上ノ必要ハ會社ノ合併ヲ認メナルヘカラナルニ至リ明治二十九年法律第八十五號ヲ以テ銀行合併法ヲ發布シタリ然レバモ銀行以外ノ會社ニハ合併ノ方法ナカリシ爲シ甚ダ不便ヲ感シタル新商法カ廣之會社之合併認メタル所ニ其實際上ノ必要ニ應シタルナリ此處ハ本來之實地ノ發達未熟地主ノ類似ノ事例ニ應用斯ル

合名會社カ他ノ會社ト合併スルニハ總社員ヲ同意シ必要トス(第七七條參照)合名會社カ他ノ合名會社ト合併スルニハ得ルハ論ヲ埃タサレルモ種類ノ異ナリタル他ノ會社ト合併スルコトヲ得ルヤ否ヤハ一ノ問題ナリ此點ニ付テハ二說アリ第一說ミ曰タ種類ノ異ナリタル會社互ニ合併スルヨリ得ヌ我商法六特ニ認メタル三ノ場合ニ限リ會社組織ノ變更ヲ許セリ然レバニ種類ノ異ナリタル會社ノ合併ニ會社組織ノ變更ヲ惹起スカ故ニ此ノ如キハ法律ノ認メナル所ナリ二說スルヲ當ドスト第二說ハ合併ニ付キ法律上何等ノ制限ナキカ故ニ種類ノ異ナリタル會社ト雖モ亘ニ合併ヲ爲シトヲ得ド論セリ予聲ハ此ニ認メタル第三ノ場合ニ除斥權ハ如何ル場合ニ於テセ會社組織ノ變更ノ異ナリタル會社ト雖モ會社組織ノ變更ヲ惹起サナル範圍内ニ於テハ合併スルコトヲ得ト抑ヘ會社組織ノ變更ハ法律方得ニ之ヲ認メタルニニノ場合ニ於テソモ爲スコトヲ得ル合五第ニ說メ云々又如シ(第一一八條第二四七條第二五ニ依參照故此此三ノ場合ニ除斥權ハ如何ル場合ニ於テセ會社組織ノ變更ノ法律ノ許可カル通ノ事莫ト解スルヲ至當至ス然レバトヨ異種類ノ會社ノ合併

ハ必得シ合名會社組織ノ變更ヲ生スバモノ非ス會社組織ノ變更ヲ惹起ナシ
場合ニ於テ其合併ヲ認ヌタルノ理由ナシニ例ヲ以テ之ヲ示セバ合名會社ト合
資會社ミカ合併シ合名會社ヲ解散シ合資會社カ存續スル場合ニ於テハ合資會
社ヘ其定款ニ變更ヲ受クノコトアルモ其組織ヲ變更スルコトナシ又ト同ジ
ク合資會社タ解散シ合名會社カ存續スル場合ニ於テモ合資會社ノ有限責任社
員カ無限責任社員ト爲ドコトヲ承諾シタルトキハ必スシミ組織ノ變更ヲ生ス
ハセノニ非ス此合名會社ト株式會社トカ合併シ新ニ株式合資會社ヲ設立ス
ル場合ニ於テハ毫モ會社組織ノ變更ナルモノナシ故ニ異種類ノ會社ノ合併ハ
常ニ會社組織ノ變更ヲ生スルモノトシ絶對的ニ之ヲ許サヘルモノト解スルハ
決レリ然レトモ第二説ノ如ク如何ガだ場合ニ於テモ異種類ノ會社ノ合併ヲ認
ムガハ稍ナ廣キニ失ス之ヲ要スルモ合名會社ハ會社組織ノ變更ヲ生セナリ限
リ異種類ノ會社ト合併スルコトヲ得
會社ノ合併ハ會社ノ債權者甚大ナル利害ノ關係ヲ有ス例ヘハ負債少キ會社カ
負債多キ會社ト合併スル事キハ前者ノ債權者固之カ爲メニ其擔保ヲ減セラル

ル結果ヲ見ルコトアルカ如シ是ヲ以テ商法ハ一方ニ於テ會社ノ便宜ヲ圖リ合
併ヲ爲スヲ許シタルト同時ニ他方ニ於テ債權者ノ利益ヲ保護セんカ爲メ種種
ナル規定ヲ設ケタリ即ち商法第七十八條乃至第八十條ニ規定スルモノ是ガリ
此等ノ規定ニ依レハ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議之日ヨリ二週
間内ニ財產目録及ヒ貸借對照表ヲ作リ以テ會社財產ノ狀況ヲ明カニシム且二箇
月以上ノ期間ヲ定メテ債權者ニ對シ異議アラハ之ヲ通知ヘキ旨ヲ公告シ且知
レタル債權者ニハ各別ニ催告セナシヘカラス債權者カ其期間内ニ異議ヲ述べ
ナリシトキハ合併ヲ承認ルタムモノト看做シ直ニ合併ヲ爲スコトヲ得ルモ
之ニ對シ異議ヲ述べタルトキハ會社ハ其異議ヲ述ヘタル債權者ニ辨済ヲ爲シ
又ハ相當ノ擔保外供スルモ非ナレハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ若シ辨済又ハ擔保
ノ供給ヲ爲スルシテ合併ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ
對抗スルコトヲ得ス故ニ會社ノ債權者ニ異議アルトキハ絕對的ニ合併ヲ爲ス
コトヲ得スト謂フ非ナレシテ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得サルノミ
又債權者ニ對シテ一定ノ期間内ニ異議ヲ述べタルコトヲ得ル旨ノ公告ヲ爲ス

又ハ知レタル債權者ニ對シ異議申立ノ催告ヲ爲テスシ合併ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ通知ノ債權者又ハ催告ヲ受ケタリ之債權者ニ對抗スルサトヲ得ス
會社ノ業務ヲ執行スル社員カ此等ノ手續ヲ履行セヌシテ合併ヲ爲シタルトキ
八十圓以上千圓以下ヲ過料ニ處セラル(第二六二條第二號参照)。
合併ノ效果ハ合併スル會社ニ依リテ異ナリ合併ニ因リテ消滅スル會社ノ爲メ
ニハ解散ノ效果ヲ生シ合併後存續スル會社ノ爲メニハ定款變更ノ效果ヲ生シ
合併ニ因リテ成立スル會社ノ爲メニハ設立ノ效果ヲ生不此他合併ノ重要ナル
效果ハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ
消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼スル事ト是ナリ(第八二條参照)。公售シ且取
會社カ合併シタルトキハ二週間内ニ本店及び支店所在處ニ於テ合併存續ス
ル會社ヲ付テ其變更ノ登記ヲ爲シ合併ヨリテ消滅シタル會社ニ付テハ解散
ノ登記ヲ爲シ合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ商法第五十一條第一項ニ
定メタル登記ヲ爲スヨリナ要矣(第八一號参照)。且し既益又累計ナリ或然ナリ
此結果モ蒙ヘシテハ未だ其基盤ヲ失フモノニ非ナルト以テ當然解散スルコトナシト謂
ヒ第二ハ社團法人ハ人格ヲ有スル社團即チ人ノ團體モシテ社員カ「人ト爲リ
タルトキハ最早之ヲ社團ト云アコト能ハナルカ故ニ當然解散シテナシカラス
社員ノ缺乏ヲ待ツ必要ナシト謂ヒ第三ハ社團法人者曰く且成立シタルト以土ナカ其
生存上社員ノ變更増減若クハ消滅ニ何等ノ關係ヲ有シモス故ニ社員
缺乏スルモ當然解散スルコトナシト謂フ在リ予察め此三說中第二說ヲ以テ
穩當ナリト信ス抑モ社團法人ハ社團カ人格ヲ有スルモノナシカ故ニ社員カ」

第五款 社員カ一人ト爲リタルコト

大體通則

民法第六十八條第二項ノ規定ニ依リテ社團法人ハ社員イ缺乏セシムヲ解散ス
アル社員カ一人ト爲リタルカ爲メ當然解散スルコトナシ然ダニ会員會社ハ社
員カ一人ト爲リタルトキ當然解散ス(第七四條第五號參照)是レ民法ト商法ト異
ナル點ナリ社團法人ハ解散ニ關シテハ學理上三說アリ第一ハ社團法人ハ社員
ヨリ成ルモノナルカ故ニ社員缺乏スルニ至リ解散ス社員カ一人ト爲リタル
ノミニテハ未タ其基礎ヲ失フモノニ非ナルト以テ當然解散スルコトナシト謂
ヒ第二ハ社團法人ハ人格ヲ有スル社團即チ人ノ團體モシテ社員カ「人ト爲リ
タルトキハ最早之ヲ社團ト云アコト能ハナルカ故ニ當然解散シテナシカラス

人ト爲リタルトキハ最早之ヲ社團奉云フハカラナルヲ以テ當然解散セサルヘカラス唯營利ノ目的トセタル社團法人ハ成ルヘタ承テ存續セシムアルトラ公益上便宜トスルカ故ニ民法ハ社員カ一人ト爲リタルノミヲ以テハ未シ社團法人ノ解散ヲ生セシメス然ルニ會社ハ社員ノ利益ヲ目的ニスル法入ニシテ社員カ唯一人ト爲リタルトキハ商業上ニ於ケル團體ヲ保護シ監督スルカ爲シニ設ケラレタル會社法ノ規定ヲ之ニ適用スルハ程當ナラス要スルニ社員カ一人ト爲リタルトキハ一人タル商人ト區別スル必要ナキカ故ニ法律ハ之ヲ會社トシテ運営セシムルコトヲ認メス

第六款 破産

會社ハ商業ヲ營ムヲ以テ目的トス然ルニ破産ノ宣告ヲ受タルトキハ會社ハ營業上ノ能力ヲ失フ是レ破産ヲ以テ解散少原因本爲シタル折以ナリ第七四條第六號參照)

第七款 裁判

會社ハ解散ヲ命スル裁判所ノ裁判ニ因リテ解散ス此裁判ニハ決定ヲ以テスビモノト判決ヲ以テスルモノトアリ會社カ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後正當ノ理由ナクシテ六箇月内ニ開業セザルトキ及ヒ營業中止ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ヘ檢舉ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ解散ヲ命ス(第四七條第四八條)此二場合ニ爲ス所ノ裁判ハ決定ノ方式ニ依ル其手續ハ非訟事件手續法ニ規定セラム(非訟事件手續法第一二六條第一項)第一三四條第一三五條參照)ニ反シ商法第八十三條ノ規定ニ依リ社員ノ請求ニ因リ裁判所カ解散ヲ命スル裁判ハ判決ノ方式ニ依ル此場合ニ判決ヲ以テ解散ヲ命スヘキモノナルコトハ非訟事件手續法第一百八十四條ニ於テ其解散登記ノ申請書ニ判決ノ證本ヲ添附スルコトヲ要スト規定セルニ微シ疑フ容レス故ニ社員カ會社ノ解散ヲ裁判所ニ請求スルニハ訴ノ方法ニ依ルコトヲ必要作ス左ニ商法第八十三條ノ規定ニ付テ説明セシム間ハ文書オチ又は會社を解散セ

會社ノ事業ヲ豫期ニ反シ十分ナル利益ヲ得ル能ハサルトキ又ハ會社カ引継キ
損失ヲ被リタルカ爲メ當亦其事業ヲ維持スル見込ナキトキ又ハ社員中ニ忤德
ノ行爲ヲ爲シ爲ミニ會社ノ信用ヲ失墜シ到底復スル能ハサルトキ其他會社
ヲ維持スルコト能ハサル事由アルトキ各社員ハ會社ノ解散ヲ裁判所ニ請求ス
ルコトヲ得蓋シ此等ノ事由アル場合ニ於テ總社員ノ同意アルトキハ直チニ解
散ヲ爲スコトヲ得ルモ時トシテハ總社員ノ同意ヲ得ル能ハサルコトアリ然ル
ニ其同意ナクシハ解散スルコト能ハストセハ一部ノ社員ハ甚シキ不利益ヲ被
ラナルヘカラス故ニ已ムコトヲ得サル事由アルヤ否ヤラ裁判所ノ判断ニ在シ
各社員ヲシテ解散ノ請求ヲ爲スコトヲ得セシムルハ甚タ亟當ナリ是レ商法第
八十三條ノ規定アル所以ナリ但裁判所ハ社員ノ請求ニ因リ會社ノ解散ニ代へ
ヲ或社員ヲ除名スルコトヲ得例ヘニ或社員カ悖德ノ行爲ヲ爲シタルカ爲メ會
社ノ信用ヲ失ヒタル場合ニ於テハ狀況ニ依リ其社員ヲ除名スルコトム會社ノ
解散ヲ必要トセナルコトアリ

論語孫子二編ノ取次書合併ノ其當人ハ中立者モ指揮ハ無事ハ無事一人
歸入マサ多モ其當人ハ無事ハ無事一時ニ堪ハ無事ハ無事一時ニ堪ハ無事
會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外二週間内ニ本店及ヒ支
店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス第七六條參照茲ニ合併及ヒ破産ノ
場合ヲ除外シタルトキハ別ニ第八十一條ノ規定アリ破産ノ場合ニハ
非訟事件手續法ニ依リ破産裁判所ノ通知ニ依リ登記所カ職權ヲ以テ破産ノ登
記ヲ爲スカ後ニ收ナ解散ノ登記ヲ必要トセナルナリ(非訟事件手續法第一八一
條乃至第一八四條第一五二條第一五三條参照)眞木文庫ノ叢書第三卷第十八
章

第七章 清算

論語孫子二編ノ取次書合併ノ其當人ハ中立者モ指揮ハ無事ハ無事一人
歸入マサ多モ其當人ハ無事ハ無事一時ニ堪ハ無事ハ無事一時ニ堪ハ無事
會社ハ解散ニ因リ營業能力ヲ喪失スルカ故ニ之ニ關シ特別ノ規定ヲ設ケ
ル必要アリ而シテ會社財產ノ處分ヲ爲スハ既ニ著手シテ未タ終了セサル業
務ヲ遂ニ結了セシメ價額ヲ取立テ債務ヲ清濟シ殘餘財產ヲ社員間ニ分配セテ

ルヘカラス會社財産の處分結了シテ始メ大會社へ絕對的ニ消滅ス此ノ如ク會社ノ絕對的消滅ヲ準備ナル手續ヲ廣義ノ清算ト謂フ會社ノ解散後ト雖モ清算中其目的ノ範圍内ニ於テハ尚モ存續シ清算ノ終了ト同時に絕對的ニ消滅ス第八四條参照清算中會社ノ解散前又會社ト其目的ヲ異ニスビトモ法律ハ之ヲ以テ前後同一ノ會社ト看做スコトハ既ニ前章ニ説明シタルカ如シ

會社ノ解散後ハ營業ニ關スル法律ノ規定ヲ適用スルヲ得サルコト既ニ前章ニ説明シタル所ナリ合名會社立社員ノ人の信用ニ重キヲ置キ社員死亡シタルトキト雖モ其相續人ハ定款ニ別段ノ定ナキ限り當然前者ノ權利義務ヲ承繼シ社員ト爲バコトヲ得ガル^ハ營業上ノ信用ヲ維持セシムカ爲カニ外ナラス故ニ一旦會社ノ解散シ營業能力ヲ失ヒタル以上ハ此ノ如クル法則モ亦自ラ適用ヲ失フ社員死亡シタルトキ其相續人ハ當然前者ノ地位ヲ襲踏ス相續人歟人アリタハトキノ社員ノ權利モ其共有ニ歸セザル^ハカラス然ルニ清算ニ關シ歎人ム相続人ヲシテ各其權利ヲ行使セシム^ハ徒ニ事ノ繁雜ヲ來スニ過キス是ヲ以テ商法第百二條ハ斯ル場合ニハ其數人ノ中ニ付テ社員ノ權利ヲ行フヘキ者一人

ヲ選定スルコトヲ命シタリ(第一〇二條参照)會社財産の處分結了シテ始メ大會社ノ解散ニ非ナルモノ
以上ハ清算ニ關スル總論ナリ然ルニ商法ハ純然タル會社ノ解散ニ非ナルモノ
ヲ解散ト同ニニ看做シ清算大手續ヲ爲スベキコトヲ命セムモノアリ即チ會社
カ事業ニ着手シタル後其設立ヲ取消シタル場合是ナリ(第一〇〇條参照)此場
合ニハ會社ナルモノハ存在スヘキ理カキヲ以テ之ニ關シ當然清算ノ手續ヲ適用
スルコトヲ得スト雖未其財産ノ處分ヲ爲ス必要ハ解散ノ場合ト異ナルコト
ナク其手續ニ至リテモ亦之と同一ナラシム^ハコトヲ得是レ法律カ之ヲ解散ノ
場合ニ準シ清算ヲ爲スベキコトヲ命シタル所以カリ會社ノ設立ヲ取消シタルト
シトキトモ設立行為ニ關シ詐欺若ク強迫シ因リ意思ヲ表示シタル者アリテ
幾日其意思表示ヲ取消シタル^ハ如キ場合ヲ謂フ會社ノ設立ヲ當然無効ナルト
キ及ズ會社ヲ未タ事業ニ着手シタルトキ其設立ヲ取消シタル場合ハ商法第
百條を適用ヲ受ク但其者ニ非ス^ハ特字開本大紙張書大紙張書八寸紙張書
合規紙^ハ小字開本大紙張書大紙張書八寸紙張書
會社設立書類^ハ小字開本大紙張書大紙張書八寸紙張書

會社力解散シタードキ其財産ノ處分ハ必ス法律ニ規定スル所ノ嚴密ナル手續ニ依ルコトヲ必要トスルカ會商法ニ於テハ此點ニ付テ明文ヲ缺キタルカ爲メ要ツ生シタレドモ新商法ニハ此點ニ付キ明カナル規定アリ商法第八十五條ニ曰ク解散ノ場合ニ於タル會社財產ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得シ蓋シ合名會社ハ通常少數社員ヲ以フ組織スルモノニシテ其業務及ヒ社員第三者ニ對スル關係ハ必スシモ複雜ナリト謂スヘカラス故ニ或場合ニ於テハ特ニ秘密ナル清算ノ手續ニ依ルコトヲ要セスシテ社員間ノ同意ニ依リ簡単に終結セシムルコトヲ得例ヘハ會社財產ノ全部ヲ他人ニ譲渡シ其代金ヲ社員間ニ分配スルカ如シ此ノ如き場合ニ於テ法律ニ規定スル清算ノ手續無依ルコトヲ強制スルハ實際上何等ノ利益ナキ所ナリ是レ法律カ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ財產ノ處分方法ヲ許シタル所以ナリ之ヲ法定ルノ第三對シ任意ノ清算ト稱ス此方法ニ依テ財產ヲ分配スルニ當リテハ往々會社ノ債權者ヲ害スルカ如キコトナキヲ保証ス論矣之ニ關する債權者ノ利益ヲ保護スルカ爲メ適當ノ方法ヲ規定スル必要アリ會社ハ此場合ニ於テハ解散ノ日ヨ

二週間内三財產目錄及ビ貸借對照表ヲ作リ二箇月ヲ下ラサル期間ヲ定メテ債權者ニ對シ異議アラハ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告セナル久カラス債權者カ其期間内ニ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ之ニ辨済ヲ爲シ又其相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ財產ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス此辨済又ハ擔保ノ供給ヲ爲ケシテ財產ノ處分ヲ爲スモ之ヲ以テ異議ヲ述ハタル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス又若シ會社カ債權者ニ對シ異議ヲ述フヘキ旨ヲ公告又ハ催告ヲ爲サシテ財產ノ處分ヲ爲シタル事キハ之ヲ以テ轉テノ債權者又ハ催告ヲ受ケタリシ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス是レ商法第八十五條第二項ノ規定スル所ナリ

第二節 法定清算

會社財產ニ付キ任意處分ノ定ナキトキハ合併及ヒ破產ノ場合ヲ除キ其他之場合ニ於テハ必ス商法ニ規定スル所ノ方法ニ依リ之ヲ處分セナガルベカニス其方法ヲ法定ノ清算ト謂フ合併及ヒ破產ノ場合ヲ除外シ次第ハ合併ニ場合區別

併後存續スル所ノ會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社カ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼スルカ故ニ特ニ清算又ハ必要ナシ又破産ノ場合ニハ別ニ定メタル財產ノ處分方法アルカ故ナリ以下法定清算ニ關スル手續ヲ説明スヘシ

第一款 清算人ノ選任及ヒ解任

清算ハ總社員之ヲ爲スコトヲ得シルモ多數ノ社員ヲ有スル會社ニ在リテハ特ニ清算人ヲ選任スルヲ以テ便宜トスルカ故ニ法律ハ其選任ヲ許セリ清算人ノ選任ハ社員中ヨリ爲スコトヲ必要トセス社員外ノ者ト雖ニ之ヲ選任スルコレヲ得是レ最ニ適任ノ者ヲ得シカ爲メナリ清算人ハ社員之ヲ選任スルト普通ナレトモ時トシテハ裁判所之ヲ選任スルコトアリ社員之ヲ選任スル場合ニハ其選任數ヲ以テ之ヲ決スベキモコトス(第八七條裁判所カ清算人ノ選任スル場合左ノ如シ)清算人ノ選任スル者ニ於テ發レバ一人ノ社員若ク
一、社員カ一人ト爲リタルトキ第八八條の場合ニ於テ發レバ一人ノ社員若ク

ハ其社員ノ選任シタル清算人ヲシテ清算ヲ爲シシムトキハ公平ヲ失スハ危險アリ是ヲ以テ法律ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所ヲシテ清算人ノ選任ヲ爲シシムルコトヲ定メタリ(第八九條)此場合ニ於テ發レバ一人ノ社員若ク
二、會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタムトキ(第八九條)此場合ニモ社員ハ會社事業ニ依リテ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ爲ナントスル虞アリト認メ解散フ命スルモノナルカ故ニ社員ヲシテ自ラ清算ヲ爲シシメ又ハ清算人ヲ選任セシムルハ決シテ得タルモノニ非ス是ヲ以テ法律ハ此場合ニモ
利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ヲシテ清算人ノ選任ヲ爲シシムルコトト定メタリ裁判所カ社員ノ請求ニ因リ判決ヲ以テ解散ヲ命スル第八十
三條ノ場合ハ此中ニ包含セラレスト信ス

三、會社カ事業ニ着手シタル後其設立カ取消ナレタルトキ(第一〇〇條)此場合ニ於テハ解散ニ準シテ清算ヲ爲スヘキモノナルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ而シテ此場合ニハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所ハ清算人ヲ選任ス
清算人ノ選任及ヒ解任ハ本店所在地ノ區裁判所之ヲ管轄ス此選任ノ裁判所

シテハ何人モ不服ヲ申立スル能カ不裁判所ニ選任スル清算人三付ヲ不制限有
 リ左ニ掲タル者ハ裁判所之國選任スル又得(非訟事件手續法第二十六條乃至第一
 三八條参照)、但清算人等の資本額を超過する者又は其の資本額を超過する者
 一會未成年者ニ基手ハ又、或其處立の取扱いに成り(第100条)、此處
 二者禁治產者
 三者禁治產者(既往犯、被處以刑罰者、以テ罪證を有大の罪八十
 四者剝奪公權者(前項ハ留保國民及民族犯を除く者)、被處以刑罰者、被處以刑
 五者停止公權者(犯人、監禁者、拘束者、未滿年者、被處以刑罰者)
 六者裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人自テ相殺後就業又未父及者就業人天
 七者破産者(被處以刑罰者、不直ハ本役及職人又ハ公使又は領事官員者)
 裁判所ニ選任シタル清算人ハ社員ノ決議ヲ以テ解任スルコトヲ得ナル
 ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ解任スルコトヲ得
 社員カ選任シタル清算人ハ何時ニテモ社員ヲ過半數ヲ決議ヲ以テ解任スルコ
 トヲ得ル外重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ解

任スルコトヲ得重要ナル事由アルサ否ヤハ事實問題ナレトモ其一例ヲ示セバ
 清算人カ不正行為ヲ為シ又ハ計算ヲ誤昧又付スル等ノ如シ(第九六條参照)
 清算人ノ選任解任及更迭(三週間内ニ本店及支店等所在地ニ於テ登記ヲ
 為スヨリ)要オ選任ノ登記ハ現任セタル清算人自ラ之ヲ申請シ解任及更
 叠ノ登記ハ現在ノ清算人之ヲ申請ス登記ヲ申請スベキ者カ之更迭リタルト
 キハ五箇以上五百箇以下ノ過科ニ處セラレ總社員カ清算ヲ為スルキハ登記ノ
 必要ナシ第九〇條第九七條第二六一條第一號非訟事件手續法第一七七條参照)

二 財務・清算 第一款 清算人ノ職務

清算ハ會社ノ絕對的消滅ヲ準備スル手續ニシテ換言スレバ會社財産ノ處分方
 法ナリ會社財産ヲ處分スルニハ先づ現務ヲ終了シ債務ヲ取立テ債務ノ辨済セ
 ナルヘカラス此ノ如クシテ猶ホ殘餘ノ財産アルトキハ之ヲ社員間ニ分配シ以
 ネ會社ヲシテ全然消滅ニ歸セシムルコトヲ得商法第九十一條カ清算人ノ職務
 ナ規定シ一現務ノ結了二債務ノ取立及ヒ債務ノ辨済三殘餘財産ノ分配ト爲シ

タルが此當業在又は丁度清算に現立其の社員、株主、三員の債権者長輩も爲す。現務人結了し解散前ニ著手したる連務ニシテ未タ終結セラムモ久之終結セシム然れどア開き清算中人會社新シキ事業ア爲スコトア得是レ清算を目的火範責務ヲ納丁スル所必要力アルモニニ限リ之ヲ爲スコトア得是レ清算を目的火範

国内ナレハナフ 一様

二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨済

本債權カ條件附又ハ期限附ナルトキケドキ條件ノ成否不確定時亦又ハ期限ノ到来ア待テタ之ヲ取立ツヘ生得ノガレトモ此ノ如ク各モトキハ清算ノ終結ヲ遙延カヌシテ甚々不便大至故ニ此ノ如ク場合於テ清算人之期限ノ利益ヲ抛弃セシメ若クバ條件附債權ヲ無條件ノ債權ニ更改セシメア之ヲ取立ナ又尚ホ此種ノ債權ヲ他人ニ譲渡シテ換價スルコトヲ得會社カ社員ヲレバ出資ヲ當爲ナシム但權利ベ一之債權ナリ然レトモ會社ハ現存ノ財産ヲ以テ其債務ヲ弁完済スルガ利能シタル可也非ナビカ社員ヲレバ出資ヲ爲ナシムバシトス

摘要セヌ是レ殘餘財產ハ社員ニ分配スルキニテナルカ故ニ一旦取立タルモノノ後日社員ニ拂戻スルカ如何ハ無能ノ事權ナシテナリ然レトモ現存ノ財產證ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサガヨキ此清算人ハ辨済期ニ拘ハラス社員証フシテ出資ヲ爲ナシムガニトア得第九三條ト甚々要端ニ相違ナリ且當日最次ノ會社ノ債務カ條件附又ハ期限附ナルトキ之ヲ無條件ノ債務ニ更改シ又ハ期限ノ利益ヲ抛弃シ辨済ヲ特ルコトハ言ヲ埃タヌ茲ニ所謂辨済ハ民法所規定セル債務消滅ノ一原因タル辨済ヨリモ廣義ニ解スヘキモノナリ相違ニ因リテ債務ヲ消滅セシムルモ此中ニ入ル前段ニ説明シタル債權ノ取立ナル語モ會廣タ解釋スルアリ當トス然而過大体が少く皆不當業人送下矣或成曲入者然此三項殘餘財產ノ分配出資又ハ出資額を合計スルコトヲ得第九五條

清算人カ債務ノ辨済前ニ會社財產ノ分配ヲ爲シタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラバ第二六二條第一〇號参照分配ノ割合ハ定款ニ別段ハ定ナキトキハ出資ノ額ニ從フ(第五四條民法第六八八條第二項参照是レ殘餘財產ノ分配ハ會社下社員トノ間ノ關係即チ内部ノ關係ナルカ故ニ組合ニ關ス三ノ民法ノ規定カ準用セラルモノトス

會社ノ清算中會社ヲ代表スル權限ヲ有スル者ハ清算人ノミニシテ他ノ者ハ何等ノ權限ヲ有セス清算人ハ其職務ヲ行フ爲メニ必要ナバ一切ノ裁判上又ヘ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有シニ加ヘタル制限ベシ以テ善意ノ第三者ニ對抗スル能ハス清算人數人アルトキハ其過半數ヲ以テ清算事務ヲ決定ス然レバニ第三者ニ對シテハ各自會社ヲ代表シテ其決議ノ實行ヲ爲スコトヲ得第九一條第九三條清算人ハ就職後退滯ナク會社財產ノ現況ヲ調査シ財產目錄及ヒ貸借對照表ヲ作リ之ヲ社員ニ交付シ又社員ノ請求ニ因リ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス清算中會社ノ財產カ到底其債務ヲ完清スルニ不足ナルコト分明ト爲リタルトキハ清算人ハ直ちに破産ノ宣告ヲ請求シ其旨ヲ公告セラム

第三款 清算ノ結了

カグス此場合ニ清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シ其任務ヲ終了ス(第九二條第九一條第三項民法第八一條参照)清算人ハ清算後は其職務ヲ終了シテ清算人カ前款ニ説明シタル職務ヲ終了シタルトキハ退滯ナク計算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求メタルヘカラス此計算ニ對シ社員カ一箇月内ニ異議ヲ述べテシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做シ爾後ノ處分ヲ爲スコトヲ得此承認ノ推定ハ絕對的ノ推定ニシテ反證ヲ舉タルヲ許サス但其計算ニ關シ清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限り在ラス計算ニ關シテ異議アリタルトキハ清算人ハ更ニ正當ナル計算ヲ爲シ各社員ノ承認ヲ求メタル後ニ非ナレハ其責任ヲ免メルコトヲ得ス各社員カ計算ヲ承認シタルトキハ清算ハ茲ニ全ク結了スルモノナルヲ以テ清算人ハ退滯ナク本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲シ清算結了ノ事實ヲ第三者ニ知ラシメサルヘカラス清算人ノ責任ハ此登記ヲ爲スニ因リテ全ク解除セラル(第九八條第九九條)

商法第百三條第二項ノ規定ニ依レハ解散ノ登記ヲ爲シタル後五箇年ヲ經過シ
タルトキト雖ニ未タ分配セサル殘餘財産アルトキハ會社ノ債權者ハ之ニ對シ
ノ辨済ヲ請求スルコトヲ得抑セ清算ハ會社財產ノ處分ヲ目的トスルモニシ
ラ會社ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ解散後ト雖モ尙存續スルモノナルコ
トハ既ニ述ヘタル所ナリ故ニ未タ分配セサル殘餘財産アルトキハ即チ清算カ
終了セサル證據ニシテ辨済ヲ得サル債權者カ之ニ付テ辨済ヲ請求スルフ得ル
ハ言フ埃タヌ故ニ第三百三條第二項ノ規定ハ其必要ヲ見ス

第三節 會社ノ書類ノ保存

會社ノ帳簿、營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ定款文ハ總社員
ノ同意ヲ以テ會社財產ノ處分ヲ定メタル場合ニ在リテハ本店ノ所在地ニ於テ
解散ノ登記ヲ爲シタル後其他ノ場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後
十年間之ヲ保存セサルヘカラヌ而シテ其保存者ハ社員ノ過半數ヲ以テハ定

ム(第一〇一條)當該次子者或當前人ニ其事務を用意又其財産を發下(後此二

第三編 合資會社

十三章 合資會社ノ意義

合資會社ハ社員ノ一部ハ會社ノ債務ニ付キ債權者ニ對シテ責任ヲ負担シ他ノ
一部ハ之ニ付キ全ク責任ヲ負擔セサル會社ナリ會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負
担スル社員ヲ無限責任社員ト謂ヒ之ニ付キ責任ヲ負擔セサル社員ヲ有限責任社
員ト謂フ故ニ合資會社ニハ必ず無限責任社員及ヒ有限責任社員アルコトヲ要
ス是レ舊商法ト至ク其規定ヲ異ニスル要點ニシテ舊商法ニ於ケル合資會社ハ
會社契約ニ特別ノ定ナキトキハ社員ノ責任ハ盡ク有限ナリ隨ナ有限責任社員
ノミテ以テ合資會社ヲ組織スルコトヲ得タリ茲ニ責任ノ有限無限ハ外部ニ對
シテ云フモノニシテ内部ノ關係ニ於テハ定款ヲ以テ自由ニ之ヲ定ムルコトヲ
得ルハ猶ホ合名會社ノ如シ無限責任社員カ會社並ニ第三者ニ對スル關係ハ合
名會社社員ノ法律上ノ地位ト殆ド同一ナルヲ以テ商法ハ合資會社ニ付キ合名
會社ニ關スル規定ヲ準用スヘキコトヲ定メ有限責任社員ニ關シテ特別ノ規定

ヲ爲セリ本編ニ於テ述フル所モ亦主トシテ有限責任社員ニ關スルモノナラ(第一〇四條第一〇五條)

第二章 合資會社ノ設立

合資會社ヲ設立スルニハ當事者間ニ於テ之ニ關シ適法ナル合意ノ成立スルコトヲ要シ且其合意ハ書面ニ記載セラルヲ要スルコト合名會社ト異ナラス定期ニハ「目的」商號三社員ノ氏名住所四本店及ヒ支店ノ所在地五社員ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準ヲ記載シ此他尚本社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ記載セサルヘカラス(第一〇六條又會社ハ定期ヲ作リタル日ヨリ二週間にニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ第五十一條第一項ニ掲ケタル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ登記セサルヘカラス此登記ヲ申請スヘキ義務アル者ハ無限責任社員ナリ登記事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ第五十三條ニ從ヒ二週間にニ變更ノ登記ヲ爲ササルヘカラス(第一〇七條)

〔序言〕
第三章 合資會社ノ法律關係
當ニ於特許法及商標法等の關係、並實一大大抵禦得失皆の與大本通商對外員以上並開大第一節 内部的關係 全て業務ノ執行及之に關する事項ノ處理、監督會社ノ内部ノ關係ハ定款ヲ以テ自由ニ定ムルコトヲ得ルノ原則トシ法律ノ規定ハ補充的ノ性質ヲ有スルコト合名會社ノ場合ニ異ナルコトナシ殊ニ無限責任社員ノ權利義務ニ關シテ然リトス有限責任社員ニ關シテハ特別ノ規定アリ入見家ノ合資會社ニ在業員ヲモニ斯ニ無理有給業員又會社ノ自始ノ設立資本又正大營業第一の次第第一正當額入資不正當額又資本五十無限責任社員ハ合名會社ノ社員ト同シク金錢其他ノ財產ハ固ヨリ勞力又ハ信用ヲ以外出資ノ目的又爲ヌア得レトセ有限責任社員ハ金錢其他ノ財產ノミリ合資會社ニ於テ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ者ハ無限責任社員ナラニシテ有限責任社員ハ此權利義務ヲ有セス定期ニ別段ハ定ナキ上モハ各無限

責任社員ハ此権利義務並に其の無限責任社員數人アルトキハ其過半數又以
大業務ノ執行ヲ爲要ニ舉行否ヤリ決定ニ有限責任社員ハ業務執行ノ権利義務
ヲ有セラル合名會社ノ社員ノ如シ此ノ如ク法律カ無限責任社員ノミニ業務執
行人権利ヲ與ヘタ所所以モセバ其責任無限ニシテ會社ノ盛衰ニ關係ヲ有ス
ルコト甚タ深ク其結果業務ノ執行スルニ當リ熟心且誠實ナルコトヲ得ヘク且
比較的利害ノ關係濃闊ナル有有限責任社員ヲシテ業務執行ノ任ニ當ラシム
危險アルカ故ナリ第五六條第一〇九條第一一五條業務ノ執行ニ關スル第五十
八條ノ規定ハ合資會社ニモ亦適用セラル故ニ無限責任社員カ會社ノ目的ノ範
圍内ニ在ラサル時行爲ヲ爲シント欲スルトキハ有限責任社員ノ同意ヲ得シルハ
カラス支配人ハ選任及ニ解任ハ特ニ業務執行社員カ定メタルトキ下雖モ無限
責任社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス(第十一〇條)
以上說明スルカ如ク有限責任社員ハ全ク業務ノ執行ニ與ラスト雖モ業務ノ適
當ニ執行セラルルヤ否ヤハ會社ノ盛衰ニ大ナル關係ヲ有シ延々有限責任社員
ノ利害ニモ關係ヲ有スルモノナムナシ以テ業務ノ執行ニ關シ合名會社の場合ト

同シク此等ノ社員ニ監督權ヲ與フルコト至當ナリ然レトモ利害ノ關係ハ業務
執行ノ権利義務ヲ有セラル合名會社ノ社員ニ比シ痛切ナラナルヲ以テ法律カ
合資會社ヲ有限責任社員ニ與シタル監督權ハ甚タ重要ナルモノニ非ヌ即チ合
名會社ニ在ラサルハ業務監督ノ権ヲ有スル社員ハ荷時ニテモ業務及ヒ財產ノ狀
況ヲ検査スルコトヲ得ル職業合資會社ノ有限責任社員ハ營業年度ヲ終了於テ
之ヲ検査シ重要ナル事由アルトキニ限り裁判所ノ許可ヲ得テ現年度ノ業務及
モ財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得ルニ過キス第五四條第一一一條民法六七三
條参照此ノ如ク一方ニ於テ有限責任社員ノ権利カ狹小ナル下同ニ他方ニ於
テ會社及ヒ第三者ニ對スル責任ニ亦重要ナラズ特ニ業務執行社員ヲ定タル
事キ他ノ無限責任社員カ有スル業務監督ノ権利ハ合名會社ノ場合ト同シハ其
他三資就業禁止並に其員ハ本職外更に其職業外の金銭又ハ其職業外の金銭又
無限責任社員ハ合名會社ノ社員ト同シク就業禁止ノ義務ヲ負擔スレトモ有限
責任社員ニハ此義務ナシ其理由ハ有限責任社員カ會社ノ業務及ヒ財產ノ狀況
ヲ検査スルヲ爲シ有スル所は権利算甚タ薄弱ニシテ自己ノ地位ヲ利用シ會社

ノ營業上ノ利益ヲ害スル如き危險ヲシテ羅ニ在リ第六〇條第十二十三條參照
社員ニハ其職務セヨ其理由ハ胥類青玉社員ニ會計ノ業務又其相手ハ外品
第四章持分ノ譲渡合資會社員ニ譲渡又其業務上之譲渡又販賣又ノイニル
無限責任社員ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得ルニ非ナレハ其持分ノ全部又ハ一部ヲ讓
渡スコトヲ得スト譲出有限責任社員ハ無限責任社員全員ノ承諾アルトキハ其
持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ譲渡スコトヲ得違法ニ持分ヲ譲渡シタルトキ讓
受人ハ譲渡人ノ権利義務ヲ承継スルハ合名會社ノ場合ト異ナラス第六一二條
参照
第五章利益ノ分配ハ事由ハイナニ堪セテ既往ノ有因ニ於キ既往ノ利益又
利益ノ分配ハ合テハ無限責任社員トノ間ニ等差ヲ設ケタル特
別ノ規定ナシ故ニ定款ニ別段ノ定本キトキハ出資ノ額ヲ標準トシテ分配ヲ爲
タナガヘカラス會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非ナシハ利益ノ分配ヲ爲スロト
ヲ得ス第六七條参照
同上此節ハ並員ニ譲渡既往ノ既往ノ有因ニ於キ既往ノ利益又
利益ノ分配ハ合テハ無限責任社員トノ間ニ等差ヲ設ケタル特
別ノ規定ナシ第一一四條第一一五條其理由ハ業務ノ執行ニ付
キ説明シタル所ト同一ナリ無限責任社員ハ各自代表權ヲ有スルヲ原則トシ定
款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ代表社員ヲ定メタルトキハ其社員ノミ代表權
ヲ有シ他ノ社員ハ之ヲ有セス其選任ハ固カリ無限責任社員ノ中ニ講ナシテ之ヲ爲
スフ要ス有限責任社員ハ當然會社ヲ代表スガ權限ヲ有セナレドモ會員ノ支配
人ニ選任セラレ會社ヲ代表シ其業務ヲ執行スルゴトヲ得ルハ論ア堵タルト
社員ノ權限及ビ其制限ニ付スハ合名會社ノ規定ヲ準用スベキア開外茲ニ更ニ
費言セ太

第二章 社員の責任

無限責任社員へ合名會社会員と同様無會社の債務を付帯無限の責任を負ふるに反し有限責任社員へ會社の債務を付ける何等の責任を有せし唯此社員は自己の無限責任社員ナリト信セシムヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ審意ノ第三者ニ對シの無限責任社員ト同一の責任ヲ負フ然ドモ其行爲ヲ爲シタル以前久會社の債務ニ對シ責任ヲ負フコトナシ第一一六條^第へ其社員マサ外委請業者又は合資會社の債務を負ふる旨の契約を締結する事無く此の債務を負ふる者合資會社ノ社員へ有限責任社員ナリト無限責任社員ナリト問ハス第六十九條及ヒ第六十九條ノ規定ニ依ルニ非ナレハ自由ニ退社スルコトヲ得ス有限責任社員ノ退社ニ關シテハ特別の規定取次く無限責任社員カ死亡セルトキハ其相続人之ニ代リテ社員ト爲ルコト及び有限責任社員ナリ禁治産ノ宣告受ケルモ之ニ因リテ退社セラルコト是ナリ換言スレハ死亡及ヒ禁治産ハ有限責任社員ノ退社原因ト爲ラナルコト是ナリ蓋シ有限責任社員ハ無限責任社員ト異

第四章 退社セラル時

ナリ單ニ出資ヲ爲シ利益の配當ヲ受タルニ止マリ會社の業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スバコトヲ得ナビモノニシテ内部の關係ヨリ見ルモ將外外部の關係ヨリ見ルモ社員其人ニ死キ又置タコトナリ苟モ出資ノ能力アガル者ハ社員ト爲ルコトヲ得ルカ故ニ死亡シタルトキ其相続人ヨシク社員タラシムノ差支ナク又禁治産ノ宣告ヲ受ク既而直ちに退社をシム所必要ナシ是レ法律カ死亡及ヒ禁治産ヲ以テ有限責任社員の退社原因ト爲ナカル所以ナリ(第一一七條)第ス

第五章 會社の解散及び清算

合資會社ハ商法第七十四條ニ規定シタル事由ニ因リテ解散スル外無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員ノ退社ニ因リテ解散ス之ヲ合資會社ニ特別ナリ解散ノ事由トス蓋シ合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ組織スル會社ナルカ故ニ無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員ノ退社スルトキハ其一要素ヲ失ヒ度ニ解散セヅルヘカラス然レトモ有限責任社員の全員が退社シタル場合ニ於テ存残社員ハ無限責任社員ノミニテ其實質ハ合名會社

ト同一ナリ此人如モ場合ニ於テ無限責任社員カ一致シテ合名會社トシテ會社ヲ繼續ゼンコトヲ欲スルトキハ之ヲ禁スル必要ナキコト尙ホ合名會社ニ於テ存立時期ノ滿了シタルトキ社員ノ全部又ハ一部カ會社ヲ繼續セシコトヲ希望スル場合ノ如シ是ヲ以テ商法第百十八條ハ斯ル場合ニ無限責任社員リ一致ス以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ許シタリ唯此變更ハ一二回登記事項ノ變更ニ非シテ會社ノ組織ヲ變更スルモノナルカ故ニ合名會社ノ場合ノ如ク變更登記ヲ爲スヲ以テ足レリトセス是ヲ以テ商法第百十八條第二項ハ前段ノ場合ニ於テハ二週間にニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合資會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合名會社ニ付テハ第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲コトヲ要スト規定セリ二週間に期間ハ會社ヲ繼續スベキ決議ヲ爲シタルトキヨリ起算ス會社ハ此規定ニ従ヒ合資會社ニ付テ解散ノ登記ヲ爲スト雖モ是レ唯登記ノ整理ヲ爲スニ遇キシシテ其實解散シタルモニ非ス隨テ普通解散ノ場合ニ於ケルカ如ク清算手續ヲ開始スルコトナク前會社ト後會社ハ法律上全ク同一體ニシテ其間ニ權利義務ハ移轉アルコトナシ

合資會社ノ清算ニ付テ之特別ヲ規定サキテ以テ合名會社ノ清算ニ關スル規定ヲ舉用セラルル是乃各該社員之總額を當て其有スル所ノ株式ノ金額又限度トシテ
總目 第三編 自株式會社

第一章 株式會社ノ意義

株式會社ハ資本ヲ株式ニ分割シ社員ハ其有スル所ノ株式ノ金額又限度トシテ責任ヲ負擔シル會社ナシ今迄株式會社ハ特別大ノ事項ヲ擧ケテ説明スヘシ
第一節 株式會社ノ社員及之權利

第一款 株式會社ノ社員及之權利

第一款 第一項 資本ヲ株式ニ分割シ社員ハ其有スル所ノ株式ノ金額又限度トシテ

第二款 資本ヲ定メ株式ヲ分割シテ之ヲ又株式ノ何れノ力アルカハ後ニ論述其概要

第三款 合名會社存續ノ要件を爲テ然ルセシアレシモ我商法ニ於テハ之ヲ會社設立及ヒ存續ノ要件と爲シタル事務及財產及其經營方法等々を定メ

第四款 第二項 資本ヲ定メ株式ヲ分割シテ之ヲ又株式ノ何れノ力アルカハ後ニ論述其概要

成ふ者モ又ニ少額金額ヲ以て之ヲ表形セリ即チ會社ノ資本ヲ分割スル一事
単位ナリ株式ヲ有せん者を株主ト謂フ株主カ會社ニ對シテ有スル權利義務
少額開き皆株式ヲ標準トシテ之ヲ定ム株式會社ノ社員タル者ハ少クトモ一
箇ノ株式ヲ有セサル者カラス社員ハ株式ヲ有スルニ因リテ會社ニ干與スル
モノナリ社員ハ是れ運営に關する事務會議に對立、要摺り等又ニ出立シテ會社

第三三株主ハ總テ有限ノ責任ヲ負擔スル株主ノ責任カ有限ナリト謂フハ二ヲ
當ノ意義ヲ有ス之ヲ合資會社ノ有限責任社員ノ有限責任ニ對照シテ觀照スル
實モキハ會社ノ債務ニ付シ何等の責任ヲ有セサルコトナリ然レトモ株主ハ此
外地如何ナル場合ニ於テテ其引受又ニ譲受タタル株式ノ金額ヲ超エテ出資ア
為スノ義務ナシ是レ商法第百四十四條第一項ノ規定スル所ニシテ株主ノ有
限責任ハ此點ニ於テ他ノ會社ノ社員ノ責任ト大ニ異ナレフ

第四、株主之自由ニ株式ヲ譲渡スルコトヲ得ルヲ原則トス 合名會社及ヒ合
資會社ニ於テ社員另其持分ヲ譲渡スニハ他ノ社員ノ同意ヲ必要トスレドモ
合株式會社ニ在リ財ハ此種加き變更ナシ是ハ株式會社也純然タル資本團體也
會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト爲スコトヲ

、(本)社員個人的信用ヲ重視す可當然又結果ナリ。

我商法ニ於テ株式會社歟他之種類之會社ト異其ル要點ハ以上列舉スル所ニ止
マシテモ外國之法律ヨリ久松此他重要ナル區別アリ即チ獨逸ノ商法ニ於テハ
株式會社ハ商業ヲ目的トス所然トテ必要トセシジテ苟モ株式組織ノ團體ハ總
テ之ヲ株式會社トス我舊商法モ之ト同様ノ規定ヲ爲シタリ乎新商法ニ規定有
ル株式會社ハ必ス商業ヲ營み特ト某目的ヲ爲ナシルヘカラス何れナレハ株式
會社ハ商法第四十工條ニ規定有ル會社ノ一種ナレハナリ唯民法第355條ニ
ハ營利ノ目的トスル會社法人ハ會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト爲スコトヲ
得且其法人然レ總之會社ニ關スル規定ヲ單用スヘキコトヲ定メタリ故ニ營利
ノ目的トスル民事會社ニシテ株式組織ニ依ルモ人ニハ釐テ株式會社ニ關スル
商法之規定ヲ單用スベキモノナリ且モ其會社ハ決シナ株式會社ニ非ヌ無營利
以上述スル如其外國式會社ヘ總然外所資本團體ニシテ合株主即其有スル株式
之金額ヲ限度トシテ又賣保ヲ負ヒ即何大所蓄合司於テ若其金額太甚ニテ損失大
受失ハコト有れば是ハ該株式會社ニハ二タノ危險アリ一ハ株主ニ對スルモノ

第一ノアーベ會社ノ債權者林義方様の力ヲ、請願て此一ノ株主ニ總大會
道成才爲ス株主多數大株主ヲ有スル會社ニ在野アヘ株主ハ取締役及ヒ監査役
商事萬事ヲ一任以自ラ株主タル權利ヲ行使セテ所弊害不支是ヲ以テ取締役又
マ同監査役ハ株主ノ無智ナルニ乘シ巧ニ不正ノ利益ヲ貪リ株主ノ利益ヲ蒙食
掛スルノ危險ヲ生ス會社ニ開拓ニ謀安々唯限スヘキニ付セテ當ニ之等
第二回 凡ソ人財産ヲ失セタルトモ公私事業ヲ精勤シ損失ヲ同償センコレテ
會力ム所セノナレトモ株式會社ニ在リテハ株主ノ利害關係甚タ重要ナラカニ
カガ爲ス會社カ大カル損失ヲ被リ事業ハ衰弱ヲ來シタルトキニ當ナクハ株主
七八社連携同方案ヲ講ス所ヨリモ零可通ニ株式ヲ他人ニ譲渡シ自己一身ノ損
失ヲ少カナシメ更ニ他人會社ノ株主轉爲ランヒスムハ普通ハ狀態ナリ是ニ
ハ會社債權者ノ最寄連携ノ危險ナリ要大ハ國限テリ且モ財政の消長ニ關セ
夫レ此ノ如ク株式會社ニミニオノ危险アル故ニ法律ハ株主及ヒ會社債權者
ノ利益ヲ保護スガカ爲ノ種種ノ取締規定屢々ケタリ

大正元ノ
第二章 商株式會社ノ設立

大正元ノ
商株式會社ノ設立ノ事例

大正元ノ
第一節 總論

大正元ノ
其後

公示主義是ナリ第一ノ立法主義ハ立法上ノ行爲ヲ以テ株式會社ヲ設立スルノ
ニシテ第十七世紀第十八世紀ニ於テ廣く行ハレタレトモ今日此主義ヲ採用
スルモノナシ第二ノ主義ハ會社ノ設立ニ政府ノ免許ヲ要スルモノニシテ我當
商法ハ此主義ヲ採用ス第三ノ主義ハ會社ノ設立ニ關シ一定ノ法則ヲ定メラフ
遵守シルトキハ自由ニ會社ヲ設立スルコトヲ得ルセシム新商法ハ此主義
ヲ採用セリ第四ノ主義ハ會社ノ設立ニ付テ一定ノ法定事項ヲ公示セシムノ
他ニシテ其他ハ一切人ノ自由ニ任ス時大ニ株式會社ヲ勃興スルニ當ラ堵積
ノ弊害湧出セシテ以テ之ヲ取締ルカ爲テ各國皆免許主義ヲ採用シタル事後
其有害無益ナルコトヲ覺知シバニ至リ者之ヲ廢止至今猶も之開存セドハ獨
ニ堪太利和開羅馬尼亞ソ三國アガノ免許主義ノ採用不セカラタガ理由開主

要ナルモノノフ事ヲレバ(イ)設立ニ付キ是斯ラ必要ト思ヒキニシム之を付所種種立
ニ此等ノ繁雜ナル手續ノ爲メノ或ハ商業上ノ機會ヲ失ヒ始ニ有圖ナリシ會社ヲ
終ニ設立スルコト能ハサルニ至ガ(カ)會社ノ目的ニ本種種アリヲ其事業カ渠シ
テ成教スルヤ否ナハ政府ノ官吏ト難モ其判断ヲ誤セシムトサキヲ保セス而シ
テ一タヒ其判断ヲ誤マルトキ不或ハ有益ナル會社ヲ設立ヲ妨シ或ハ發起人ヲ
シテ免許ヲ口實下シテ世人ヲ瞞著スルノ機会ヲ得セシム是レ舊商法カ現今多
數ノ立法例ニ依ヒ免許主義ヲ廢シ單則主義ヲ採用シタク所以ナリ左ニ株式會
社ノ設立ニ付テ遵守スベキ手續ヲ說明スヘシ
株式會社ノ設立ニハ二ツノ方法アリ一チ發起人カ株式ノ認定並引受タ之ニ開
ラフ會社成立スルモノ之ヲ同時設立ト謂フ
シテ發起人及株式ノ認定並引受タ
シテ其引受ケタル株式ニ付キ株主ヲ募集シ之ニ因リテ會社成立スルモノ之
ヲ漸次設立ト稱ス其何レノ方法ニ依ルヲ問ハス株式會社ノ設立ニハ先づ・發起
ナカルヘカラス舊商法ハ發起ト設立トヲ區別シタレトモ新商法ハ發起ヲ以テ

設立ノ第一著手段トセリ發起ナハ會社カ成立スルニ至ルマテ準備行為ヲ開
フ發起ノ任ニ當リ會社ノ設立ヲ以テ職務トスル者ヲ發起人ト謂フ株式會社ヲ
設立スルニハ七人以上ノ發起人アルコトヲ要ス法律カ發起人ノ最少數ヲ定メ
タル所以ノモノハ會社ノ起業設計ニ熟議ヲ達ケ輕舉暴動ノ結果甚大ヲ誤マル
コトヲ豫防シ且世人ノ信用ヲ博シ以テ會社ノ設立ヲ容易ナラシメンカ爲メナ
(リ第一一九條)

發起人ハ定款ヲ作り之ニ重要事項ヲ記載シ署名セサグヘ後ヲス定款ヲ記載ス
ヘキ事項ニ絕對的的事項ヨ相對的的事項トアリ絕對的的事項ニ必ス定款ニ記載スル
コトヲ要シ之ヲ記載セナリシトキハ定款ハ效力ヲ有セス之ニ反シ相對的的事項
ハ必スシニ定款ニ記載スルコトヲ要スルモノニ非ス唯之ヲ記載スルトキハ定
款トシテノ效力ヲ生ス絕對的的事項ハ商法第百二十條ニ掲ケタリ即チ左ノ如シ

- 一 目的
- 二 商號
- 三 資本ノ額額

四 一株ノ金額
五 取締役カ有スヘキ株式ノ數
六 本店及ヒ支店ノ所在地
七 會社ノ公報ヲ爲ス方法
八 発起人カ以上ソ事項中其一ヲ定款ニ記載セナリシトキハ定款ノ無效性ノア
九 依リテ會社成立スルコトナシト雖モ第五乃至第七又事項ハ比較的 importance ナル
十 項ニ非ナルヲ以テ發起人之ヲ定款ニ記載セナルモ之カ爲シ當然定款ヲ無效
トスルコトナク法律ハ創立總會又ハ株主總會ニ於テ之ヲ補足スルコトヲ許シ
タリ此創立總會又ハ株主總會才決議ハ定款ノ變更ニ要スル時同一ノ方法ニ從
フコトヲ要ス(第一二二條第十三條第二項同時設立ノ場合ニハ株主總會ニ於
テ補足シ漸次設立リ場合ニハ創立總會ニ於テ補足本ノナ漢本店支店就
ニ會社カ公報ヲ爲該場合の登記ニヘキ絕對的事項ニニ該ルカ故ニ此ニカ事
項ハ登記申請前ニ於テ補足該ルコトハ要ス此等ノ手續ニ依リ補足ヲ爲シナリ

セチモモニ定款ベ無效シハ會社設立セス(第一二〇條第一二一條)
定款ニ記載スル相對的事項ナ第百二十二條總括知悉ル時左ノ如シ^イ然リイ
ハ補足存立時期又ハ解散ノ事由ハ金錢以外ノ價額又ハ財産又ハ目録
出二ノ様式ノ類而以上ノ發行既由大ニ認可及後又ハ前此ノ類似
圖三並發起人カ受クヘキ特別利益及ヒ之ヲ受クキ者ノ氏名、其財產ノ種類價格及
ナイ金錢以外ノ財產ノ以出資目的ト爲ス者ノ氏名、其財產ノ種類價格及
若ヒ之ニ對外與スル株式ノ數額益々逐々ヘテ終入及合之至終ニ當轉ス
五 會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用及日發起人カ受クヘキ報酬ノ額
存立時期及ヒ解散ノ事由ハ必ス之ヲ定ムハ不得ト不要スルモノニ非ガルセ之ヲ
定メタルトキニ定款ニ記載セシムルノ必要アリ株式ノ額面以下ノ價額ヲ以テ
發行スルコト又許ナス第一二八條第一項株式會社ハ資本團體ニシテ會社ノ資
本ハ會社ノ事業上密接ニ關係テ有ス然而ニ株式ノ額面以下ニテ發行スルコト
ヲ許セトキ所持金ノ現實在額ハ資本ノ額額ニ滿タシシテ事業ヲ經營スル能ハ
ナリムニカラス之カ爲ス會社債權者利害害スル虞アリ之ニ反し額面以上

ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スルが前半之株式ノ總額ハ資本ノ總額ニ想過又誤トモ
其超過タル部分ハ之ヲ積立テ準備金ト爲ズコトヲ得ヘタ且會社債權者ニ對シ
之カ爲何等之危害ヲ及ぼスコトナシ故ニ株式ノ額面以上ノ發行スル之ヲ許ス
ミ弊害ナシ唯之ヲ定ヌタルトキノ定款ニ記載スルゴトヲ要ニ發起人ハ會社ノ
設立ニ付テ功勞アル者ヲ少故ニ發起人ニ特別ノ利益ヲ與ズムトヘ實際ニ於
ク廣ク行ハルノ所ナリ然レドモ之カ爲メ不當ノ利益ヲ貪リ種種ノ弊害ヲ生ス
ルエト實際ニ免レナル所ナリ是ニ以テ法律ヘ發起人ニ特別ノ利益ヲ與ヘント
欲スルトキバ其利益ノ種類及ヒ其利益ヲ受クヘキ者ノ氏名ヲ定款ニ記載スヘ
キ固トヲ命シ以テ之ヲ出生スル弊害ヲ防護スルノ方法ヲ講セリ株式會社ノ社
員ハ金錢ヲ以テ出資ノ目的ニ爲スニ普通大半下雖ゼ金錢以外ノ財產ヲ以テ
出資ノ目的ト云所異無スル外理由ナシ唯株式會社ハ株式ヲ以テ基礎トシ株主
ノ權利義務ハ株式ヲ以テ標準スルカ故ニ金錢以外ノ財產ヲ以テ出資ノ目的
ト爲ニ者ガメト外既其者又有本年年株式ノ數ヲ明カニ定ムル必要アリ然レト
モ其出資ニ對シ若過分ハ株式ヲ與ケトキバ他ノ株主ハ利益ヲ害スルノミナ

ラス資本ト其實額トノ間に差異ヲ生シ債權者ノ利益ヲ害スルニ至ル是レ法律
カ其出資ノ目的タル財產ノ種類價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ定メ定
款ニ記載スヘキコトヲ命シタル所以ナリ設立ニ要シタル費用ハ會社ヲシテ負
担セシムルコトヲ得又發起人ノ功勞ニ對シ相當ノ報酬ヲ與フルコトヲ得然レ
トモ此設立費用及ヒ報酬ヲ關シ發起人ハ不當ニ多額ノ費用又ハ報酬ヲ要求ス
ル弊害アリ故ニ報酬設立費用及ヒ報酬ヲ額ヲ定メラ之ヲ定款ニ記載セシム
テ其弊害ヲ防止カナルヘカラス以上ニ説明シタル發起人カ受クヘキ特別ノ利
益金錢以外ノ財產ヲ以テ出資ノ目的上爲ス者ノ受クヘキ株式ノ數設立費用及
ヒ發起人カ受クヘキ報酬ヲ額ヲ定款ニ記載セシムルトキハ能ク會社ノ設立ニ
伴フ弊害ヲ豫防スルコトヲ得ル所以ノモノハ株式ノ申込ヲ爲シテスル者ハ
株式申込證ニ依テ是ニ此等ノ事項ヲ知ルコトヲ得ルヲ以テ若シ其不當ナム又發
見スルトキハ申込ヲ爲シテムコトヲ得ル又既ニ申込ヲ爲シタル後ニ於テモ
創立總會ニ於テ之ヲ認可スルコトヲ得ルカ故ナリ(第二二六條第百三五條)
定款ノ作成ニ關シタ一體スヘキ事アリ合名會社及ヒ合資會社ハ定款ノ作成

ニ因リテ直ナニ成立ス然ルニ株式會社ハ定款ヲ作成スル者或其ニ成立ス所トナシ是レ如何ナル理由ニ依ルモノナルカ惟フニ合名會社及ヒ合資會社ニ在リテハ會社ノ存立ニ必要ナル條件即チ會社ノ目的商號、社員メ氏名併所營業所、社員ノ出資ハ定款ニ依リテハ定シ他ニ之ニ加フヘキ事ノナシ是ニ此二會社カ定款ノ作成ニ因リテ直ナニ成立スル所以ナリ之ニ反シ株式會社ニ在リテハ定款ヲ作成スルソミニテハ末タ會社ノ存立要件完備セス何ツヤ社員ノ一定セラルコト是ナリ會社ハ社團ナルカ故ニ其成立ニハ社員ノ確定スルヨリヲ要ス株式會社ノ社員ハ株式ノ引受ニ依リテ定マル是レ株式會社カ定款作成ノ外株式ノ引受ヲ要スル所以ナリ漸次設立ノ場合ニ於テ此二要件ノ外ニ尚ホ創立總會ノ決議ヲ必要トスルハ發起人ノ行爲ヲ監督シ且會社ノ基礎ヲ堅固スル實際上ノ理由ニ出フルセリニシテ其決議ハ迴論上株式會社ノ成立ニ必要ナル事ノニ非外國大ヘモヨリヤ論ニシテ國見セモ體立ニ要ク之を嘗て既に會社設立セラム其出資ハ

第二節 同時設立

モニ資本ノ其實體イヘ開ニ茲異々坐々財源皆ハ陳述セバシ並ハ量ハ特措
株式會社ハ多額ノ資本ヲ有レ其社員モ亦多數ガルヲ普通トス體ヲ發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケ發起人ノミニテ會社ヲ組織スルコトハ多ク見サル所ナレトモ發起人ノ數多ク且資產ニ富ムトキハ他人ノ力ヲ藉メコトヲ要セシシテ自ラ株式ノ總數ヲ引受ケ會社ヲ組織スルコトアリ斯ル場合ニ其株式ノ引受ト同時ニ會社ヲシテ成立セシムルコト至當ナリ舊商法ハ明カニ此同時設立ヲ認メナリシト雖モ新商法ハ第百二十三條ニ於テ明カニ之ヲ認メタリ此場合ニ會社外部ニ對シ其設立ヲ主張シ得ルニ至ルマテニ爲スヘキ手續左ノ如シテ
第一、株式總數ノ引受ハ其額を算出せしめセシムル者ニ其額を算出せしめ
第二、取締役及ヒ監查役ノ選任立ニヘ開會並ニ其額を算出せしめセシム
第三、株金ノ拂込、契約書立、契約書立、契約書立、契約書立、契約書立、
第四、検査役ノ選任及ヒ其報告ハ其額を算出せしめセシムル者ニ其額を算出せしめ
第五、登記、契約書立、契約書立、契約書立、契約書立、契約書立、契約書立、契約書立、
第一、株式總數ノ引受、其額を算出せしめセシムル者ニ其額を算出せしめ
株式會社ノ株主ト爲ラントスル者ノ所持玉因テテ成立ス株式ノ

引受ヲ目的トスル行爲ハ將來成立セントスル會社ノ株主ト爲ルモトヲ羅輯トスル意思表示ニシテ一ノ法律行爲ナリ何トナレハ株式ヲ引受ケタル者ハ會社ノ設立ニ關シ種種ノ權利義務ヲ有シ會社成立シタルトキハ其株主ト爲ルコトヲ得ルカ故ナリ此行爲ハ契約ナルカ將タ單獨行爲ナルカ子輩ノ解スル所ニ依レハ株式引受行爲ハ契約ナリ爰ニハ唯同時設立ノ場合ニ於ケル株式ノ引受ニ付ノ論スヘシ抑モ株式會社ノ設立ニハ同時設立及ヒ漸次設立ノ二方法アリテ二者ノ相違ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受クルト否トニ因リテ生ス發起人カ株式ノ總數ヲ引受タルニ當リテハ各發起人ノ引受タル株式ノ數ニ付テモ亦發起人相互間ニ合意アルコトヲ要ス然ラサレハ株式總數ノ引受才ノ所モノ成立セサルヘシ故ニ各發起人ノ株式ノ引受ハ發起人相互間ニ契約モ因リ未成立シ其引受行爲ハ一ノ契約ナリ

發起人ノ株式引受行爲ハ法律上何等ノ方式ヲ要セズ故ニ書面又以テスルモ又口頭ヲ以テスルモ可ナリ漸次設立の場合ニ於ケル株式申込人又株式申込設立依リテ株式ノ申込ヲ爲ストハ大ニ異ナリ又發起人カ株式ヲ引受ル時期キ

付テモ制限ナシ故ニ定款ノ作成ト同時ニ之ヲ爲スモ將タ其以後ニ之ヲ爲スモ可ナリ

同時設立ノ場合ニ於ケル株式引受ノ效力ハ之ヲ全體ノ上ヨリ觀ルトキハ會社ヲ成立セシメ之ヲ各個ノ株式引受ニ付テ觀ルトキハ引受人ヲシテ株主タル資格ヲ取得セシム

第二 取締役及ヒ監査役ノ選任
發起人ハ會社ノ設立ニ必要ナル準備行為ヲ爲スモノニシテ會社ノ業務ヲ執行スルモノニ非ス故ニ一旦會社成立スル以上ハ會社ノ爲メ業務ヲ執行スル者ヲ選任セナルヘカラス是レ法律カ發起人ヲシテ取締役及ヒ監査役ノ選任ヲ爲テシムル所以ナリ其選任ハ發起人ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス爰ニ發起人ノ議決權ノ過半數ト言フハ發起人ニシテ會社ノ成立ミ因リ株主ト爲リタル者ノ議決權ノ過半數ト解釋スルヲ正當トス此取締役及ヒ監査役ハ發起人即チ株主中ヨリ選任セラルベキモノナリ商法第百六十四條、第百六十五條、第百六十六條、第百八十九條及ヒ第百八十九條ハ此場合ニ適用セラル唯茲ニ注意スヘキコト

ハ商法第百六十四條、第百六十一條第一項ニ依レハ株主總會ニ之取締役ヲ選任スルニハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スヘキモノナレドモ第百二十三條ノ場合ニ取締役ヲ選任スルニハ株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ株主ノ出席シタルト否トヲ問ハナルコト是ナリ。而て起業者ノ意旨より外當第三 第一回ノ株金ノ拂込二人、其對照人、其半額を以テ其本氣ナシ認可人發起人ハ總株式ノ引受ニ因リテ會社成立シタルトキ退滞力タ株金ノ四分之一フ下ラナル第一回ノ拂込ヲ爲スコトヲ要ス株金ノ全額ヲ一時ニ拂込ムコトハ固コリ自由ニシテ其場合ニ於テハ株金ヲ二十圓マテニ下スコトヲ得然ビトモ數同ニ分チ株金ヲ拂込ムコト普通ニ行ハル而シテ第一回ニ拂込ムヘキ金額モ亦自由ニ定ムルコトヲ得レトモ其額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス其理由ハ之ニ依リ會社ヲシテ營業ナシ著手各ル資金ヲ得ヒテ且將來ニ於ケル株金ノ拂込ヲ確實ナラシメントスルニ在リ第一二三三條拂込ハ何人ニ對シテ爲スベキモノナルカ會社ハ株式總數ノ引受ニ因リテ成立シ發起人ハ其任務ヲ終了シタルモノニシテ當然會社ノ業務ヲ執行シタルト能ヤセ者ナルカ故ニ此拂

述べ發起人ニ對シテ爲スベキモノニ非サルコト論ヲ俟タス會社ノ業務ヲ執行スル者ハ取締役ナリ故ニ此拂込モ亦取締役ニ對シテ爲テルニ斯ニナリ所謂ハナドヘカラス株主ト爲リタル者カ拂込ヲ怠リタルトキ取締役ハ訴ノ方法ニ依リ強制履行ヲ爲ナシムルコトヲ得ルハ論ヲ俟タス其他商法第百五十二條第百五十三條ノ規定ニ從ヒ拂込ヲ爲ナシムルコトヲ得ヘシ者一二三四五第六二二第四條 檢查役ノ選任及ヒ其報告文書ハ會社員又ハ東證券交換委員會取締役ハ其選任後遅滞ナタ第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項及第一回ノ拂込ヲ爲シタルケ否ガヲ調査セシムルカ爲ミニ検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス裁判所ハ検査役ノ報告ヲ聽キ此等ノ事項ヲ不當ト認メタルトキハ第百三十五條ニ準シ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得是レ第百二十二條ノ規定スル所ナリ夫レ發起人カ會社ノ設立ニ際シ不正ノ利益ヲ貪ル弊害アルコトハ前述セルカ如シ法津ハ此弊害ヲ矯正スルカ爲タ第百二十二條ノ規定ヲ爲シ且創立總會ニ關スル規定ヲ爲シタリト雖モ創立總會ハ漸次設立ニ付テノミ存在シ同時設立ニハ創立總會ナルモノナキカ故ニ他ニ適當ノ監督方法

ヲ設ケナガトキハ發起ニ伴ヒテ生スル弊害ヲ杜絕スガコト能ハス是ニ於テカ
法律ニ取締役ニ命ニシテ監査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ以テシタリ裁判
所ニ與フルニ検査役ノ報告ヲ聽キ相當ノ處分ヲ爲スヘキ職權ヲ以テシタリ檢
査役ノ選任ハ本店所在地ノ區裁判所之ヲ管轄ス裁判所ハ監査役ヲ訊問スルコトヲ發起人以外ノ
者ニ付ケ検査役ヲ選任スルヲ不得ノミカラス検査ノ目的ヲ述スル日ハ發
起人以外ノ者ヲ選任スルヲ相當トス検査役ハ書面ヲ以テ報告ヲ爲シ検査ヲ付
テ説明ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ検査役ヲ訊問スルコトヲ得裁判所カ相當
ノ處分ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ爲スニトモ要シ其決定ヲ爲ス前
取締役及ヒ發起人ノ陳述ヲ聽カサルヘカラス發起人又ハ取締役カ検査役ノ檢
査ヲ妨ケタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラム(第一一二四條第二六二
條第三款非開業件手續法第一二六條乃至第一二九條)但商賈稅一百五十二圓
第五 登記(大同主子公事ノ登記)其登記ノ事項ハ商號、本店及
検査役カ調查力終了シタリトモハ會社ハ其終了ノ日より二週間内ニ其本店及
支店ノ所在處ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス其登記スベキ事項ハ第百
五八株式ノ譲渡ヲ爲スヨトア得(第一四九條)

四十一條ニ規定セタル第五十一條第二項第三項第五十二條及ヒ第五十三條ノ
規定ハ株式會社ニ準用セラム株式會社ノ設立ノ登記ハ左ノ效果ヲ生ス
大同第三款ニ齊シテ會社ノ設立ヲ對抗スルコトヲ得(第四五條)
第二節開業ノ準備ニ著手スルコトア得(第四六條)
第三条登記後六箇月内ニ開業セサルヘカラス(第六七條)
第四株券ノ發行ヲ爲スヨトア得第一四七條(齊木翁友ヘ申基之義
第五八株式ノ譲渡ヲ爲スヨトア得(第一四九條)

第三節 漸次設立

發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケタムトキハ其引受ナキ株式ニ付キ株主ノ募集ス
ルコトヲ要ス發起人ハ株式ノ總數ヲ引受クル義務ナキモ少クトモ一株ノ引受
ヲ爲ス義務アルネト明カナリ舊商法ハ株主ノ募集スルニ付キ目論見書ヲ公告
シ假定款ヲ展開セシメ以テ應募者ヲシテ會社ノ内容ヲ知ラシム度コトニ命シ
タレドモ新商法ハ此點ニ關シ何等ノ規定ヲ爲スナルカ故ニ發起人ハ適當未開

スル所ノ方法ニ依テ株主裏集タル事項ヲ得漸次設立並於公會社カ第三者版
對シテ其設立並主張及シ願望得ルニ至ル時テ商號又其手續左ノ如シ
第一 株主ノ募集モ由リナリ而商號へ對主モ募集ニ付ニ骨子目論異議未
ハニイ株金ノ第二回ノ拂込、過誤又假文、又疏忽等モ一概ノ假受
第二 創立總會ノ招集及ビ其議決、イチヘ其印文ナキ對主ニ付ナリ對主モ對
第三 創立總會ノ招集及ビ其議決、イチヘ其印文ナキ對主ニ付ナリ對主モ對
第四 登記

第一 株主ノ募集

清大體立

發起人カ爲ス所ノ株式ノ引受ニ付カハ前節ニ説明シタル所ヲ參照セハ明カナ
ヲ發起人ノ募集ニ應シテ株主ト爲ラン別欲焉ル者ハ株式ノ申込ヲ爲ナルヘ
カテス此株式ノ申込ハ必ス書面ヲ以テスルコトア要ス其書面ヲ株式申込證ト
稱ユ商法第百二十六條ニ規定ニ依ルトギハ株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株
式申込證ニ通ニ其引受者キ株式ノ數ヲ記載シ且額面以上ノ價格ヲ以テ株式
ヲ發行スル場合ニシテ其引受價格ヲ記載シ之並署名シナリヘタヨス株式申込證
ハ發起人之ヲ作リ左ノ事項ヲ記載スニ再第ニ再第正二類又ニ第五十三類ハ

一 定款作成ノ年月日由ニ申込ノ株式の額額ニシテ要件ヘ之ニ照て直述述
二 申込百二十條及ヒ第百二十二條ニ掲ケタル事項
三 各發起人ヲ引受クタル株式ノ數ヲ署名相手等を標記人ヘ標記表人
四 第一回拂込ノ金額、一ノ先徴支申請書及期日拂込額及ハ其申込ノ便用
株式ノ申込ニ付キ株式申込證ヲ必要トシタル立法上ノ理由ヲ案スビニ發起人
カ會社ノ設立ニ際シ種種ノ不當ナル利益ヲ食ル弊害アルコトハ屢々陳ニタル
所ニシテ發起人ノ虛偽ノ陳述ヲ信シ其弊害ニ應シ株式ノ申込ヲ爲ス者少カラ
ス此弊害ヲ防キ株式申込人ノ利益ヲ保護スルニヤハ商法ノ如ク目論見書又公
告シ定款ヲ展開セシムルヲ以テ足レントセス株式申込人ラシテ一定ノ書面ニ
依リ申込ヲ爲シシテ其書面ニ會社ノ設立干關スル重要ナル事項ヲ記載セシム
アトキハ會社ノ内容ヲ知ラヌシテ株式ノ申込ヲ爲ス者方キニ至リ能ク立法人
精神ヲ達スルコトヲ得レ新商法カ獨逸商法ノ主義ニ倣ヒ株式申込書ノ制度
ヲ採用シタル所以ナリ第一二五條第一二六條會員ノ署名セシムル始立發起人
株式申込人ノ株式申込證ニ通ヲ以テ申込ヲ爲ス者カ是等ハ通ナリ申込書

爲シタルトキノ其效力如何予觀ハ法文ヲ解釋上其申込ハ無效ナリト信ス法律
カニ通フ要スト定メタル理由ハ惟フニ一通ハ會社ニ保存シ一通ハ設立登記フ
申請スルニ當リ申請書ニ添附スル必要ナルが故ナルヘシ(非證事件手續法第一
八七條發起人ハ株式申込證ヲ作ラヌ又ハ之ニ記載スルキ事項ヲ記載セヌ又ハ
不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ五圓以上五百圓以下ヲ過科ニ處セラル(第二六一
條第六號) 契約ヲノム風見通シ風見通シモイカシテ朋友申込人モシモ一室ノ書面

株式ヲ引受ケントスル者ハ株式申込ハ如何ナル性質ヲ有スル意思表示ナルか
是レ頗ル議論アル問題ナリ予望ノ解スル所ニ依レハ株式ノ申込ハ時トシテハ
契約ノ要素タル申込タルコトアリ又承諾ナルコトアリ最モ多クノ場合ニ於テ
ハ發起人カ株主ヲ募集スルカ爲メニ爲ス所ノ行爲ハ申込ノ誘引ニシラ株式申
込證ヲ以テスル意思表示ハ一ノ契約ノ申込ナリ故ニ發起人カ其申込ニ對シ承
諾ヲ爲スニ非ナレハ契約ハ成立セス然レトモ時トシテ發起人ハ或特定ノ人ニ
對シ株式ヲ引受ヲ爲シントラ申込ニコトナリ斯ル場合ニ於テハ株式申込人
ノ意思表示ハ此發起人ノ申込ニ對スル承諾ニシテ契約ハ之ニ依リテ直ニ成

立スルコトヲ得要スルニ株式申込證ヲ以テスル意思表示ハ常ニ契約ノ申込ナ
リト謂フヲ得ス株式申込人ノ意思表示ハ發起人ニ對スルモノナルト前段ノ
説明ニ依リテ明カナリ故ニ株式ノ引受ニ關スル契約ハ發起人ト株式申込人ト
ノ間ニ成立シ其時期ハ一方ノ申込ニ對スル他方ノ承諾アリタル時モ在リ然ル
ニ學者或ハ其成立時期ヲ以テ設立總會終結ノ時ニ在リト爲ス若アレトモ予輩
ハ株式ノ引受カ確定シ然ル後創立總會ヲ招集スベキモトト信ス此契約ヨリ生
スル效果左ノ如シ

一 株式引受人ハ發起人ニ對シ第一回ノ拂込ヲ爲スベキ義務又負フ選舉權
二 發起人ハ株式引受人ニ對シ會社ノ設立ニ必要ナル手續ヲ爲スベキ義務
ア 負フ

株式ノ引受ハ將ニ成立セントスル會社ノ株式ヲ取得シ其株主ト爲ルコトヲ目
的トスル意思表示ナルコトハ既ニ前節ニ説明シタル所ナリ故ニ株式引受人カ
前ニ述ヘタル契約ニ依リテ發起人ニ對シア負フ所ノ義務ハ一ノ解除條件附載
務ナリ即チ會社カ成立スルニ至ラスシテ止ミタルトキハ當然解除セラル

株式ノ引受ハ一ノ契約ナリ故ニ民法ノ原則ニ從ヒ或ハ當然無能力ノコトアル
ヘタ或ハ又取消ナルコトアルヘシ然レトモ株式引受人カ詐欺又ハ強迫ヲ原
因トシテ株式ノ申込ヲ取消スコトハ會社ノ設立登記ヲ爲シタル以後ニ於テ之
ヲ爲スコトヲ得ス第一四二條蓋シ株式引受カ確定シテガリ設立登記ヲ爲ス即
至ルマテハ多クノ日月アリテ詐欺又ハ強迫ニ因リ株式ヲ引受ケタル者ハ其間
ニ優ニ申込ノ取消ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス登記ニ依サク會社ノ成立要件
部ニ發表シタル後或者ガ株式ノ申込ヲ取消シタルカ爲メ會社ノ設立ニ影響ヲ
及ホシシムルコトハ實際上甚タ不便ナリ是レ商法第百四十二條カ特別ノ規定
ヲ爲シタル所以ナリ詐欺又ハ強迫ニ非サル他ノ原因ニ因リテ株式ノ申込ヲ取
消シ得ルハ論ヲ俟タス

株式ノ申込ニ關シ商法第百四十條ハ二箇ノ特別ナリ規定ヲ爲セリ即チ株式申
込人ハ左ノ二場合ニ於テ申込ヲ取消シ拂退ミタ成金額ヲ追還テ請求スルコ
トヲ得

立二株式總數ノ引受アリタル後一年内ニ第百二十九條ノ拂退將來ナルにキ

出二人其拂退カ終リタル後六箇月内併發起人カ創立會社ヲ招集セナルトキ
抑ニ株式ノ申込ヲ爲ス者大資本ヲ會社事業ニ投注シ其利殖ヲ圖ラントスルヲ
目的トス然所ニ前記二節ノ場合ニ於テハ會社ノ成立スヘキ時期不確定ニシテ
株式ヲ引受ケタル者ハ其間空シタ資本ヲ發起人ノ手ニ委テ何等ノ利益ヲ得ル
所ナシ是レ株式引受人ノ本旨ニ非サルノミナラス長タ之ヲ拂退スルトキハ會
社ノ成立ヲ危クスルヌ虞アリ故ニ此ノ如キ場合ニ株式引受人ヲシテ株式ノ申
込ヲ取消スコトヲ許スハ一方ニ於テ株式引受人ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル
ノミナラス他方ニ於テ發起人ヲ督顧シテ設立ニ關スル事務ヲ進歩セシムルノ
利益アリ株式引受人ハ會社ノ設立ノ登記ヲ爲シタル後ニ於テ第百四十條ノ規
定ニ從ヒ其申込ヲ取消シ株金ヲ返還テ請求スルコトヲ得ルヤ是レノ問題ナ
リ予輩ハ第百四十條ノ精神ニシテ前述ノ如シトセハ會社ハ登記後直ニ開業
ノ準備ニ着手スルコトヲ得ルカ故ニ登記後株式引受人ヲシテ申込ノ取消ヲ爲
スコトヲ得セシムル理由ナキモノト信ス

以上ハ株式ノ引受ヲシテノ契約ナリト前提シテ商法ノ規定ヲ説明シタルモノナ

チ然ルニ世上或ハ株式ノ拂込ヲ以テ一ノ單獨行爲ナリトシ各株式申込人ハ發起人ノ承諾ヲ要セシム其引受タヘキ株式ノ數ニ應シ株金ノ拂込ヲ爲ス義務アリト論スル者アレトモ予輩ハ此說ニ贊成スル能ハス株式申込人ハ其引受タヘキ株式ノ數ニ應シ拂込ヲ爲ス義務アリト雖モ其株式ノ數ハ如何ニシテ定メルカ各株式申込人ハ株式申込證ニ其引受タヘキ株式ノ數ヲ記載スト雖モ其記載セラレタル株式ノ總數ハ必スシモ定款ニ定ムル所ノ株式ノ總數ニ該當スモノニ非ス故ニ株式ノ引受カ確定スルハ發起人カ各株式申込人ノ有スヘキ株式ノ數ヲ定メタルトキニ在リテ株式申込人ハ其定マリタル株式ノ數ニ應シテ拂込ヲ爲スヘキモナリト謂ハツルヘカラス是レ予輩カ株式ノ引受ハ株式申込人ト發起人トノ間ノ契約ニシテ株式ノ申込ノミニ因リ法律上ノ效果ヲ生スルモノニ非スト論スル所以ナリ資本を發行人へ老練を以て同様の運営を期す者等の間で行うる株式の譲り受けの取扱いを指す。合併による新規の株式の発行や、分割による株式の分割等も拂込と呼ばれる場合がある。

第二 第一同ノ株金ノ拂込

株主ノ募集其数ヲ定シ株式總數ノ引受アリタルトキハ發起人外退済ナク株式申込人ヲシテ各株式ニ付キ第一回ノ拂込ヲ爲シムルコトヲ要スハ第一回ノ拂込

込ノ金額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ルニトフ得ス其拂込ヲ爲ナシタル理由ハ同時設立ニ付テ説明シタルト同一ナルカ故ニ更ニ費キス若シ額而以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額而ヲ起ニスル金額ハ第一回ノ拂込ト同時ニ拂込マジムルコトヲ要ス株式引受人カ第一回ノ拂込ヲ爲ナシタルトキハ發起人ハ二週間ヲ下ラナル期間ヲ定メ其期間内ニ拂込ヲ爲ス旨旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ナシタルトキハ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ株式引受人ニ通知スルコトヲ得株式引受人カ此通知ヲ受ケタルニ拘ハラス尙ホ拂込ヲ爲ナシタルトキハ其權利ヲ失フ之ニ因リテ發起人ニ損害ヲ被シタルトキハ賠償ノ責任アリ株式引受人カ拂込ヲ爲ナシタル爲メ其權利ヲ失ヒタル場合ニハ發起人ハ其者カ引受タタル株式ニ付キ而ニ株主ノ募集スルニトフ得然レトモ發起人ハ第百三十條ノ規定ニ依リ株式引受人ニ拂込ヲ強制エルコトヲ屢スルモノニ非スシテ或ハ群ノ方法ニ依リ之ヲ強制シ或ハ自ラ其株金ノ拂込ヲ爲シ又ハ株式引受人ヲ失ヒタル株式ヲ自ラ引受タルコトヲ得第一二八條第一二九條第一三〇條第一三六條第百二十九條及ヒ第百三十條ノ規定ハ株式引受人ニ關スルモノナリ然レトモ株式

引受人ノミカ第一回ノ拂込ヲ為シ發起人ハ其拂込ヲ為ナルモ可ナリトノ理由ナキカ故ニ發起人モ亦第百三十九條ノ規定ニ從ヒ第二回ノ拂込ヲ為スル時ノ外ナシ前シテ發起人中成者カ拂込ヲ恐リタルト等他ノ發起人ハ第百三十條ノ規定ニ從ヒ之ヲ強制スルニ才ヲ得ル事守望へ第百三十條ノ文同ニ數シ向後ハ株式引受人ノ拂込ヲ強制スル規定ミシテ發起人ハ適用ナキ若ノト信ス故ニ此場合ニハ訴ノ方法ニ依リテ強制リ若ク六他ノ發起人カ之ニ代リテ自タ拂込ヲ為スノ外ナシ前序ト夫々ハサシム事左は交入ニ顧みハセリト併解次第第一回ノ拂込ノ金額ハ何時會社ヲ財産ニ歸ス第カ此點ニ付ラセ何等ノ明文ナシ財團法人ニ關シナム民法第四十一條固規定アレドモ會社ハ社團法人ナルカ故ニ此規定ヲ以テ解釋スルヲ特許手續云株式引受人ノ發票トシテ株式引受人ハ發起人ニ對シ第三回ノ拂込ヲ為ス森格ヲ異フコトヲ明シタリ故ニ發起人ハ其權利ドシテ株式引受人ニ對シ第三回ノ拂込ヲ為ゲシムルコトヲ得然シテ

發起人ハ唯將來成立スベキ會社ノ爲メニ金額ヲ領收ヌル權利ヲ有ス但其アリ其金額ヲ自己ノ財產ト爲スヲ得シ其金額ヲ會社ハ資本テ形態スベキモノシテ決シテ發起人自身ノ財產ヲ入資ヘキモ本ニ非ニ其法律上之位置其家督相繼ニ付キ胎兒ノ爲メニ相繼財產ヲ管理スルカ如シ其金額ハ會社カ成立スルニ至リタルトキ直ナニ會社ノ有ニ歸スルモ猶ナリト謂不アレ當ヒス事ニテ夫第三回創立總會ノ招集及ヒ其決議該件事項ニ就キ當事者會社者基盤者確立者各株ニ付キ第一回ノ拂込アリ胎兒トキハ發起人ハ過渡者久保立總會ヲ招集スルニ付キ要ス創立總會ニ關スル規定ニ據人ノ監督シ施不平有利害貪圖コトアリニト夫ス創立總會ニ關スル規定ニ據人ノ監督シ施不平有利害貪圖コトアリニト夫斯防キ會社ノ設立ニ際シテ起火ヘキ種種ハ弊害又矯正會社者基盤者確立者各株ニ付キ第一回ノ拂込アリ胎兒トキハ發起人ハ過渡者久保立總會ヲ招集スルニ付キ要ス創立總會ニ關スル規定ニ據人ノ監督シ施不平有利害貪圖コトアリニト夫斯防キ會社ノ設立ニ際シテ起火ヘキ種種ハ弊害又矯正會社者基盤者確立者各株ニ付キ第一回ノ拂込アリ胎兒トキハ發起人ハ過渡者久保立總會ヲ招集スルニ付キ要ス創立總會ニ關スル規定ニ據人ノ監督シ施不平有利害貪圖コトアリニト夫斯防キ會社ノ設立ニ際シテ起火ヘキ種種ハ弊害又矯正會社者基盤者確立者各株ニ付キ第一回ノ拂込アリ胎兒トキハ發起人ハ過渡者久保立總會ヲ招集スルニ付キ要ス創立總會ニ關スル規定ニ據人ノ監督シ施不平有利害貪圖コトアリニト夫斯

ノ者出席シ其職決權ヲ是字數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス
 創立總會ニ於テノ爲スヘキ事項ハ大別シテ二トスルコトヲ得一、會社ノ設立
 關シ報告ヲ聽クヨト他ハ決議ヲ爲スコト是ナリ以下項ヲ分テテ説明スヘシ
 第一 報告ヲ聽クコト
 (イ) 發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告ス(第1三二條)
 (ロ) 取締役及ヒ監查役ハ(一)株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ(二)各株ニ付キ第百
 二十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ(三)第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタ
 ル事項ノ正當ナルヤ否ヤフ調査シ之ヲ創立總會ニ報告ス(第一三四條第一項)
 取締役又ハ監查役中發起人ヨリ選任セラレタル者アルトキハ創立總會ハ特
 ニ監査役ヲ選任シ其者ニ代リテ以上ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムルコトヲ得
 (第一三四條第二項)
 發起人、取締役又ハ監査役カ創立總會ニ對シ不實ヲ申立テ爲シ又ハ事實ヲ隠蔽
 シタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル發起人カ調査ヲ妨ゲタルト
 キハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル(第二六二條第一款、第二六一條第四款)

第二 決議ヲ爲スコトヲ

總會ノ設立

(イ) 創立總會ニ於テノ取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス(第一三三條)
 發起人ハ會社設立ノ事務ヲ掌ルモノニシテ會社ヲ代表シ其業務ヲ執行スル
 モノニ非ス創立總會ノ終結ニ因リ會社成立シタルトキ取締役及ヒ監査役ヲ
 選任セントスルモ之ヲ爲スヲ得ス故ニ其成立前ニ於テ其選任ヲ爲サシムル
 コトハ新舊商法ノ一致スル所ナリ此他創立總會ニ於テ取締役及ヒ監査役ノ
 選任ヲ必要トル重要ナル理由アリ其理由如何即テ此等ノ者ヲシテ會社ノ
 設立ニ必要ナル行爲ノ完全ニ履行セラレタムヤ否キ發起人ハ會社ノ設立ニ
 付キ不當ノ利益ヲ食ルコトナキヤ否ヤフ調査セシムルコト是ナリ既ニ説明
 セルカ如ク漸次設立ノ場合ニ於テハ發起人ハ其引受ケタル株式ニ付キ株主
 フ裏集スルコトヲ要シ株式總數ヲ引受アリタルトキハ第一回ノ拂込ヲ爲ス
 シムルコトヲ要ス然ルニ時トシテハ發起人ノ惡意又ハ過失ニ因リ株式總數
 ノ引受ナク又ハ第一回拂込ノ未済ナル株式アルニ拘ハラス創立總會ヲ招集
 スルコトアリ此ノ如キハ會社ノ成立ニ障碍ヲ與フ或シテナルカ故ニ創立總

會ニ於テ此等ノ事實ヲ調査會缺點アル精闢ハ此ヲ補充をすがヘ准々ト准更監
起人ハ第百二十二條第三號乃至第五號並第廿八號項又不當立總會之原固
ヲ利益ヲ負フ會社及ヒ他ノ株式引受人メ利益損害シ候夫ニ會社未取引リ
爲ス者ノ利益ヲ害スル弊害アルカ故ニ創立總會于テ此當四ノ調查會不當
ト認ヌタルホキ之ヲ修正セタルヘカラス而シテ此等ノ事項又調査ハ創立
總會本於テ選任シテ取締役及ヒ監査役シテ之ヲ爲ナシタルカニ過甚其至
當ナリ是レ第百五十三號、第百三十四條ノ規定アガ所謂次夫計ノ如ク取
締役及ヒ監査役ヲシテ第百五十四條第一項所掲は事項ヲ調査セシム所也創
立事務ニ欠缺若クハ不當ノ點アル或否ハ明カニスルニ察考シ以若若シ取
締役又ハ監査役中ニ發起人中ヨリ選任セラル者アリタルト准々ト准更監
正確公平ヲ保フ能ハサル處アリ是ヲ以テ第百三十四條第詳項ヘ此ノ如ク場
合ニハ創立總會立於テ特ニ検査役ヲ選任シ調査及ヒ報告ヲ爲シムハコト
アラ許シタリ(第百三十三號第二三四條)蓋實業監査會ニ准々ト准更監
創立總會ニ於テ選任スル取締役及ヒ監査役ノ員數任期等ハ何ニ依リテ定マ

ルヤ抑モ取締役及ヒ監査役ハ株式會社ノ機關ナリ故ニ會社ノ成立前ニ創立
總會ニ於テ選任シタル者ニ會社ノ成立後株主總會ニ於テ選任スル取締役及
ヒ監査役ニ非ナルカ如シ然ナト選モ商法ノ規定上創立總會ノ終結ニ因リテ
會社成立シタル後取締役及ヒ監査役ノ選任ヲ爲スヘキ規定ナキノミナラス
却フ二週間内ニ總テノ取締役及ヒ總テノ監査役ヨリ設立登記ノ申請ヲ爲ナ
ナルヘカラナル規定アリ故ニ創立總會ニ於テ選任スル取締役及ヒ監査役ハ
會社ノ成立後繼續シテ其職務ヲ執行スルモノト謂ハナルヘカラス換言スレ
ハ創立總會ニ於テ選任スル取締役及ヒ監査役ハ將ニ成立セントスル會社ノ
専門タル取締役及ヒ監査役ナリ即テ其員數及ヒ任期ハ商法第百六十五條第
百六十六條、第百八十條ニ依リテ定マムモニト謂ハナルヘカラス唯第百六十
四條第百八十九條ニ依リテ取締役及ヒ監査役ハ株主中ヨリ選任スベキモノノ
ナリ然ルニ創立總會ニ於テ此等ノ者ハ選任スルニ當リテハ株式ヲハ取受クル
者アリセ未ク株主ナル者ナキが故ニ第百六十四條第百八十九條ノ規定
ハ此場合ニ適用ナシ即レ監査會社ニ開催大キ監査ノ中間ノ取締役及ヒ監査役

ヲ選任スルニシテハ法律ノ職務ヲ負担せしム所ガアト解説セシム以テ明文ナシモ
職モ將來株主ト爲シヘキ者即ち株式ノ引受ケタハ者ノ中ヨリ選任スヘキ者
ノナリト謂フニ至當トス此點ニ關シ何等ノ規定ナキハ法律ノ缺點ナラシカ
取締役及ヒ監査役ノ任期ハ何時ヨリ起算スルカ換言スレバ其任期ハ選任ノ
時ヨリ起算スルカ將タ創立總會ノ終結ニ由リノ會社成立ノ時ヨリ起算スル
カ稍ヤ疑アリト謂モ予ハ選任ノ時ヨリ起算スヘキモノカリト解釋セント欲
ス商法ニテハ創立總會ニ於テ取締役及ヒ監査役ヲ選任スレトモ此等ノ者
ハ設立ノ免許アリマテ何等ノ職務ヲ有セス此免許アリタル時發起人ヨリ事
務ノ引渡ヲ受ク商法第一六五條第「六七條」^改商法ニ於テハ取締役及
ヒ監査役ノ任期ハ會社カ設立ノ免許ニ由リテ成立シタル時ヨリ起算スヘキ
モノナリト解スルヲ至當トス之ニ反シ新商法ニ於テハ創立總會ニ於テ選任
シタル取締役及ヒ監査役ハ其資格ニ於テ第百三十四條第一項所掲ノ事項ヲ
調査シ之ヲ創立總會ニ報告スヘキモノナリカ故ニ會社ハ成立シタルシテ
其選任ノ時ヨリ其職務ヲ有シ應テ其任期始ルモノト爲ナシムヘカラス也

フ要スルニ創立總會ニ於テ選任シテハ取締役及ヒ監査役ハ會社成立後株主
總會ニ於テ選任シテ取締役及ヒ監査役ニ比シ其職務廣汎ナルモノトス
(ロ) 定款ノ補足　發起人タ定款ヲ作成スルニ當ル商法第二百三十條第五款及至
第七款ニ掲タル事項ヲ記載セサリシトキハ創立總會ニ於テ之ヲ補充スル
コトヲ要ナルハ既ニ述ヘタル所ナリ第「一二一條」^改商法ニ於テ第百三十一
(ハ) 定款ノ變更　創立總會ニ於テハ定款ノ變更ヲ爲スコトヲ得第一三八條定
款ハ發起人ノ作成スル所ニシテ將來成立スヘキ會社ハ基本ナル規則ニシテ
最モ重要ナルモノナリムナラヌ株式引受人ニ其定款ニ養成シ株式ノ引受
タタルモノナル故ニ創立總會ニ於テ之ヲ變更スルハ謂レナキモノハ如レ
然リト驟モ事情ノ變遷ニ依リ初オ發起人カ定款ヲ作成スルニ當ルテハ適當
力ナシ事項ト雖モ創立總會ノ當時ニ在リテハ不適當ト爲バコトアリ或ハ之
他ニ新シキ事項ヲ定ムルニ付カ必要トスルナリアリ此種類ニ場合ニ於テ
定款ヲ變更シ發起人之ヲ補充スル事項ニ於テ之ヲ會社ハ成立後定款
既ス手續ニ依リ名フ實行セサムベム者ス故ニ創立總會ニ於テ定款ノ變更ヲ

詳スコト 実際ニ於テ最も便宜トス所六點ニ於立總會ニ於大要ハ 説明
 定款ノ變更ニ於テ事務主シテ法律ニ特別ノ規定ヲ設ケタル事項アリ
 第百三十五條ノ規定ニ依ヘバ創立總會ニ於テ第百二十二條第三號乃至第五
 號ニ掲タル事項ヲ不當言認メタルトセハ之ア變更スルコトアリ得但金錢以外ノ財產ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アリ場合ニ於テ之ニ對ジテ與ナル株式ノ數ヲ減シタルトキハ其者ハ金錢ヲ以テ拂込テ爲ズナリナ得金錢以外ノ財產ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル者ハ其出資ニ依リテ定款ニ定メラレタル時數ノ株式ヲ取得シカ爲メ株式ヲ引受ケタル者ナリ然ムニ創立總會ニ於テ其取得スヘキ株式ノ數ヲ減セラレタルトキハ當初ニ株式ヲ引受ケタム意思ニ反シ之ヲ強制スルノ體ナリ是レ法律カ其場合ニ金錢ヲ以テ拂込テ爲スコトアリ許シタル所以ナリ此點ニ關シ或ハ其株式引受人ハ初メ與ヘラレタル株式ノ數ニ對ジ金錢ヲ以テ拂込テ爲メナドテ得ルが如キ處アリ時モ初メ與ヘラレタル株式ヲ成テ定款ノ變更ニ因テ大減少シテ既外成セモノナム本故ニ定款ノ變更ナカラシト同シテ初ミ與ヘラレタル株式ヲ取得シ唯金錢底

外ノ財產ニ換フルニ金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲ストアリ得ナルナリ創立總會ニ於テ減少セラレタル其株式ヲ數ニ削シ金錢ヲ以テ拂込ニシテ是ヲ解釋スルカ如キハ法文上不當ナルシミナラス論理上ニ於テ總算許可ヘキ事項ニ非ス

(二) 設立ノ廢止創立總會ニ於テハ設立ノ廢止ヲ議決スル事項ヲ費第一三八

條是レ舊商法ノ認メサル所ナレトキ事情ヲ變遷ニ依リ物説有望ナル會社事業モ後ニハ全タ成功ヲ望ナキニ至ルコトナシトセス此ノ如キ場合ニ於テ強ラ之ヲ成立セシム後日株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解散ルカ如キハ實際上甚ダ迂遠ナリ是レ新商法カ創立總會ニ與フルニ此決議權ヲ以テセル所以ナラ

漸次設立ノ場合ニ於テハ會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス(第一三九條)

第四 登記
 會社カ創立總會ノ終結ニ因リテ成立シタルトキハ其終結メ登記ヲ行ヒ其本店及セ支店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス其登記スヘキ事

項ハ第百四十一條既掲タル事項立候事項を公表シテ之を要ス其空當大ニ有り
株式會社ノ設立ニ關スル規定ノ説明ヲ終ルニ起て後述試ノ性質上骨牌開會大
ヘシ發起人ハ會社ヲ成立セシムヘキ準備行為ヲ爲スヲ以テ其職務ト爲シ法律
ニ依リ左ノ義務ヲ負擔ス合キモソナリ會員本體ニ關する事立候事項五条第一項
一 株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ遲滞ナク株金ノ四分ノ一ヲ下ラナル第
其一同ノ拂込ヲ爲スヨトモ設立總會典義ニ載候頭點ミ居テ是ノ期限内
ニ之株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ株主ヲ募集スル時水火未滅失外小不實現
三 株式申込證ヲ作成スルコト第ニ此ノ事項ニ依リテ此ノ株式會社ニ於本國
四 此總株ノ引受ヲリタル時キハ遲滞ナク第幾回ノ拂込課爲テシムル由ト畢
五 第一回ノ拂込アリタル外キハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スル時第一三八
六 會社ノ創立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スルコト
七 引受ナキ株式アル小計又ハ第一回ノ拂込既未清付ル株式亦トキ取扱
會株式ノ申込ヲ取消サル時ケルトキハ追帶シテ該株式ヲ引受ケ又ハ其拂込權
性爲スコト取扱シテ該株式ノ出資人目論を實現シテ又得失の有無拂込權

八 創立事務ニ關シ會社ニ對シ損害ヲ與ケタリトキハ之賠償スルノ時
法律オ發起人ニ此ノ如ク嚴重ナル義務ヲ認メタル所以ハ之ニ因リ會社ノ設
立ヲ確實ナラシメ發起人ノ私慾ヲ防キ設立ニ際シ生スル諸種ノ弊害ヲ杜起
シトスルニ在テ是既往ノ經済及社會上ノ影響を盡る事無く又其後之に於
まゝ足
第三章 株主ノ權利義務
第一節 株式
株式ト謂フ語ニハ數多ノ意味アリテ或ハ會社資本ノ一部分ヲ意味シ或ハ株主
カ其一部分ヲ引受タルニトニ因リテ有スル會社ニ對スル地位ヲ意味シ或ハ株主
主カ其資格ニ於テ會社ニ對シテ有スル財產上ノ關係ヲ意味スル謂之アリ茲ニ
ハ先づ會社資本ノ一部ナル株式ニ付テ説明スヘシ即ち資本ニ半額未清付
株式會社ハ資本團體ニシテ株主ハ其資本ヲ組織スル所ノ財產ヲ供出シタル又
務ヲ負ヒ且會社ノ資本ニ干與スルコトノミニ依リテ社員タルノ資格ヲ取得ス
ルモノナリ故ニ社員ハ一人會社ノ資本ニ干與シ得ル所無關體ハ株式會社キ

非ナルト同時ニ批議タ資本供出ノ義務ノ外他ノ種類ノ義務附帶セテ其種類スルモノハ未タ株式會社ニ非ナルナリコトヲ得ル者モ自ラ直接ニ會社ニ對シテ此等ノ目的ハ金錢ノミニ限ラス其他ノ財產並取扱目的ト爲ニコトヲ得ヘシ其何レノ場合タルヲ問ハス株主カ會社ノ資本ニ干與スル程度ハ定款ニ依リテ定マレ會社資本ノ單位ニ依リテ定ナル是モトス此單位ヲ株式ト稱ス商法第百四十三條ニ株式會社ノ資本ハ株式ニ分シコトヲ得ル云々ハ之ニ該當ス

株式ハ資本ノ單位ヲ爲スモノナルカ故ニ其金額ノ均一ナルコトヲ要ス商法第百四十五條ニ依レハ株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス此ノ如ク法律ノ規定ヲ以テ株式ノ金額ノ最少額ヲ定メタル立法上ノ理由ハ之ニ依リテ株式會社ノ基礎ヲ堅固ニシ種種ノ弊害ヲ豫防セントスルニ在リ蓋シ株式ノ金額ヲ定メ少額ナルコトヲ許ストキハ株式會社ノ性質ヲ知ラナル者ノ間ニ難解シテ會社ノ基礎ヲ危クシ利益少々且危險少々カ故ニ株主カ事業ニ熱心ナラムシテ株式ヲ授機ノ具ニ供スルコトアルヲ以テナリ立法ノ理由をシテ果シテ先等ノ危險

ヲ避ケ弊害ヲ防ガム在アトゼハ之ニ付ギ取テ例外ノ規定ヲ設ケルノ必要ナシト雖モ立法者ハ一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ於テハ授機ノ目的ニ之ヲ供スルノ處妙シト認メ其金額ヲ二十圓ヲ下スコトヲ許シタリ株式ヲ頼面以上ノ金額ニテ發行スルコトハ法律ノ禁止スル所ニ非ス(第一四五條)

株主ハ一箇又ハ數箇ノ株式ヲ有スルコトヲ得レトモ一箇ノ株式ヲ分割シテ其一部ヲ有スルコトヲ得アルナリ是レ株式ハ資本ノ單位ナリト云フコトヨリ生スル當然ノ結果ナリ之ト同一ノ理由ニ依リ數箇ノ株式ヲ併合シテ一箇ノ株式ト爲スコドヲ得ス數箇ノ株式ニ付ギ一通ノ株券ヲ發行スルコトハ株式ノ併合ニ非ス又株主ハ第三者ヲシテ自己ノ株式ニ與カラシムルコトハ株式ノ分割ニ非ス此後ノ場合ニ於テ其法律行為ハ第三者トド株主トノ間ニ債權債務ノ關係ヲ生スルニ止マリ會社ニ對シテ何等ノ效果ヲ生セナルカリ故ニ第三者ハ株主ニ對シ其得タル利益又ハ會社財産ノ引渡チ要求スルコトヲ得ルモ自ラ直接ニ會社ニ對シテ此等ノ權利ヲ行使スコトヲ得テハモノトスノ異文ニ關スルハシトス株式ノ其有権付スハ舊商法中明記ニ之ニ關スル規定ヲ設ケテナシト勝セ成ハ

達並相繼并因別或ハ組合契約因リ一箇ノ株式が數人間ニ共有セラルコトアリ故ニ此ノ如キ場合ニ於タル株主ノ権利義務ニ付キ規定ヲ設クルコト極メノ必要ナリ新商法第百四十六條ハ「株式ノ數人人共有ニ属スルトキハ共有者ハ株主ノ権利ヲ行バキ者一人ヲ定ムルコトアリ要ス」^{アリ}共有着ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負スト下規定セリ株主ノ権利義務ニ付キ規定ヲ設クルコト極メノ必要ナリ新商法第百四十六條ハ「株式ノ數人人共有ニ属スルトキハ共有者ハ株式人金額ハ増減スルコトアリ得ルヤ株式人金額ハ一定スルヲ要ス然レトモ之ヲ變更スルコトハ絕對的キ許サズルモ然ニ非ス先づ株金ノ增加ニ付キ説明スヘシ當該株主ノ拂込セリ」^{アリ}且由ニ拂込後即ち連帶、株式ノ権利セリ

數個ノ株式ヲ併合シテ一人株式ト爲スコトアリ株式ノ金額人均一二低額セラル限リ之ヲ爲スコトアリ得株式ノ金額ハ定款ニ依リヲ定マル故ニ株式ノ併合ヲ爲ス于ハ定款變更ノ手續ニ依ラズナルヘカラス然ラスハ株式ノ併合ニ依ラシテ株式ノ金額ヲ增加スルコトアリ得ルヤ株式ヲ併合シテ株金ヲ增加スル場合ニハ資本ノ總額ニ影響ヲ及ホナズト雖モ併合ニ依ラスシテ株金ヲ增加スル場合ニハ資本ヲ增加スル結果ト爲ケ故ニ後ノ場合ニ於ケル株金ノ增加ハ資本增加ノ方

出資額ノ變動ノ事項ハ當初猶可ト但後期に於ケル出資額ノ變動は當初猶可ト

雜
記

出資額ノ變動ノ事項ハ當初猶可ト但後期に於ケル出資額ノ變動は當初猶可ト

○商業帳簿ノ證據力ハ商人ハ商業帳簿ヲ備用之ニ日日取引其他財產ニ影響ヲ及ホスヘキ一切ノ事項ヲ整然且明瞭ニ記載スヘキハ商法ノ命スル所ナリ商法第二五條乃至第二七條而シテ其帳簿ハ其帳簿閉鎖ノ時ヨリ十年間之ヲ保存セヅルヘカラス(同第二八條若シ之ヲ破産宣告ヲ受ケタル者カ偽造變造ヲ爲セハ詐欺破產ノ刑ニ處セラル)又秩序ナク記載シ遺失シ毀滅シ又ハ全ク記載セサルトキハ過怠破產ノ刑ニ處セラルヘシ破産法第一〇五〇條第一〇五一條此帳簿ハ裁判上證據トシテ如何ナル效力アルカ大審院ハ斷定シテ曰ク「法令ノ命スル所ニ依リ設備スル商業帳簿ト雖モ裁判所カ證據ニ依リ其記載ニ誤認アルコトヲ認メタル上ハ其記載ノ訂正セラルト否トニ關セス證據力ナキモノトシテ之ヲ排斥スルコトアリ得ベキハ固ヨリ論ヲ俟タス」^{ト(大審院官明治三十五六年記載金及決算金取算請求事件明治三十六年六月二日第一民事部判決)}

○清算ト未拂出資ノ取立

合名會社又ハ合資會社ノ清算ニ際シ未タ拂込ワ

終ラナル出資アルトキハ清算人ハ無條件ニ其拂込ヲ請求スル事トテ得ルカ(商法第五四條、第七〇條第一號第九一條第一項第二號、第一〇五條民法第六六七條、第六六九條、舊商法第九三條第九五條、第一一三〇條第一一三七條參照)此實際問題ハ舊商法ノ適用ヲ受クヘキ問題トシオ大審院ノ判斷ニ上リテナシムシテ大審院ハ原審タル大阪控訴院カ(會社カ社員ニ對シ出資金ヲ拂込ラ未ス)清債權ハ會社ノ有スル通常債權ト同一視スルコト能ハス左レハ清算人(會社員ニ對シ其出資金ヲ拂込マシメントスルニ當ラ)テハ通常債權ヲ取立フ爲ス場合ト異ナリ必ス清算ノ爲ス必要ナル事由ヲ明示セサルヘカラスト)説明シタルヲ破毀シテ曰ク(原院ノ引用シタル第二審判決事實ノ摘要並ニ被上告人(會社員ニ於テ陳述シタル所ニ依レハ被上告人ハ舊商法ニ依ル合資會社社員トシテ拂清期ニ在ル出資義務ヲ有スルコトヲ認ヌ)是上告人ハ債務ノ整理ヲ爲サガル爲ス其出資ノ支拂ヲ爲スヲ要スル場合ナル否未定力失ヒト理由ヲ以テ請求モ應セシムモノナレハ其抗辯ハ清算ノ爲ニスル本訴ノ請求ニ對スルモノトシテ採用スルコト能ハナルモノトス何トナレハ社員ノ出資義務ト雖モ會社解散ノ當時既ニ拂清能ハナルモノトス

期ニ在ルモノハ其清算ニ付テハ純然タル會社ノ債權ニ屬スルカ故ニ清算人ハ會社ノ債務ヲ償却スルニ付キ必要ナルキ否ヲ問ハス先ツ其拂濟ヲ爲シムシキコトハ舊商法第百三十條ニ謂フ(未收債權ノ行用ナルヨリノ攝外ナラシムハナリト)大審院明治三十六年(子第十九十八)八月十八日第一民事部判決(請受他ヲ判決主)曰ク「本訴ノ金額ハ新商法施行以前ニ設定シタル直江津物產合資會社が未タ解散セナル前ニ於テ上告人カ出資ノ催告ヲ受ケルハ拘ハズ(其出資ヲナリシモノナルコトハ原判決ニ於テ確定シタル事實ナレハ即チ會社の債權ニ外ナラアルコト明カナル)ヲ以テ商法施行法第三十八條ニ據テ舊商法第百三十七條及ヒ第三百三十九條ノ規定ヲ適用スヘキモノトス故ニ清算人カ未收ノ債權ヲ行用スルニ當リ現存ノ財產ヲ以テ債務ヲ拂濟スルニ是ラナル事實ヲ真證スルノ事例カアルトハ云々ト(大審院明治三十六年(子第十二年五月二十三日)會社出資金證拠書)又○舊爲替契約ニ於ケル手形ノ性質(即所謂舊爲替契約ニ於ケル爲替手形ハ即何ナル性質ヲ有スルカ)大審院ハ本問(即說明シテ日本者現今我國ニ行ハル以舊爲替ト稱スルモノハ舊主カ關地者ニ對シ物品貰還付衣加東方ノ銀行ヨリ代金を

融通ヲ得ル方法トシテ使用スルモニ例ヘハ貨物引換證券船荷證券ノ如シ並ニ荷爲替手形カ不拂トナルトキハ銀行ハ物品ヲ處分シ代金ヲ以テ辨済ヲ受クガヨドア得ヘキ旨及ヒ其滅失若クハ運送人ノ行爲ニ因リ銀行カ之ヲ處分シテ辨済ヲ受クルコト能ハサルニ至ル等ノ場合ニ於テハ辨済ヲ爲ス責ニ任スル旨ヲ特約セバ證書ヲ爲替手形ニ添ヘテ銀行ニ交付シ銀行ハ之ニ依リ其相當ヲ認ムル金圓ヲ貸出スモノトス故ニ爲替手形ト稱スルモノハ荷主カ荷受人ニ對シ手形受取人タル銀行ノ指圖ニ依リ記載ノ金額ヲ支拂ハシムルコトア委託スル爲メニ存シ其手形ニ添附シタル貨物證券及ヒ副證ハ銀行ヲシテ貸出金ノ取立ヲ確實ナラシムル爲メ銀行ニ交付スルコト當事者ノ意思ニシテ爲替手形ハ流通證券トシテ發行スルモノニ非ス從フテ其受取人ナム銀行カ他ノ銀行ニ裏書ヲ爲スコトアルモ其趣旨タル手形記載ノ金額ヲ取立シ委託スルヲ以テ通例トシ權利ノ移轉ヲ目的トスルヨニ在ラヨ(大審院明治三十六年六月廿日第一號審判附從法第十九條)ハ其前項ニ付キハ當然ニ本會社ノ對外上關係トシテ本會社ノ

融通ヲ得ル方法トシテ使用スルモノニシテ荷主ハ物品運送人ノ發シタル證券ニシテ其領收ニ要スルモノ例へハ貨物引換證券船荷證券ノ如シ並ニ荷爲替手形カ不拂トナルトキハ銀行ハ物品ヲ處分シ代金ヲ以テ辨済ヲ受クルコト能ハサルニ至ル等ノ場合ニ於テハ辨済ヲ爲ス責ニ任スル旨ヲ特約セル證書ヲ爲替手形ニ添ヘテ銀行ニ交付シ銀行ハ之ニ依リ其相當ト認ムル金圓ヲ貸出スモノトス故ニ爲替手形ト稱スルモノハ荷主カ荷受人ニ對シ手形受取人タル銀行ノ指圖ニ依リ記載ノ金額ヲ支拂ハシムルコトヲ委託スル爲メニ存シ其手形ニ添附シタル貨物證券及ヒ副證ハ銀行ヲシテ貸出金ノ取立ヲ確實ナラシムル爲メ銀行ニ交付スルコト當事者ノ意思ニシテ爲替手形ハ流通證券トシテ發行スルモノニ非ス從フテ其受取人ナル銀行カ他ノ銀行ニ裏書ヲ爲スコトアルモ其趣旨タル手形記載ノ金額ノ取立ヲ委託スルヲ以テ通例トシ權利ノ移轉ヲ目的トスルモノニ在ラスト(大審院明治三十六年オ)第百六十一號(舊爲督附從民法部)判決

◎學生募集廣告

本校ハ今般文部大臣ノ認可ヲ經テ大學組織ト爲シ校名ヲ法政大學ト改メ諸般ノ改革ヲ施シ校舍ヲ改築セリ詳細ハ學則ニ就テ知ルヘシ

○專門部入學試驗

本ル十月一日午前八時ヨリ施行バ

○高等研究科

本ル十月新學年授業開始
右入學志願者ハ至急申込ムヘシ

○校 外 生

本大學三十七年度講義集新學年ノ開始ニ際シ
校外生ヲ募集ス入學志願者ハ此際申込ムヘシ

●採用額ハ之ヲ三學年ニ分メ各學年其來ル月初號費用毎月三回發行第一箇年ヲ以テ完結ス
●月賃金ハ各學年共金五拾錢、但官公衙在職者(證明書ヲ要ス)ハ金四拾五錢、餘ヲ入學金ヲ要セス
各學年採用科目及ヒ擔任教師其他詳細ハ改正規則ニ就ク知ルヘシ

九 月 立 法 政 大 學

文部省指定 私

法學志林

第四十七號

五月十七日發行

- 法學志林六十二号 法學志林 楊 聰 大司

志林

- 舊文稿へ贈答 法學志林 清木 沈

解説

- 讀書會讀書會一書(著者) 法學士 加藤 正治

漫評

- 引取らる事引取らる事(著者) 法學志林 清木 沈

判例

- 通商委員会の決議(件) 法學志林 清木 沈

雜報

- 新規登録 法學志林 清木 沈

記事

- 法政大學ノ紹介 法學志林 清木 沈

發行所 立法政大學

發行所

東京市麹町区富士見町八丁目四十五番
和尙院前

販賣部